



Title	2018～2021年度 宇宙に関するインターネット世論調査報告書
Author(s)	公共圏における科学技術・教育研究拠点
Citation	2018～2021年度 宇宙に関するインターネット世論調査報告書. 2022, p. 1-78
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/89262
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

**2018～2021年度
宇宙に関するインターネット世論調査
報告書**

公共圏における科学技術・教育研究拠点（STiPS）

2022年3月

目次

はじめに	…p.2
第1章 調査概要	…p.3
第2章 調査結果：2018～2021年度の経年比較	…p.13
第3章 調査結果：2018年度調査	…p.19
第4章 調査結果：2020年度調査	…p.35
第5章 調査結果：2021年度調査	…p.57
おわりに	…p.78

本報告書は、以下の「公共圏における科学技術・教育研究拠点」が株式会社マクロミルの協力を得て、2018年度から2021年度にかけて実施した、宇宙に関するインターネット世論調査の結果をまとめたものである。

「公共圏における科学技術・教育研究拠点（Program for Education and Research on Science and Technology in Public Sphere: STiPS）」は、大阪大学および京都大学の連携による人材育成プログラムである。文部科学省の科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業の一環として、2012年1月に発足した。STiPSでは、科学技術の倫理的・法的・社会的課題（ELSI）に関する教育と研究を行い、政策形成に寄与できる「政策のための科学」の人材育成を進めている。

2019年度から2020年度には、STiPSの大阪大学メンバーを中心として、共進化実現プロジェクト「国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）の歴史・現状・未来像に関する研究：政府と民間の関係に焦点を当てて」（研究代表者：渡邊浩崇・大阪大学COデザインセンター）を実施した。このプロジェクトは、JAXAの宇宙分野がこれまで求められてきたこと、そして今後、求められることを、政府と民間の関係に焦点を当てて検証したものである。研究手法として、文献調査・資料収集、国内外の政策実務者（行政担当者）・研究者・民間企業や一般の人々との意見交換（対話）・研究会・ワークショップ等を、効果的に組み合わせて行った。

こうした研究活動の一環として、この宇宙に関するインターネット世論調査を2018年度（2019年3月）、2020年度（2020年12月）、2021年度（2022年1月）に計3回、実施した。一般の人々が、日本の宇宙計画や宇宙活動、それに取り組んでいるJAXA、そしてそれらに関する政策（宇宙政策）に関して、どのような考えを持っているのか、さらにそうした考えに時間の経過によって変化があるのかを、できるだけ明らかにすることが目的であった。

以上の目的を達成するには、専門的な知識や技術が必要とされ、時間や経費、手間暇もかかり、この宇宙に関するインターネット世論調査のみではさまざまな限界がある。しかしながら、一つの資料（データ）として、多くの人々に見ていただける形にしておくことに大きな意義があると考えている。興味や関心のある方々に参考にしていただければ幸いである。

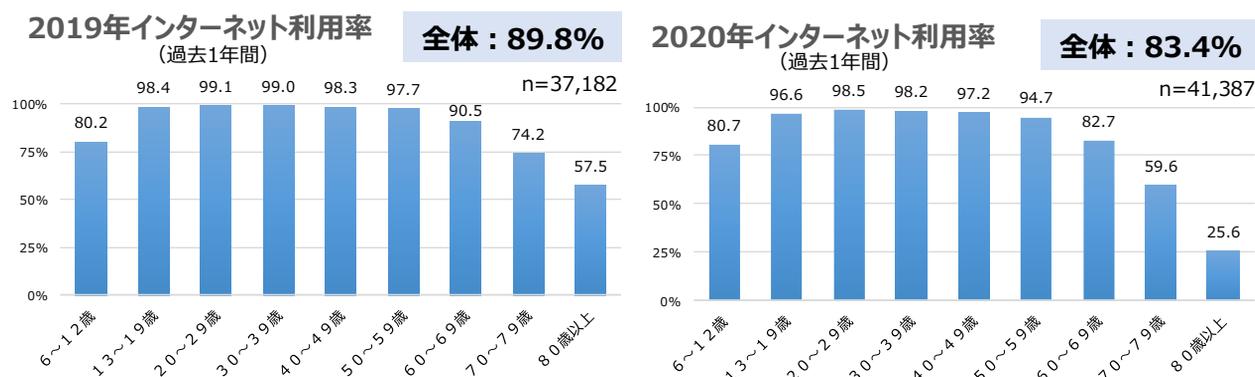
渡邊 浩崇（大阪大学COデザインセンター 特任教授）

第1章 調査概要

1. 調査手法について

- ◆ 約1億2,500万人の日本国民の宇宙に関する見解を得るため、インターネットリサーチを用いて調査を行い、マクロミルモニタ約130万人の中から1,100人の有効回答を得た。インターネットリサーチとは、アンケート会員に対してメールなどを用いてアンケートを配信し、Web上で回答をする世論・市場調査の手法の1つである。
 ※2021年度調査は1,101人
 ※有効回答数を得られるまで順次配信を行うため、調査ごとに配信数は異なる。
 ※配信数と有効回答数の比率が異なる場合でも、有効回答数の数値が同じであれば分析への影響はほとんどないと言える。
- ◆ 1,100人の回答は、北海道から九州地方までのエリアと性年代ごとの人口構成比に合わせて回収した。
- ◆ 調査ごとの割付は調査概要のページに詳細を記した。
 ※10代はマクロミルの規定により15歳以上を回収。
- ◆ マクロミルモニタ1,100人を母集団とした際、本調査結果は±3.0%未満の標本誤差が生じる。(※95%の信頼度)
- ◆ 日本国民全体の標本調査として郵送調査を用いた場合、インターネット利用の有無に影響されず調査可能である。しかし、郵送調査では費用や調査期間の面で限界があるため、インターネット調査を用いた。総務省の「通信利用動向調査」によると、国内のインターネット利用率は2019年で89.8%、2020年で83.4%であり、ある程度の人口をカバーできているため結論に大きな影響はないと考えられる。
 なお、70代以上の高齢者層は他の年代よりインターネット利用率が低くなっており、傾向を知る上ではインターネット調査では限界がある。
 ※総務省「通信利用動向調査」の2021年の調査データは、2022年3月時点では公表前のため非掲載。

(出典) 総務省「通信利用動向調査」
<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/statistics05.html>



※総務省「通信利用動向調査」のデータを元にグラフを作成した。

2. 報告書の記載について

2-1. グラフに記載のスコア（数値）間の有意差について

- ◆ 2018～2021年度の経年比較については各年度間、また各年度調査結果については男女間・年代間の比率の差の検定をかけて有意差の有無を確認し、その結果に基づき有意差があるものに対してコメントを記載している。※有意水準5%（95%の信頼度）また、回答の選択肢のTOP3、TOP2、BTM 2の数値についても、有意差があるものに対してコメントを記載している。
- ◆ 各グラフや数表に対するコメントは小数点第一位を四捨五入して記載している。
- ◆ 検定は、調査実施機関（株式会社マクロミル）の提供する集計ソフトで行った。

2-2. 回答形式について

- ◆ 回答形式は以下の4つのいずれかであり、各設問文にそれぞれ記載している。

単一回答：複数の選択肢の内、1つのみ選択可 **複数回答**：複数の選択肢の内、複数選択可

数値回答：回答を数値で記載 **自由回答**：回答を単語や文章で自由に記載

2-3. 数表中の色付けについて

n=30以上の場合

[比率の差]	
	全体 +10ポイント
	全体 +5ポイント
	全体 -5ポイント
	全体 -10ポイント

- ◆ 回答者全体（あるいは集計ベース）の結果と比率の差が±5ポイントまたは±10ポイントのスコアには、左図のように色付けを行っている。
- ◆ 30サンプル未満の軸については誤差が大きいため参考値扱いとして色付け対象外としている。

3-1. 調査概要（2018年度調査、2019年3月実施）

- ◆ 調査対象： マクロミルモニタ 15歳以上の男女
- ◆ 調査地域： 全国
- ◆ 調査方法： インターネットリサーチ
- ◆ 調査時期： 2019年3月7日（木）～3月10日（日）
- ◆ 配信数： 8,855サンプル
- ◆ 有効回答数： 1,100サンプル*
- ◆ 対象者職業： 不問（調査業・広告代理業を除く）
- ◆ 調査実施機関： 株式会社マクロミル

* 有効回答数詳細

【割付】

		居住地							合計	
		北海道	東北地方	関東地方	中部地方	近畿地方	中国地方	四国地方		九州地方
性年代別	男性10代	2	3	10	6	6	3	2	4	36
	男性20代	3	5	23	11	10	4	2	7	65
	男性30代	4	6	28	14	12	5	3	9	81
	男性40代	4	6	33	17	15	6	3	9	93
	男性50代	4	6	25	14	12	5	3	9	78
	男性60代以上	9	14	56	33	28	12	7	20	179
	女性10代	2	3	10	6	6	3	2	4	36
	女性20代	3	4	21	11	10	4	2	7	62
	女性30代	4	6	26	13	12	5	3	9	78
	女性40代	4	6	31	16	15	6	3	10	91
	女性50代	4	6	24	14	12	5	3	9	77
	女性60代以上	11	18	66	41	37	15	9	27	224
合計		54	83	353	196	175	73	42	124	1100

※2015年の人口構成比に合わせて目標数を設定し回収

3-2. 調査概要（2020年度調査、2020年12月実施）

- ◆ 調査対象： マクロミルモニタ 15歳以上の男女
- ◆ 調査地域： 全国
- ◆ 調査方法： インターネットリサーチ
- ◆ 調査時期： 2020年12月8日（火）～12月9日（水）
- ◆ 配信数： 17,596サンプル
- ◆ 有効回答数： 1,100サンプル*
- ◆ 対象者職業： 不問（調査業・広告代理業を除く）
- ◆ 調査実施機関： 株式会社マクロミル

* 有効回答数詳細

【割付】

		居住地							合計	
		北海道	東北地方	関東地方	中部地方	近畿地方	中国地方	四国地方		九州地方
性年代別	男性10代	2	3	10	6	6	3	2	4	36
	男性20代	3	5	23	11	10	4	2	7	65
	男性30代	4	6	28	14	12	5	3	9	81
	男性40代	4	6	33	17	15	6	3	9	93
	男性50代	4	6	25	14	12	5	3	9	78
	男性60代以上	9	14	56	33	28	12	7	20	179
	女性10代	2	3	10	6	6	3	2	4	36
	女性20代	3	4	21	11	10	4	2	7	62
	女性30代	4	6	26	13	12	5	3	9	78
	女性40代	4	6	31	16	15	6	3	10	91
	女性50代	4	6	24	14	12	5	3	9	77
	女性60代以上	11	18	66	41	37	15	9	27	224
合計		54	83	353	196	175	73	42	124	1100

※2015年の人口構成比に合わせて目標数を設定し回収

3-3. 調査概要（2021年度調査、2022年1月実施）

- ◆ 調査対象： マクロミルモニタ 15歳以上の男女
- ◆ 調査地域： 全国
- ◆ 調査方法： インターネットリサーチ
- ◆ 調査時期： 2022年1月14日（金）～1月17日（月）
- ◆ 配信数： 11,724サンプル
- ◆ 有効回答数： 1,101サンプル*
- ◆ 対象者職業： 不問（調査業・広告代理業を除く）
- ◆ 調査実施機関： 株式会社マクロミル

* 有効回答数詳細

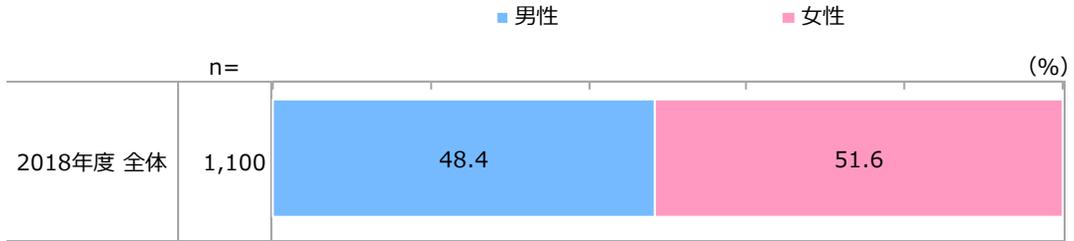
【割付】

		居住地							合計	
		北海道	東北地方	関東地方	中部地方	近畿地方	中国地方	四国地方		九州地方
性年代別	男性10代	2	3	10	6	5	3	2	4	35
	男性20代	3	4	23	11	10	4	2	7	64
	男性30代	3	5	26	13	11	4	3	8	73
	男性40代	4	6	32	16	14	6	3	9	90
	男性50代	4	6	29	15	13	5	3	9	84
	男性60代以上	9	15	58	34	29	12	7	21	185
	女性10代	2	3	9	6	5	2	2	4	33
	女性20代	3	4	22	10	10	4	2	7	62
	女性30代	4	5	24	12	11	4	3	8	71
	女性40代	4	6	31	16	15	6	3	10	91
	女性50代	4	6	27	15	14	5	3	9	83
	女性60代以上	12	18	70	42	37	15	9	27	230
合計		54	81	361	196	174	70	42	123	1101

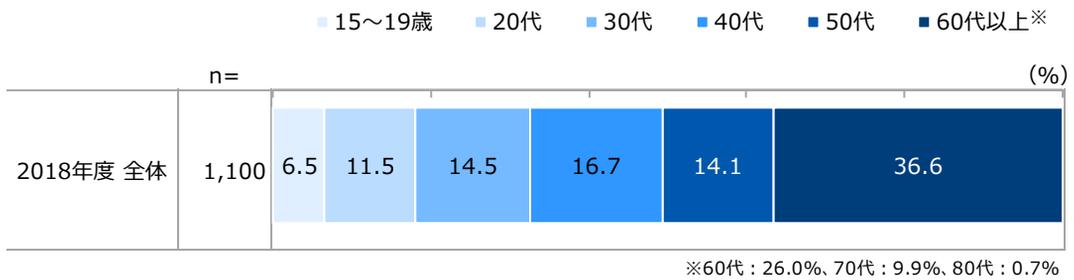
※2020年の人口構成比に合わせて目標数を設定し回収

4-1. 回答者属性（2018年度調査、2019年3月実施）

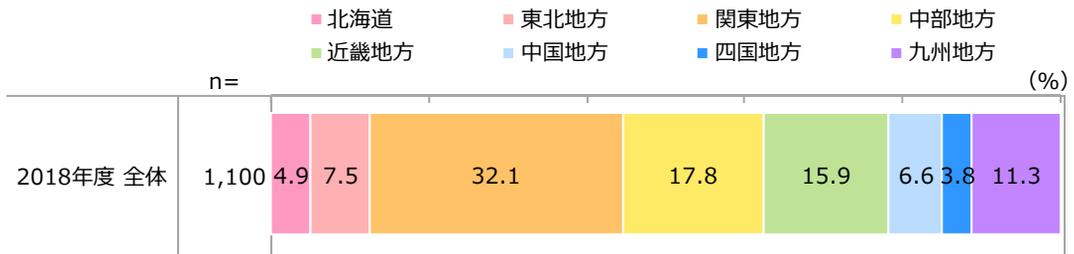
性別



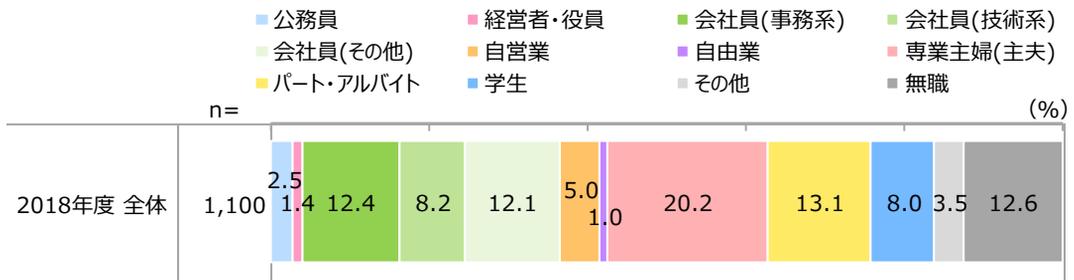
年代



居住地



職業

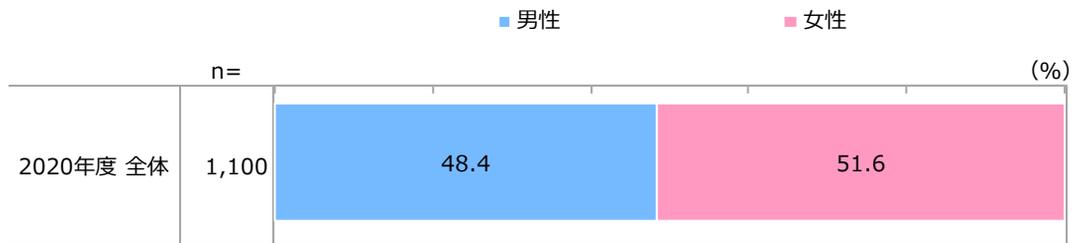


世帯年収

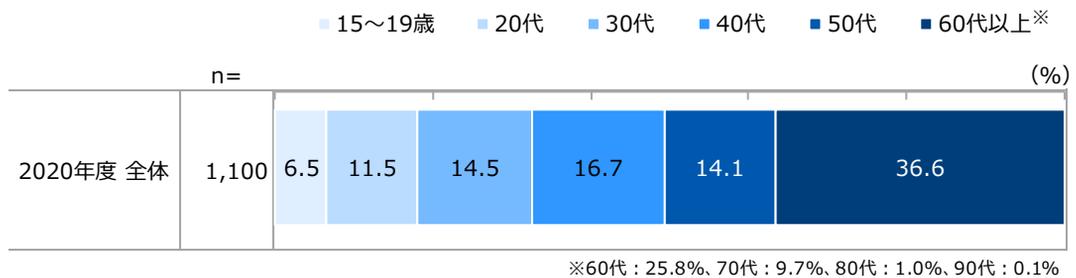


4-2. 回答者属性（2020年度調査、2020年12月実施）

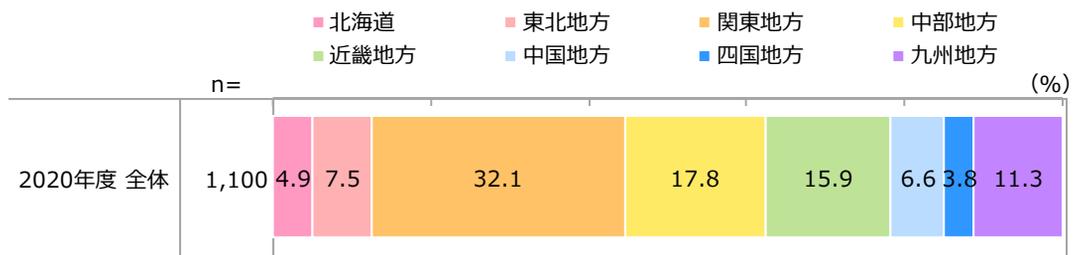
性別



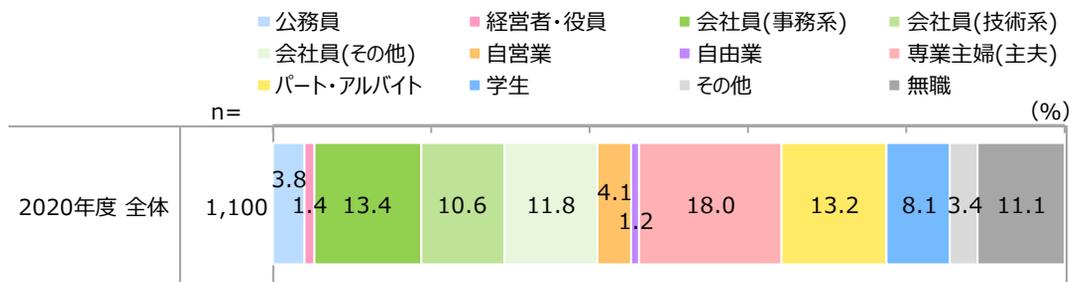
年代



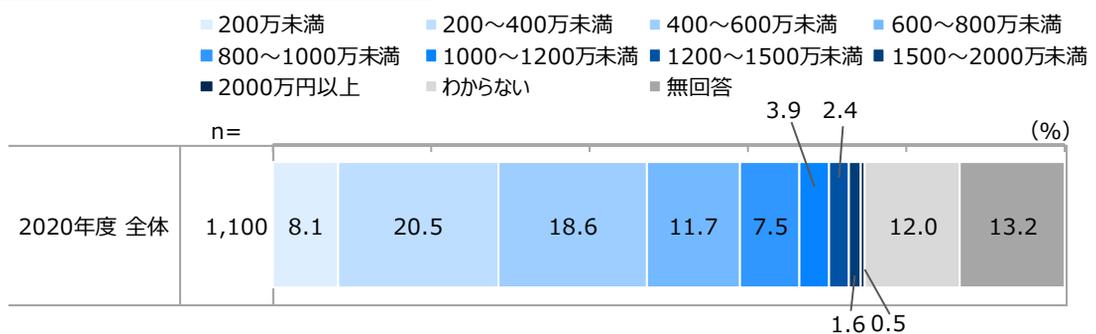
居住地



職業

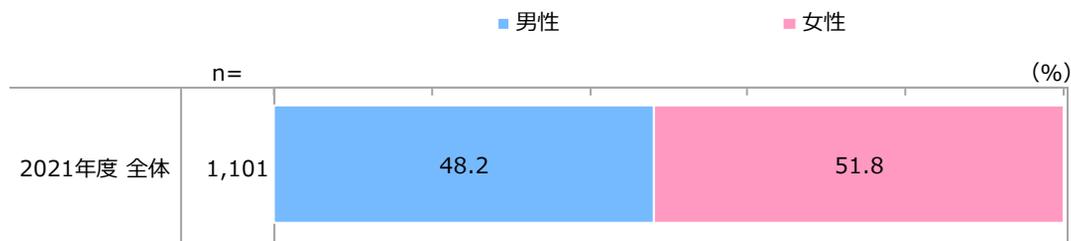


世帯年収

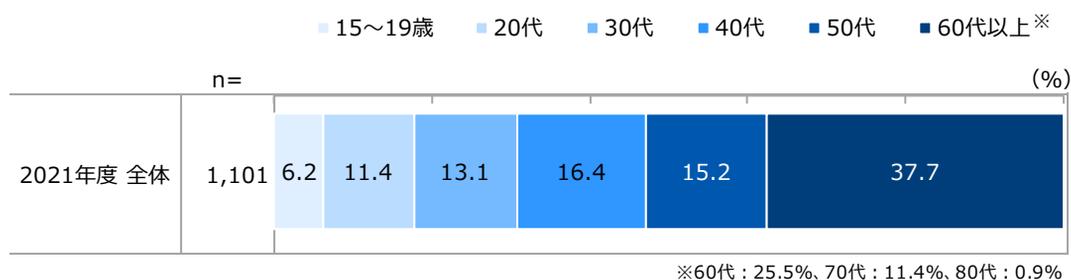


4-3. 回答者属性（2021年度調査、2022年1月実施）

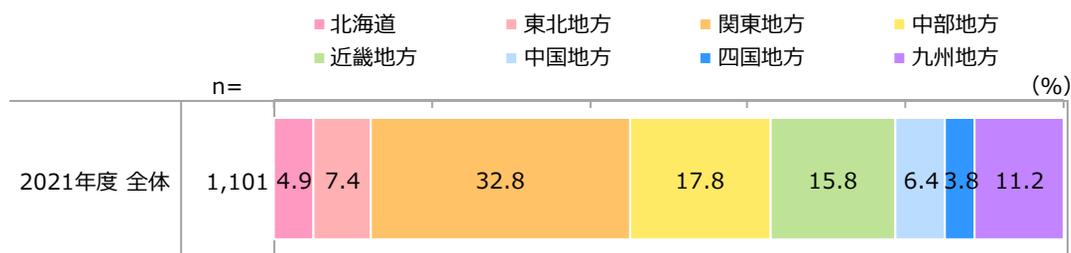
性別



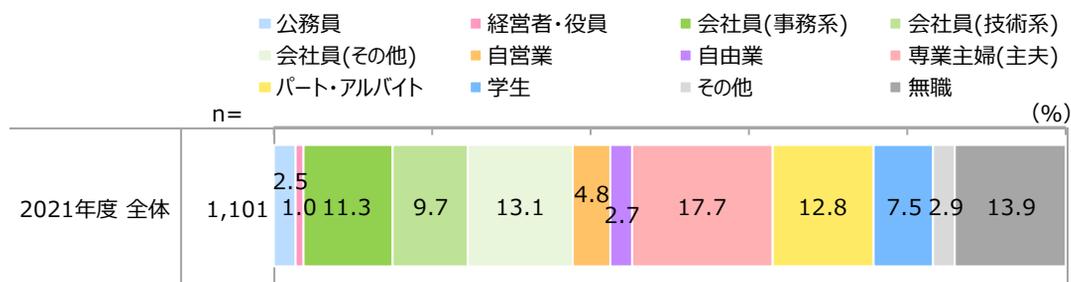
年代



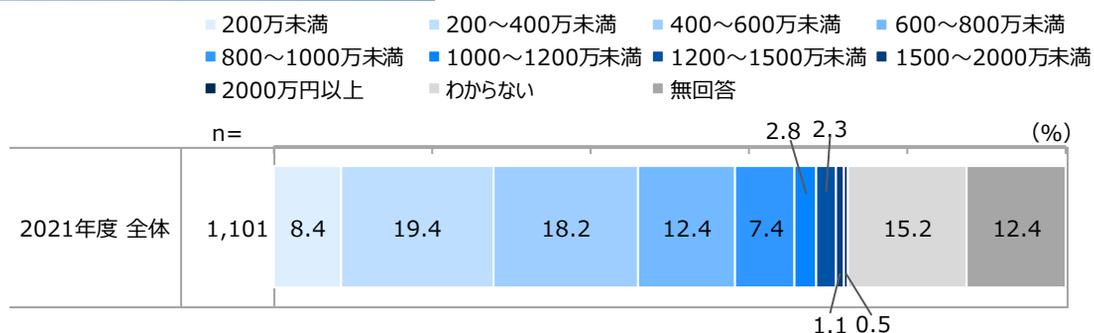
居住地



職業



世帯年収



第2章 調査結果

2018～2021年度の経年比較

第2章 調査結果：2018～2021年度の経年比較

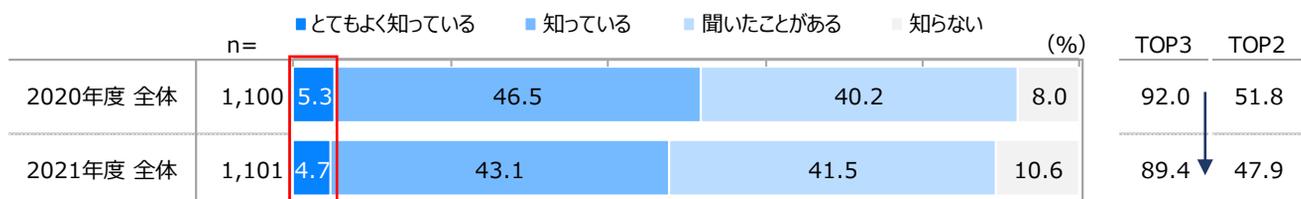
第2章では、2018年度調査、2020年度調査、2021年度調査で同一内容を聴取している設問について、全体値の経年比較結果を掲載する。

※経年比較の設問番号は2021年度調査のものを記載。

1. JAXAの認知度

Q1 日本の宇宙航空研究開発機構（JAXA、ジャクサ）を知っていますか。(単一回答)

- ✓ 認知度はTOP3※で見ると約90%。21年度の認知度は20年度から微減した。
- ✓ 「とてもよく知っている」と回答した人は約5%である。

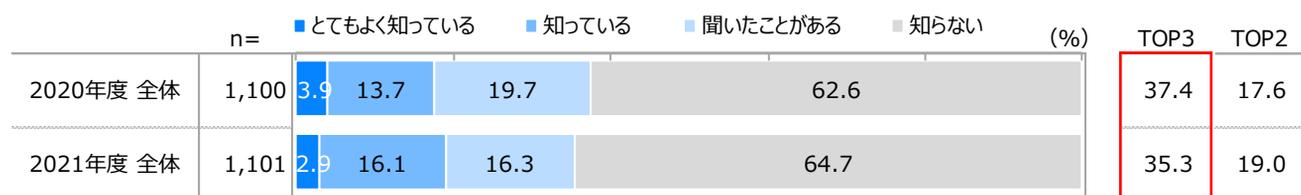


※TOP3：「とてもよく知っている」～「聞いたことがある」 ※TOP2：「とてもよく知っている」+「知っている」

2. JAXAが中央省庁ではないことの認知度

Q7 JAXAが、文部科学省などの中央省庁ではなく、国立研究開発法人（政府の事業の一部を実施する独立行政法人の一つで、主に研究開発を行うもの）であり、JAXAで働いている役員・職員は国家公務員ではないことを知っていますか。(単一回答)

- ✓ 認知度はTOP3※で見ると40%弱で、20年度と21年度はほぼ同じである。



※TOP3：「とてもよく知っている」～「聞いたことがある」 ※TOP2：「とてもよく知っている」+「知っている」

3. JAXAを中央省庁にした方がよいと思うか

Q8 JAXAは現在、国立研究開発法人ですが、たとえば「宇宙庁」などの中央省庁の一つにして、役員・職員は国家公務員にした方がよいと思いますか。(単一回答)

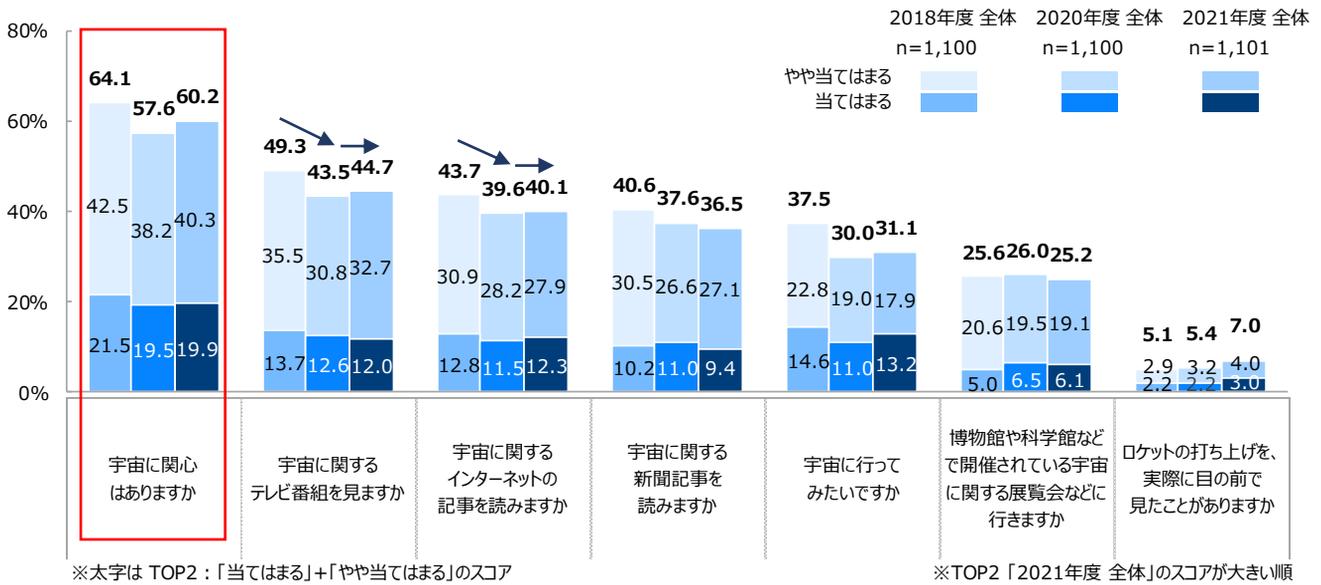
- ✓ 「とてもそう思う/そう思う」と回答した割合は合わせて30%前後であり、21年度は20年度と比較すると微増している。（選択肢の粒度が異なるため参考値。）



4. 宇宙に関する関心

Q9 それぞれの項目について、「当てはまる」から「当てはまらない」の5段階でお答えください。(単一回答)

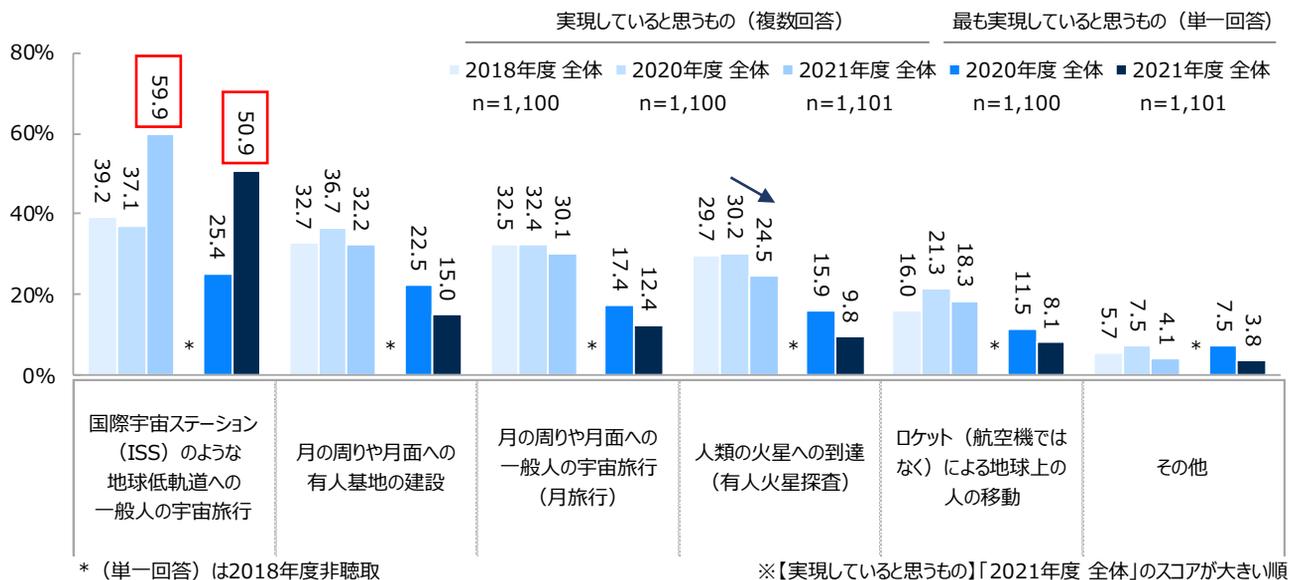
- ✓ 宇宙への関心を持っている人の割合は60%前後である。
- ✓ 項目ごとにみると、「宇宙に関するテレビ番組を見る」「宇宙に行ってみたい」については、18年度から20年度でスコアが低くなり、21年度は横ばいである。



5. 2030年頃の宇宙探査や宇宙活動

Q10 今から約10年後の2030年頃、それぞれの宇宙探査や宇宙活動は実現していると思いますか。(複数回答/単一回答)

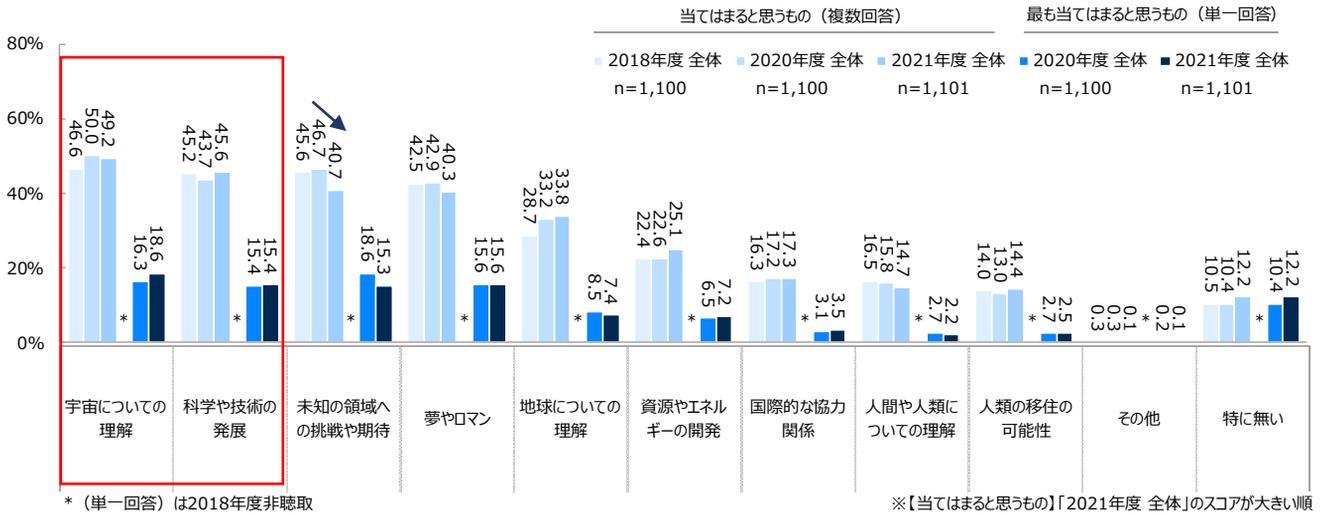
- ✓ 2030年頃に実現していると思う活動について、21年度は「国際宇宙ステーションのような地球低軌道への一般人の宇宙旅行」が突出している。2021年に民間人の宇宙旅行が次々と実現したことも起因していると考えられる。
- ✓ 一方、「人類の火星への到達」は21年度で減少している。



6. 宇宙科学探査の成果

Q11 これまでの宇宙科学探査（日本では小惑星探査機「はやぶさ1号・2号」や月周回衛星「かぐや」など）は、どのような成果をもたらしたと思いますか。（複数回答/単一回答）

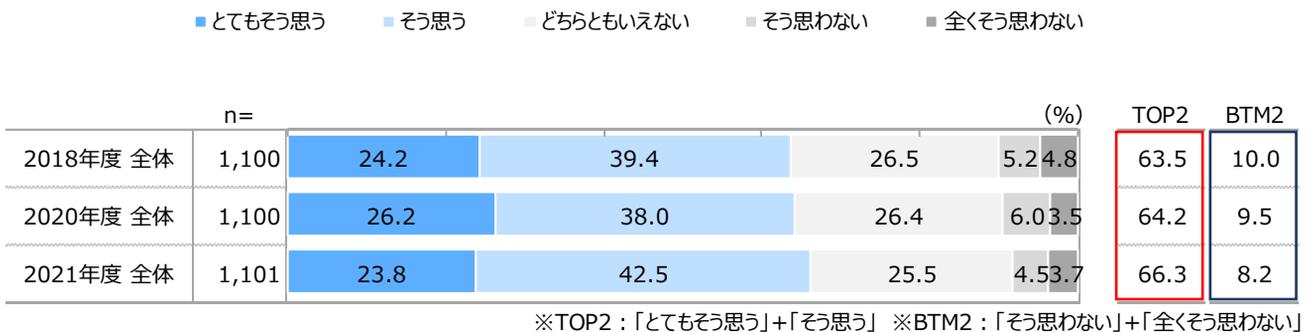
- ✓ 宇宙科学探査がもたらした成果としては、「宇宙についての理解」「科学や技術の発展」が上位。
- ✓ 一方「未知の領域への挑戦や期待」は、20年度から21年度で減少している。



7. 日本は今後も「宇宙先進国」であって欲しいか

Q13 日本は現在、予算規模やその実績・貢献において世界でも5本の指に入るほどの「宇宙先進国」であると言えますが、今後も「宇宙先進国」であって欲しいと思いますか。（単一回答）

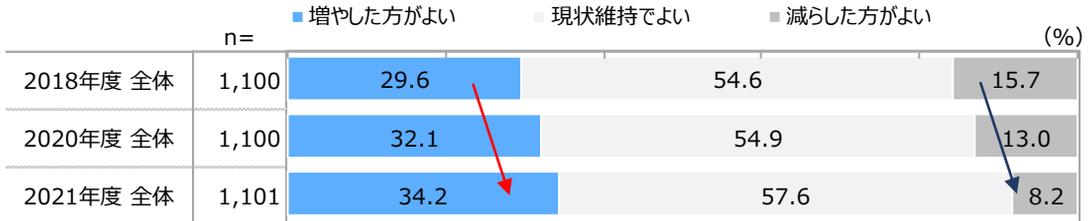
- ✓ 今後も「宇宙先進国」であって欲しいと思う割合はいずれも60%強と過半数を占める。
- ✓ 一方、「宇宙先進国」であって欲しくないと思う割合は10%前後であり、否定的な意見を持つ人も一定数存在している。



8. 宇宙関連の予算規模に対する考え

Q14 日本は2019年時点で、年間政府予算の約100兆円のうち、約0.35%の約3,500億円を宇宙関連予算として使っています。この宇宙関連の予算規模に関してどのように思いますか。
 *参考：日本は、社会保障関連に約33兆円、公共事業関連に約6兆円、防衛関連に約5兆円、原子力関連に約5,200億円を使っています。(単一回答)

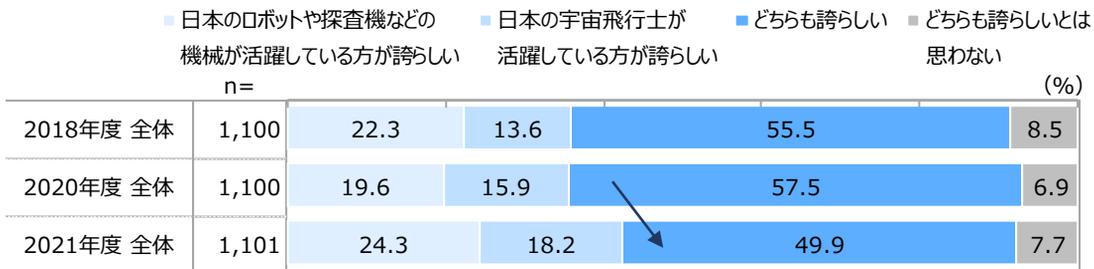
- ✓ 宇宙関連の予算を「増やした方がよい」と考える割合は30%前後で、21年度は18年度より増加している。また、「減らした方がよい」と考える割合は10%前後であり、21年度は18,20年度より減少している。



9. 日本の「ロボットや探査機などの機械」と「宇宙飛行士」の活躍に対する考え

Q17 宇宙（国際宇宙ステーション（ISS）、月面、小惑星など）において、日本のロボットや探査機などの機械が活躍しているのと、日本の宇宙飛行士が活躍しているのとでは、どちらが誇らしいですか。(単一回答)

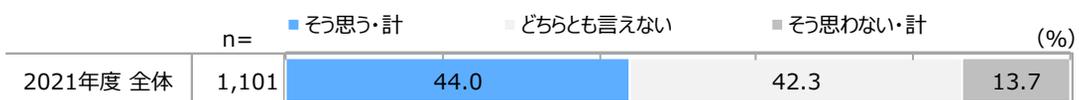
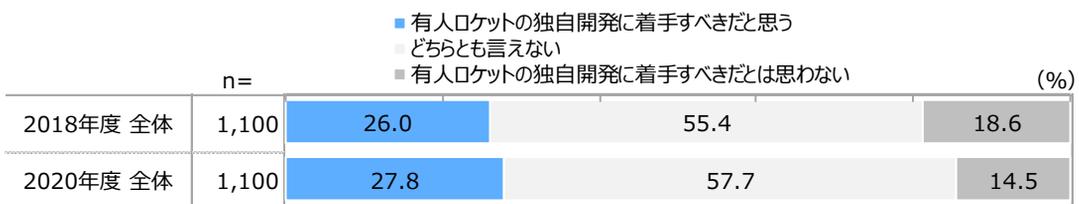
- ✓ 日本の「ロボットや探査機などの機械」と「宇宙飛行士」の活躍に対して、「どちらも誇らしい」と回答した人の割合は5~6割である。また、「どちらも誇らしい」の割合は21年度は18,20年度より減少している。



10. 有人ロケット・宇宙船の独自開発に対する考え

Q18 日本は現在、物資を輸送するロケットは持っていますが、人を乗せることができるロケットは持っていません。米国・ロシア・中国に続いて有人ロケット・宇宙船の独自開発に着手すべきだと思いますか。(単一回答)

- ✓ 有人ロケットや宇宙船の独自開発に着手すべきだと思う割合は18,20年度で30%弱、21年度で40%強となっている。(18,20年度と21年度では選択肢の表記が異なるため参考値。)

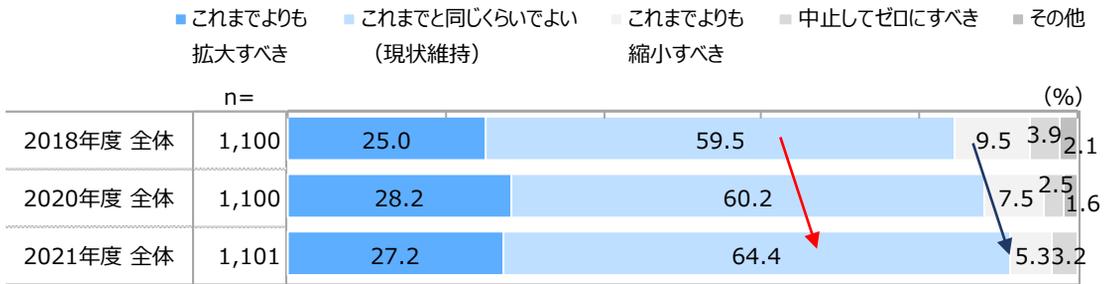


※そう思う・計：「とてもそう思う」+「そう思う」 ※そう思わない・計：「そう思わない」+「全くそう思わない」

11. 有人宇宙活動の取り組みに対する考え

Q19 日本はこれまで、米国のスペースシャトルやロシアのソユーズ宇宙船を利用して、10人以上の宇宙飛行士を宇宙へ派遣してきました。今後、有人宇宙活動にどのように取り組んでいったらよいと思いますか。(単一回答)

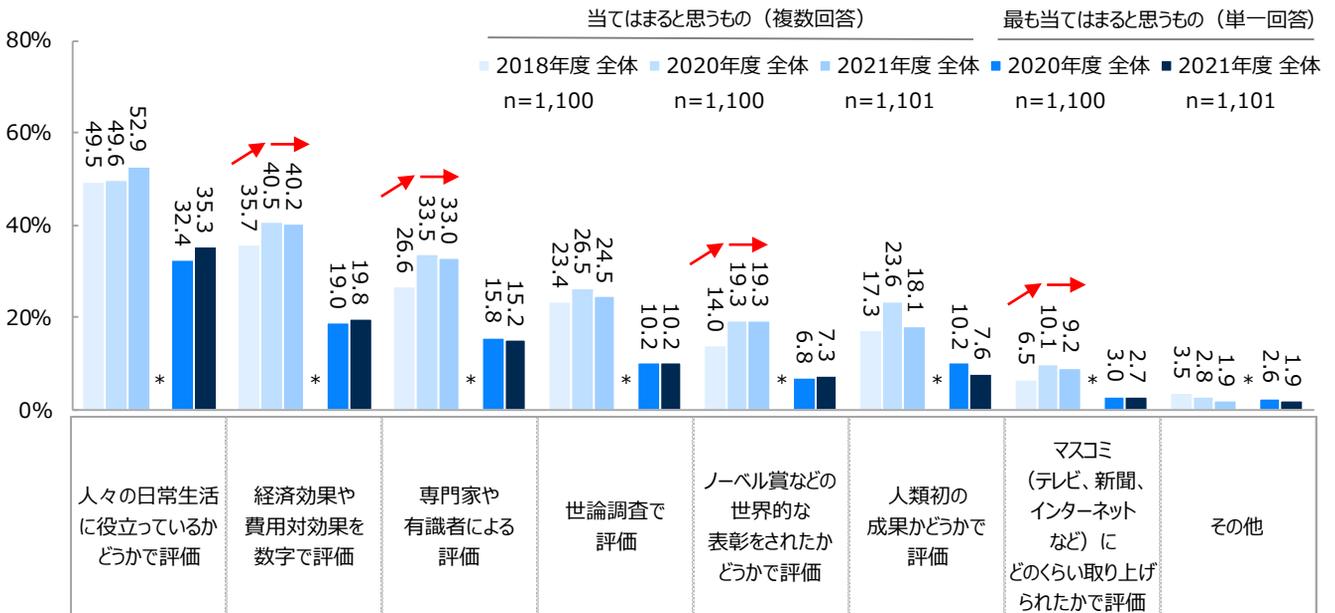
- ✓ 有人宇宙活動を「拡大すべき」との考えはいずれも30%弱で経年変化は見られない。
- ✓ 「現状維持でよい」との考えは60%前後で、18,20年度と比較して21年度で増加している。
- ✓ 「縮小すべき」との考えは10%未満で、18,20年度と比較して21年度で減少している。



12. 宇宙政策の評価方法に対する考え

Q20 国（政府）が、国民の税金などを使って行う宇宙に関する政策（宇宙政策）を、どのように評価したらよいと思いますか。(複数回答/単一回答)

- ✓ 税金を使用した宇宙政策の評価方法は「人々の日常生活に役立っているかどうかで評価」が50%前後でトップ。「経済効果や費用対効果を数字で評価」（40%前後）、「専門家や有識者による評価」（30%前後）と続く。
- ✓ 18年度から20年度でスコアが増加し、21年度で横ばいになっている項目が多い傾向にある。



* (単一回答) は2018年度非聴取

※【当てはまると思うもの】「2021年度 全体」のスコアが大きい順

第3章 調査結果

2018年度調査（2019年3月実施）

第3章 調査結果：2018年度調査（2019年3月実施）

1. 科学・技術への関心

Q1 科学・技術に関心がありますか。以下の選択肢の中から最も近いものを1つだけお答えください。
(単一回答)

- ✓ 科学・技術への関心がある人の割合は全体で48%である。
- ✓ 男女別でみると、女性より男性の方が関心が高く、TOP2※で33ポイントの差がある。
- ✓ また、年代別でみると大きな差はほとんど見られない。

n=30以上の場合



■ とても関心がある ■ 関心がある ■ 関心があるともないとも言えない ■ 関心がない ■ 全く関心がない

		n=	n (%)					TOP2	BTM2
2018年度 全体		1,100	13.1	35.1	31.1	12.0	8.7	48.2	20.7
性別	男性	532	21.4	43.6	23.5	6.2	5.3	65.0	11.5
	女性	568	5.3	27.1	38.2	17.4	12.0	32.4	29.4
年代	10代	72	19.4	26.4	29.2	9.7	15.3	45.8	25.0
	20代	127	13.4	33.9	29.1	12.6	11.0	47.2	23.6
	30代	159	13.8	35.8	28.9	11.9	9.4	49.7	21.4
	40代	184	12.0	28.8	31.5	12.5	15.2	40.8	27.7
	50代	155	11.0	34.2	34.8	12.3	7.7	45.2	20.0
	60代以上	403	12.9	40.0	31.3	11.9	4.0	52.9	15.9

※TOP2：「とても関心がある」+「関心がある」 ※BTM2：「関心がない」+「全く関心がない」

2. 科学・技術に関する情報を積極的に調べるか

Q2 科学・技術に関する情報を積極的に調べることはありますか。(単一回答)

- ✓ 科学・技術に関する情報を積極的に調べる人の割合は全体で35%である。
- ✓ 男女別でみると、女性より男性の方が積極的に調べる割合が高く、27ポイントの差がある。
- ✓ また、年代別でみると大きな差はほとんど見られない。

■ はい ■ いいえ

		n=	n (%)	
2018年度 全体		1,100	35.4	64.6
性別	男性	532	49.2	50.8
	女性	568	22.4	77.6
年代	10代	72	34.7	65.3
	20代	127	36.2	63.8
	30代	159	39.6	60.4
	40代	184	33.2	66.8
	50代	155	39.4	60.6
	60代以上	403	33.0	67.0

3. 科学・技術に関する情報を調べた際、情報を見つげられたか

Q3 過去、科学・技術に関する情報を調べた際に、探している情報を見つけることができましたか。
以下の選択肢の中から最も近いものを1つだけお答えください。(単一回答)

- ✓ 探している情報を見つげられた人は全体の74%で大半が情報を見つげられているが、その内容まで理解できていない人は全体の17%となっている。
- ✓ 男女別でみると、女性より男性の方が情報を見つげられる割合が高く18ポイントの差がある。
- ✓ また、年代別でみると大きな差はほとんど見られない。

- 見つげられた。大抵、その内容は容易に理解できる
- 見つげられた。しかし、ほとんどの場合、その内容を理解することは難しい
- 見つげられなかった。ほとんどの場合、探している情報は見つげられない

		n=	(%)		
2018年度 全体		1,100	17.4	56.1	26.5
性別	男性	532	26.5	55.5	18.0
	女性	568	8.8	56.7	34.5
年代	10代	72	19.4	52.8	27.8
	20代	127	15.7	61.4	22.8
	30代	159	13.8	59.7	26.4
	40代	184	16.3	52.7	31.0
	50代	155	15.5	61.3	23.2
	60代以上	403	20.1	53.1	26.8

4. 宇宙に関する関心

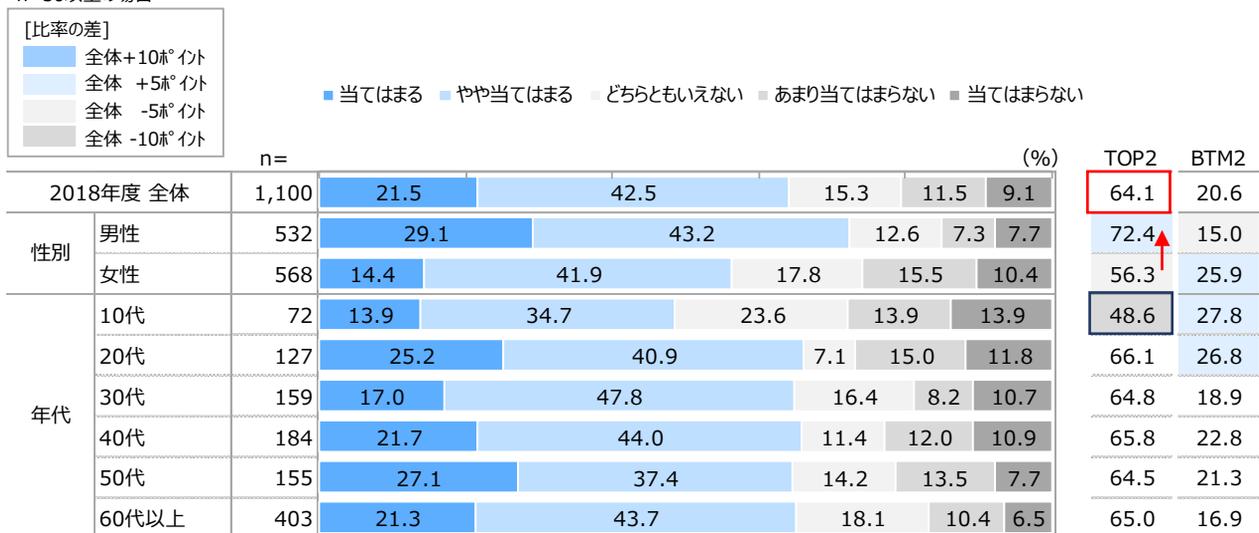
<4-1. 宇宙への関心>

Q4-1 それぞれの項目について、「当てはまる」から「当てはまらない」の5段階でお答えください。
【宇宙に関心はありますか】(単一回答)

(経年比較 Q9-1、p.15)

- ✓ 宇宙への関心を持っている人の割合は全体の64%である。
- ✓ 男女別では、女性より男性の方が関心が16ポイント高い。
- ✓ 10代は他の年代より関心が低く49%となっている。

n=30以上の場合



※TOP2:「当てはまる」+「やや当てはまる」 ※BTM2:「あまり当てはまらない」+「当てはまらない」

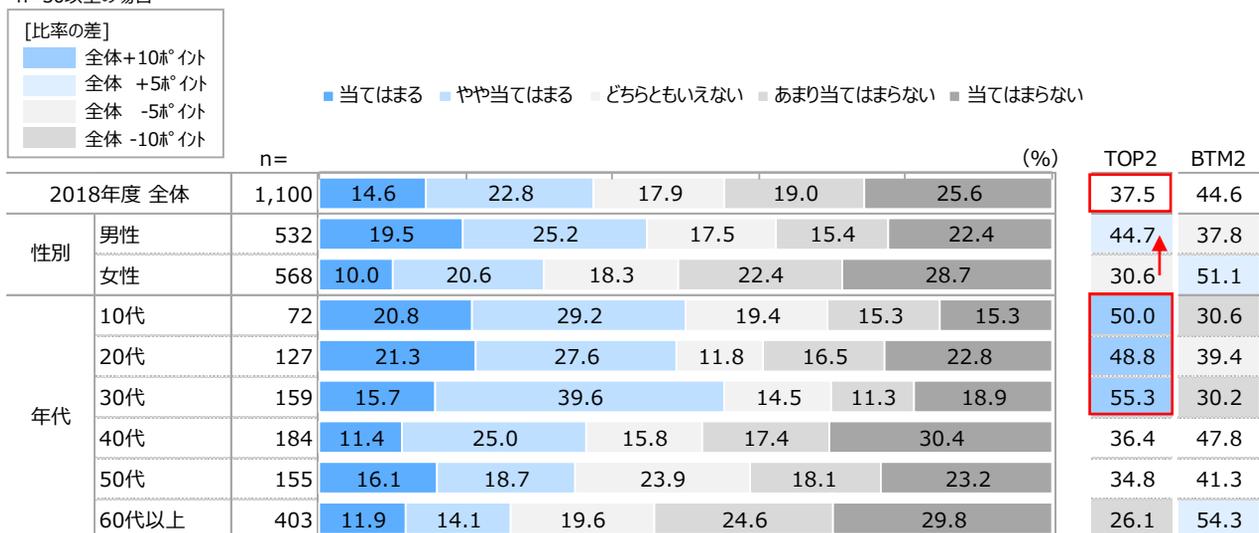
<4-2. 宇宙に行ってみたいか>

Q4-2 それぞれの項目について、「当てはまる」から「当てはまらない」の5段階でお答えください。
【宇宙に行ってみたいですか】(単一回答)

(経年比較 Q9-2、p.15)

- ✓ 宇宙へ行ってみたい人の割合は全体の38%である。
- ✓ 男女別では、女性より男性の方が「行ってみたい」割合が14ポイント高い。
- ✓ 40代以上より30代以下の若年層で「行ってみたい」割合が高い傾向にある。

n=30以上の場合



※TOP2:「当てはまる」+「やや当てはまる」 ※BTM2:「あまり当てはまらない」+「当てはまらない」

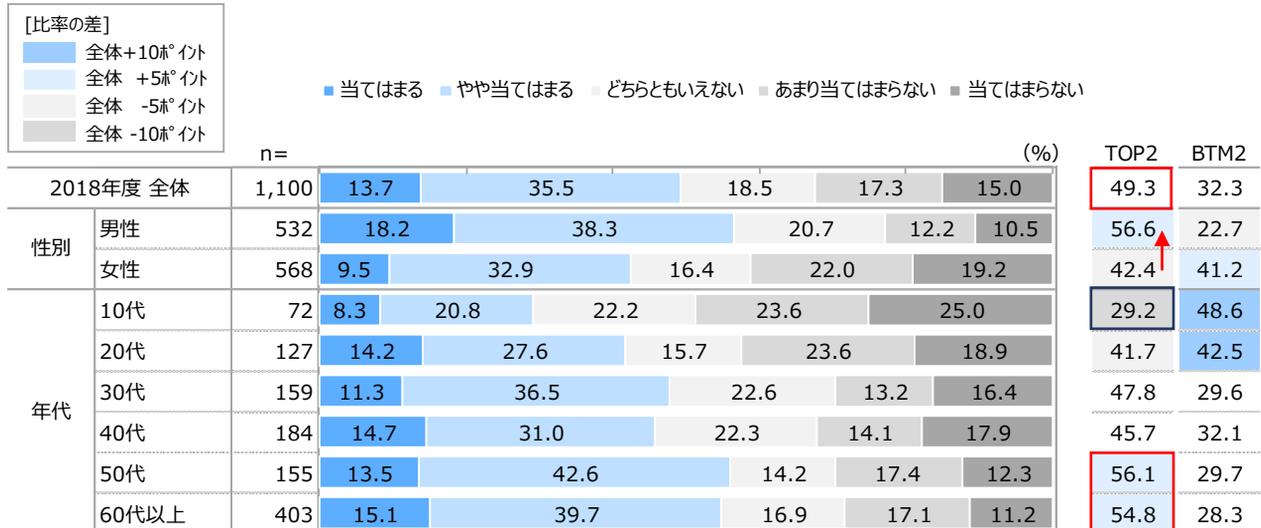
<4-3. 宇宙に関するテレビ番組を見るか>

Q4-3 それぞれの項目について、「当てはまる」から「当てはまらない」の5段階でお答えください。
【宇宙に関するテレビ番組を見ますか】(単一回答)

(経年比較 Q9-3, p.15)

- ✓ 宇宙に関するテレビを見る人の割合は全体で49%である。
- ✓ 男女別では、女性より男性の方が見る割合が14ポイント高い。
- ✓ 10代は30代以上より見る割合が低く29%である。

n=30以上の場合



※TOP2:「当てはまる」+「やや当てはまる」 ※BTM2:「あまり当てはまらない」+「当てはまらない」

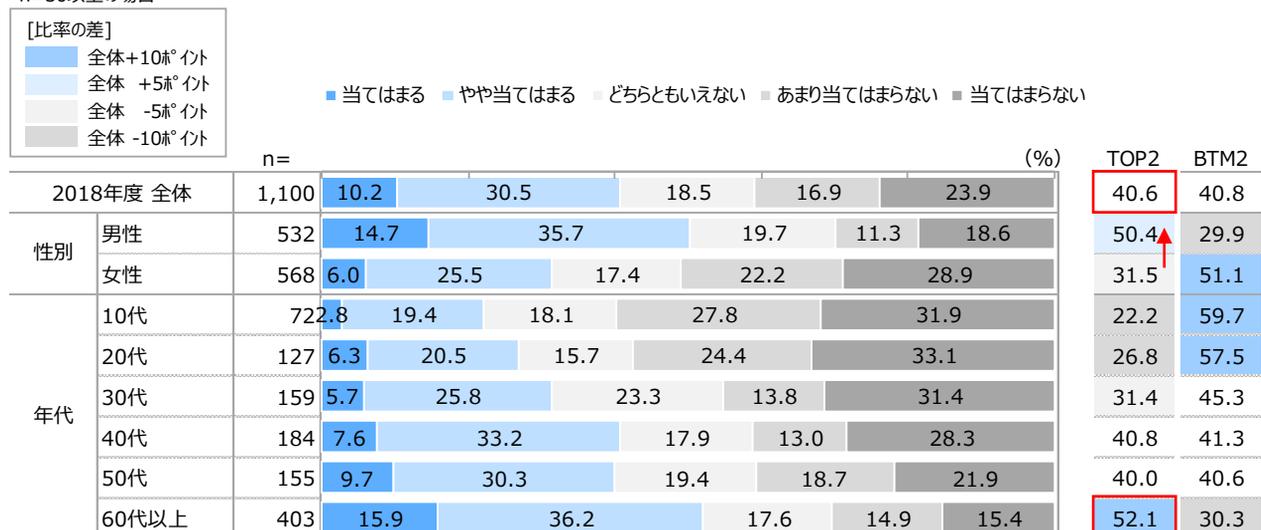
<4-4. 宇宙に関する新聞記事を読むか>

Q4-4 それぞれの項目について、「当てはまる」から「当てはまらない」の5段階でお答えください。
【宇宙に関する新聞記事を読みますか】(単一回答)

(経年比較 Q9-4, p.15)

- ✓ 宇宙に関する新聞記事を読む人の割合は全体で41%である。
- ✓ 男女別では、女性より男性の方が読む割合が19ポイント高い。
- ✓ 年代が上がるごとに読む割合が高くなる傾向にあり、60代以上では52%と過半数である。

n=30以上の場合



※TOP2:「当てはまる」+「やや当てはまる」 ※BTM2:「あまり当てはまらない」+「当てはまらない」

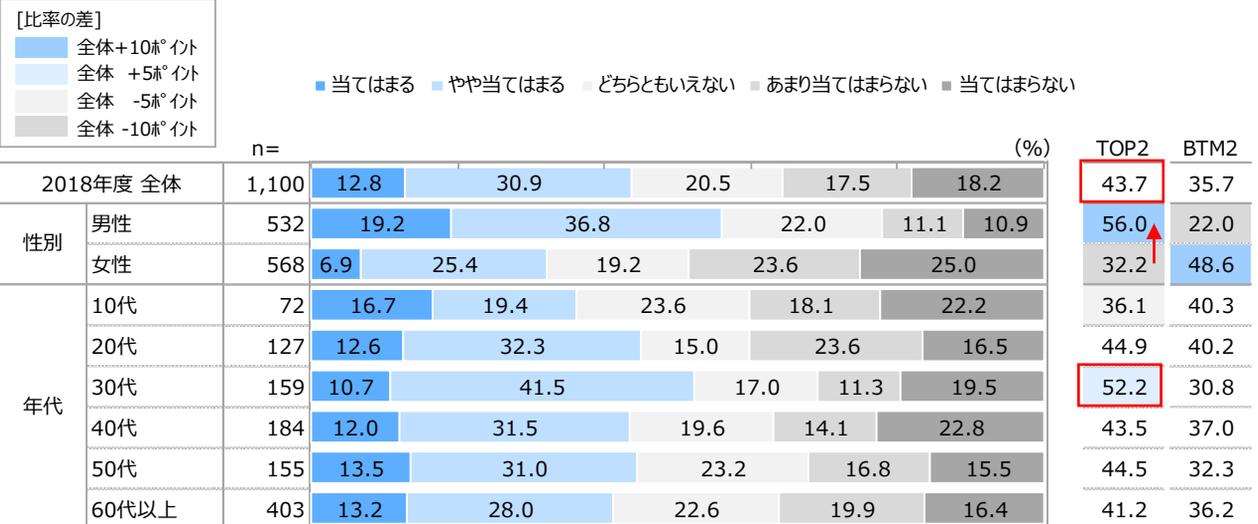
<4-5. 宇宙に関するインターネット記事を読むか>

Q4-5 それぞれの項目について、「当てはまる」から「当てはまらない」の5段階でお答えください。
【宇宙に関するインターネットの記事を読みますか】(単一回答)

- ✓ 宇宙に関するインターネット記事を読む人の割合は全体で44%である。
- ✓ 男女別では、女性より男性の方が読む割合が24ポイント高い。
- ✓ 年代別では、30代は10代や60代以上よりも読む割合が高い。

(経年比較 Q9-5、p.15)

n=30以上の場合



※TOP2:「当てはまる」+「やや当てはまる」 ※BTM2:「あまり当てはまらない」+「当てはまらない」

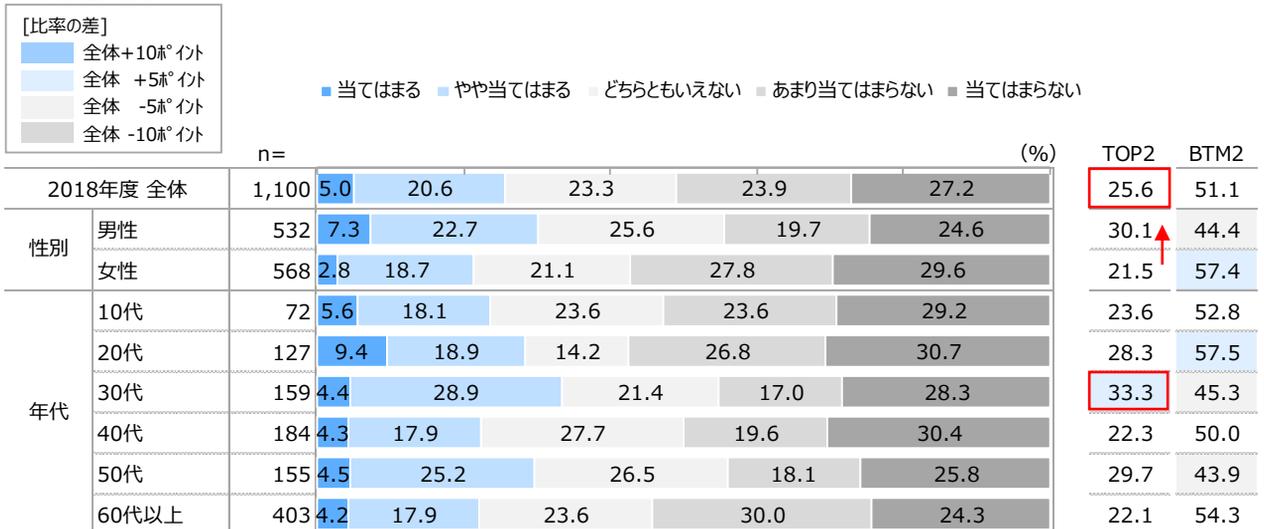
<4-6. 宇宙に関する展覧会などに行くか>

Q4-6 それぞれの項目について、「当てはまる」から「当てはまらない」の5段階でお答えください。
【博物館や科学館などで開催されている宇宙に関する展覧会などに行きますか】(単一回答)

- ✓ 宇宙に関する展覧会などに行く人の割合は全体で26%である。
- ✓ 男女別では、女性より男性の方が展覧会に行く割合が9ポイント高い。
- ✓ 年代別では、30代は40代や60代以上より展覧会に行く割合が高い。

(経年比較 Q9-6、p.15)

n=30以上の場合



※TOP2:「当てはまる」+「やや当てはまる」 ※BTM2:「あまり当てはまらない」+「当てはまらない」

<4-7. ロケットの打ち上げを実際に目の前で見たことがあるか>

Q4-7 それぞれの項目について、「当てはまる」から「当てはまらない」の5段階でお答えください。
【ロケットの打ち上げを、実際に目の前で見たことがありますか】(単一回答)

(経年比較 Q9-7, p.15)

- ✓ ロケットの打ち上げを実際に目の前で見たことがある人の割合は全体で5%である。
- ✓ 男女別では、女性より男性の方が見たことがある割合が5ポイント高い。
- ✓ 20代以下の若年層は、50代以上より見たことがある割合が高い。

n=30以上の場合



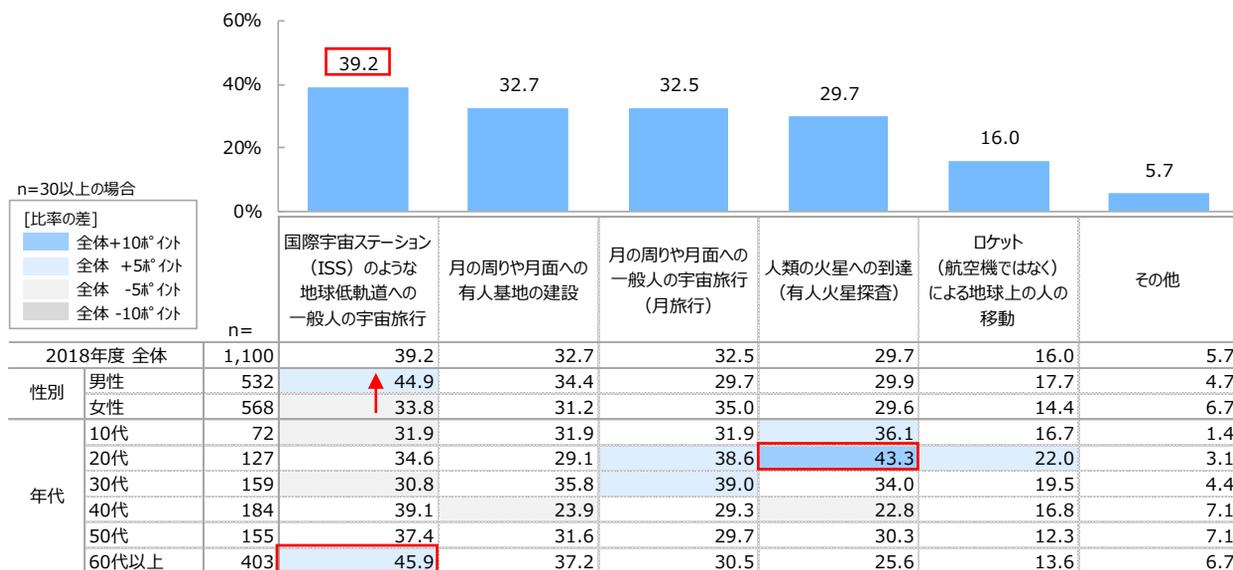
※TOP2 : 「当てはまる」+「やや当てはまる」 ※BTM2 : 「あまり当てはまらない」+「当てはまらない」

5. 2030年頃の宇宙探査や宇宙活動

Q5 今から約10年後の2030年頃、宇宙探査や宇宙活動はどのようになっていると思いますか。
実現していると思うものをすべて選んでください。(複数回答)

(経年比較 Q10-1, p.15)

- ✓ 全体では、「国際宇宙ステーションのような地球低軌道への一般人の宇宙旅行」が39%でトップ。
- ✓ 男女別では、女性より男性の方が11ポイント高く、60代以上は10~30代と比較してスコアが高い。
- ✓ 「人類の火星への到達」では、20代は40代以上よりスコアが高く、43%である。



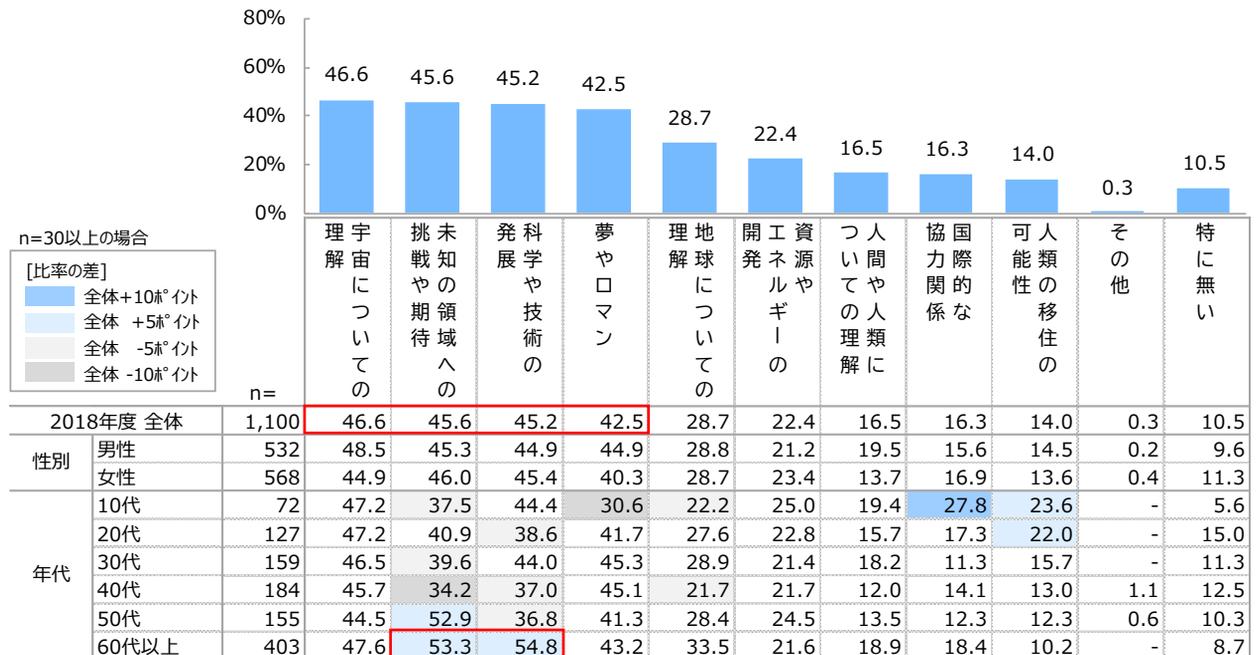
※「2018年度 全体」のスコアが大きい順

6. 宇宙科学探査の成果

Q6 これまでの宇宙科学探査（日本では小惑星探査機「はやぶさ」・「はやぶさ2」や月周回衛星「かぐや」など）は、どのような成果をもたらしたと思いますか。
当てはまると思うものをすべて選んでください。（複数回答）

（経年比較 Q11-1、p.16）

- ✓ 宇宙科学探査がもたらした成果として「宇宙についての理解」「未知の領域への挑戦や期待」「科学や技術の発展」「夢やロマン」などが上位に上がる。
- ✓ 「未知の領域への挑戦や期待」「科学や技術の発展」は60代以上で他の年代よりスコアが高い傾向にある。



※「2018年度 全体」のスコアが大きい順

7. 今後の宇宙科学探査に期待すること（自由回答）※一部抜粋

Q7 今後の宇宙科学探査に何を期待しますか。（自由回答）

【宇宙・地球・生命の起源】

- 生命の起源・資源の探査・太陽系の起源(男性/77歳)
- 宇宙の成り立ち(女性/65歳)
- 地球の起源を知ることが見つかること(男性/68歳)

【新しいエネルギー】

- 宇宙空間や他の惑星の特徴を生かした新エネルギーの開拓、よりエネルギーの収集効率のよい太陽光発電など(男性/18歳)
- 新たな資源・エネルギーを発掘して、地球の環境がより改善されればいいと思います(男性/24歳)

【地球以外での生命活動・移住】

- 地球から火星へ安全に移住するためのロケットの技術や、資源の開発(女性/28歳)
- 気軽に宇宙ステーション等、旅行や、移住が、できるようになればいいと思う(女性/41歳)

【その他】

- 地球外生命体の存在(女性/29歳)
- 宇宙に漂うゴミの問題をまず解決する事(女性/60歳)

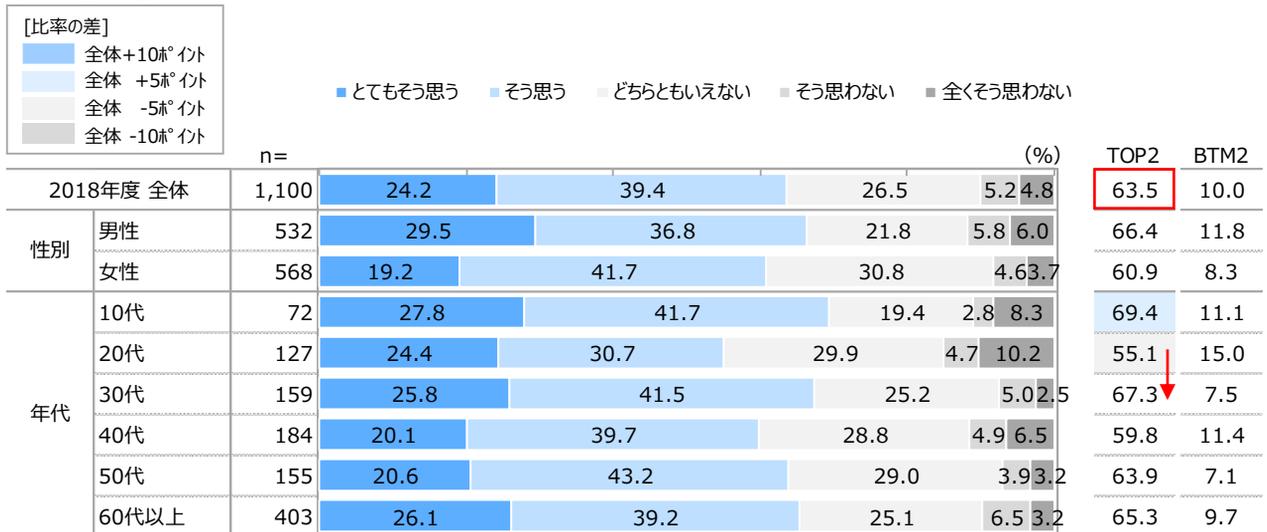
8. 日本は今後も「宇宙先進国」であって欲しいか

Q8 日本は現在、予算規模やその実績・貢献において世界でも5本の指に入るほどの「宇宙先進国」と言えますが、今後も「宇宙先進国」であって欲しいと思いますか。(単一回答)

(経年比較 Q13、p.16)

- ✓ 今後も「宇宙先進国」であって欲しいと思う割合は64%。
- ✓ 30代は20代より「宇宙先進国」であって欲しいと思う割合が高いと言える。(TOP2※について、10代と20代は有意差なし)

n=30以上の場合



※TOP2:「とてもそう思う」+「そう思う」 ※BTM2:「そう思わない」+「全くそう思わない」

9. その理由 (自由回答) ※一部抜粋

Q9 それはなぜですか。できるだけ具体的にお知らせください。(自由回答)

「TOP2」の回答理由

- 日本は資源がないので、宇宙開発で世界をリードして存在感を示せるようにすべき(女性/60歳)
- 日本のロケット打ち上げの正確さなどはニュースになるほどのものであり、その技術は世界に誇れることであるから(女性/26歳)
- はやぶさで世界初の偉業を成し遂げたこと、安定的にロケットの打ち上げに成功していることなどから(男性/40歳)

「どちらともいえない」の回答理由

- 宇宙探査の優先度が高いと思わないから(女性/33歳)
- 先進国なのは誇らしい事かもしれないが、膨大な費用がかかるから(女性/34歳)
- あまり生活に関係ないと思うから(男性/73歳)

「BTM2」の回答理由

- まずは子供の教育や事件、富むものと貧しい人の物質面と精神面での解決を優先すべきであり、宇宙事業は、後回しでも良い(男性/22歳)
- アメリカやロシア、中国と比べると規模が小さいから(女性/64歳)
- 人材の不足や研究開発費の不足が顕著(男性/64歳)

10. 宇宙関連の予算規模に対する考え

Q10 日本は2019年時点で、年間政府予算の約100兆円のうち、約0.35%の約3,500億円を宇宙関連予算として使っています。この**宇宙関連の予算規模**に関してどのように思いますか。
*参考：日本は、社会保障関連に約33兆円、公共事業関連に約6兆円、防衛関連に約5兆円、原子力関連に約5,200億円を使っています。(単一回答)

(経年比較 Q14, p.17)

- ✓ 全体では、「現状維持」が55%と最も高く、「増やした方がよい」が30%と続く。
- ✓ 男女別では、男性は「増やした方がよい」が高く、女性は「現状維持でよい」が高い。
- ✓ 50代以上は10～30代より「増やした方がよい」の割合が高くなっており、10～30代は60代以上より「現状維持でよい」の割合が高い。

		n=	■ 増やした方がよい	■ 現状維持でよい	■ 減らした方がよい	(%)
2018年度 全体		1,100	29.6	54.6	15.7	
性別	男性	532	39.1	47.0	13.9	
	女性	568	20.8	61.8	17.4	
年代	10代	72	16.7	63.9	19.4	
	20代	127	18.1	59.8	22.0	
	30代	159	18.2	62.9	18.9	
	40代	184	27.2	57.1	15.8	
	50代	155	32.3	51.6	16.1	
	60代以上	403	40.2	48.1	11.7	

11. その理由（自由回答） ※一部抜粋

Q11 それはなぜですか。できるだけ具体的にお知らせください。(自由回答)

「増やした方がよい」の回答理由

- 防衛関係、原子力関係の予算を減らし、宇宙関連予算にまわすべき(男性/67歳)
- 宇宙には未だ解明されていない謎が多く、多くの人が宇宙の謎に興味を持っていると思うため、それなりの資産を使う価値があると思います(男性/22歳)
- 宇宙での事業に他国に遅れを取ってほしくないから(男性/45歳)

「現状維持でよい」の回答理由

- 限られた予算の範囲内で、最大限の効果を目指して欲しい(男性/52歳)
- 予算を減らしすぎると他国の進歩についていけなくなるから(女性/64歳)
- 宇宙よりも福祉や保育など現状問題が多いところに力をそそいでもらいたいから(男性/35歳)
- スケールが大き過ぎてイメージがわからない(男性/31歳)

「減らした方がよい」の回答理由

- 宇宙事業も大事だが社会保障関連に予算を増やすべき(女性/24歳)
- これから消費税増税などの国民の負担が増えたりするなか、それほどの予算を投資する必要性を感じないから(女性/34歳)
- とても国民の生活向上に繋がるとは思えない(男性/67歳)

12. 宇宙科学探査の予算規模に対する考え

Q12 日本は、宇宙関連予算の約3,500億円のうち、約150億円を宇宙科学探査予算（「はやぶさ2」など）として使っています。この**宇宙科学探査の予算規模**に関してどのように思いますか。
 *参考：この約3,500億円の中には、H-IIA/Bやイプシロンなどのロケット、人工衛星（通信・放送・気象・地球観測・測位などに利用）などの研究開発利用に関わる予算も含まれています。（単一回答）

- ✓ 全体では、「現状維持」が58%と最も高く、「増やした方がよい」が30%と続く。
- ✓ 男女別では、男性は「増やした方がよい」が高く、女性は「現状維持でよい」が高い。
- ✓ 60代以上は10～40代より「増やした方がよい」の割合が高く、20～40代は60代以上より「現状維持でよい」の割合が高い。

		n=	■ 増やした方がよい	■ 現状維持でよい	■ 減らした方がよい	(%)
2018年度 全体		1,100	29.7	57.8	12.5	
性別	男性	532	39.1	49.1	11.8	
	女性	568	21.0	66.0	13.0	
年代	10代	72	20.8	65.3	13.9	
	20代	127	18.9	63.8	17.3	
	30代	159	20.8	62.3	17.0	
	40代	184	25.0	62.0	13.0	
	50代	155	31.6	54.8	13.5	
	60代以上	403	39.7	52.1	8.2	

13. その理由（自由回答）※一部抜粋

Q13 それはなぜですか。できるだけ具体的にお知らせください。（自由回答）

「増やした方がよい」の回答理由

- 宇宙探査事業は今後宇宙産業を発達させる上で必要不可欠だから(男性/19歳)
- 予算を増やして開発できるならいくらかけても良いほどのことだと思うから(女性/26歳)
- 技術の底上げには、すぐに実利に結びつかない研究が大切だから(男性/62歳)
- 世界のトップレベルを維持するため(男性/63歳)

「現状維持でよい」の回答理由

- はやぶさなどの探査機ばかり予算を上げて他の宇宙研究分野が置き去りになったら意味がないから(女性/33歳)
- やはり少ないと思うが、限られた予算では仕方がないことだから(女性/35歳)
- その金額が妥当な金額なのかどうか判断できないから(女性/61歳)

「減らした方がよい」の回答理由

- 少ない予算しかないのだから削れるものは削ったほうがよい(男性/36歳)
- 他にもお金をかけるべきことはたくさんあるから(男性/37歳)
- 正直、どんな成果があるか分からないから(女性/18歳)

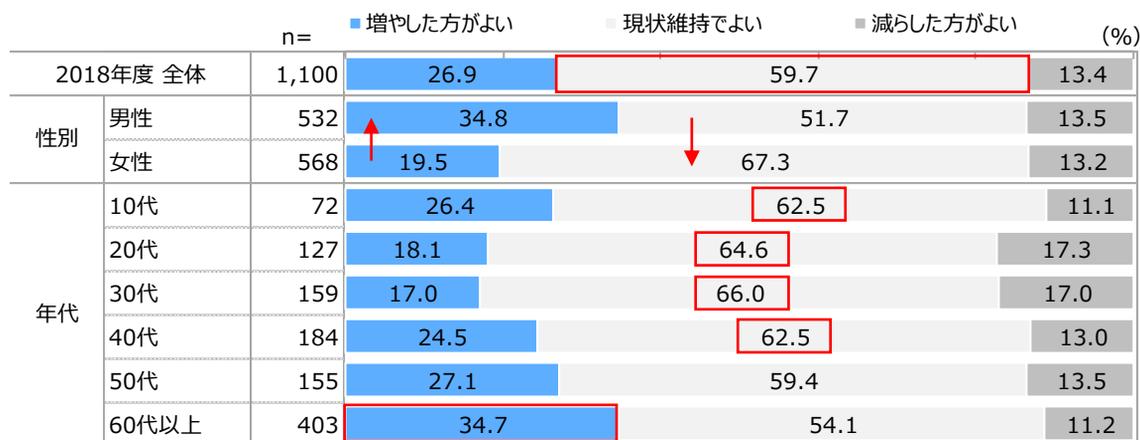
14. 有人宇宙活動関連の予算規模に対する考え

Q14 日本は、宇宙関連予算の約3,500億円のうち、約350億円を有人宇宙活動予算（宇宙飛行士や「国際宇宙ステーション」など）として使っています。

この**有人宇宙活動関連の予算規模**に関してどのように思いますか。

*参考：この約3,500億円の中には、H-IIA/Bやイプシロンなどのロケット、人工衛星（通信・放送・気象・地球観測・測位などに利用）などの研究開発利用に関わる予算も含まれています。（単一回答）

- ✓ 全体では、「現状維持」が60%と最も高く、「増やした方がよい」が27%と続く。
- ✓ 男女別では、男性は「増やした方がよい」が高く、女性は「現状維持でよい」が高い。
- ✓ 60代以上は20～40代より「増やした方がよい」の割合が高くなっている。
また、10～40代は「現状維持でよい」が60%以上と大半を占める。



15. その理由（自由回答） ※一部抜粋

Q15 それはなぜですか。できるだけ具体的にお知らせください。（自由回答）

「増やした方がよい」の回答理由

- 宇宙探査には有人宇宙活動は欠かせない技術だから(女性/54歳)
- 宇宙での実践活動の場を通して多くの人材育成の必要があるから(男性/60歳)
- 有人なので、安全面を考えるならその分予算を増やして活動するのがふさわしいと思うからです(男性/24歳)

「現状維持でよい」の回答理由

- 宇宙関連費用の全体の金額が増えれば、各々の活動の予算も上げられると思うが、そうでない限り難しいと思う(女性/45歳)
- 有人宇宙活動関連の予算が適切なのか不適切なのかわからないから(男性/18歳)
- 無人でできることが、今後も多くなりそうだから(男性/34歳)

「減らした方がよい」の回答理由

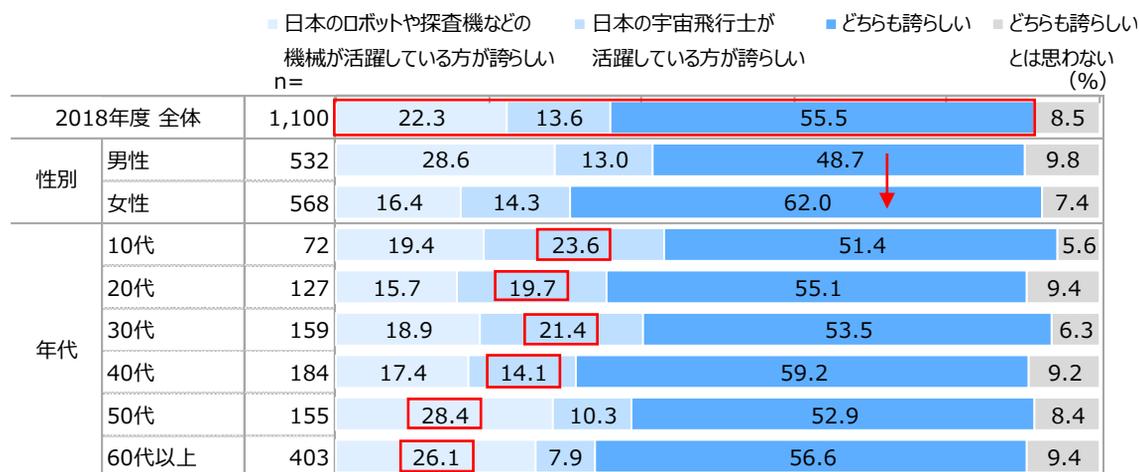
- 宇宙に人間が到達することも必要かもしれないが、今の環境や今後の地球環境を改善する事の方が重要だと思う。もっと宇宙の情報を得てからでも遅くはないと思うし、今はその段階ではないと思う(男性/44歳)
- 全体的に宇宙関連予算を減らしたほうがよいと思っているから(女性/30歳)
- そんなに費用がかかるのに恩恵が良く分からないので(女性/38歳)

16. 日本の「ロボットや探査機などの機械」と「宇宙飛行士」の活躍に対する考え

Q16 宇宙（国際宇宙ステーション、月面、小惑星など）において、日本のロボットや探査機などの機械が活躍しているのと日本の宇宙飛行士が活躍しているのとでは、どちらが誇らしいですか。（単一回答）

（経年比較 Q17、p17）

- ✓ 誇らしいと感じている人は全体の92%。
- ✓ 男女別では、男性より女性の方が「どちらも誇らしい」の割合が13pt高い。
- ✓ 「ロボットの探査機などの機械」の方が誇らしいと感じる割合は20代、40代より50代以上で高く、「宇宙飛行士」の方が誇らしいと感じる割合は60代以上より40代以下の方が高い傾向にある。



17. その理由（自由回答） ※一部抜粋

Q17 それはなぜですか。できるだけ具体的にお知らせください。（自由回答）

「日本のロボットや探査機などの機械が活躍している方が誇らしい」の回答理由

- 日本はロボットや機械に強いイメージがあるため。また、人が優れているのは個人の印象が強いですが、ロボットや機械となると国として優れている印象が強いからです(女性/27歳)
- それだけ高度な技術者が多いということだから(女性/54歳)

「日本の宇宙飛行士が活躍しているほうが誇らしい」の回答理由

- 日本の宇宙飛行士が現実には活躍していることは、誇らしく思いますし、日本の国際性を高めることに繋がる(男性/76歳)
- 目で見て日本の代表と分かり活躍が実感できる(男性/24歳)

「どちらも誇らしい」の回答理由

- 科学技術、国際、経済、文化において先進国であることが証明できるから(男性/50歳)
- 日本の技術や優秀な人が世界に知られるのは、日本の学力や技術力を世界に知らしめる事なので誇らしい(女性/28歳)

「どちらも誇らしいとは思わない」の回答理由

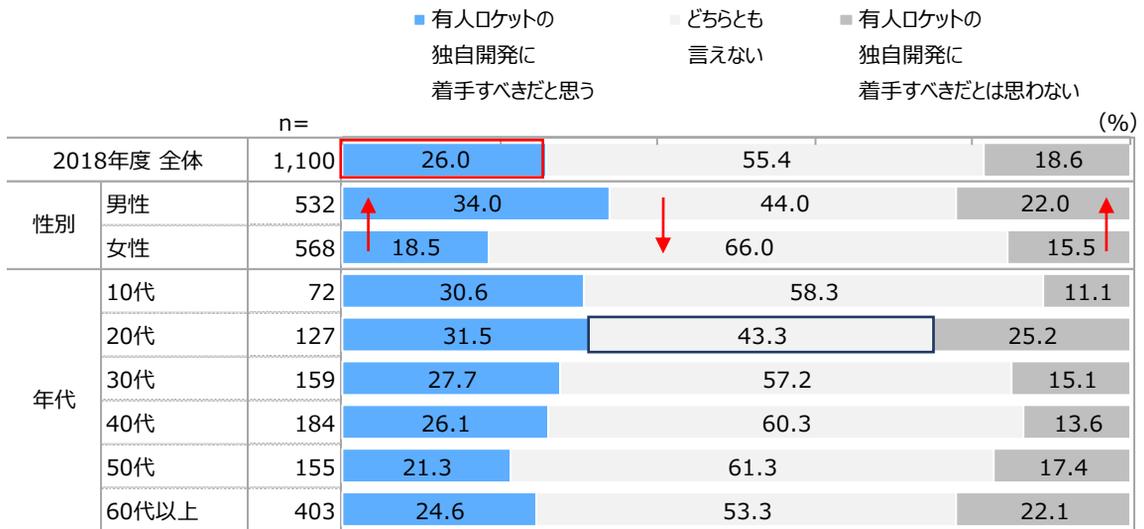
- 自分に影響がないから(男性/24歳)
- 活躍出来ることは、素晴らしいとは思いますが、自分が貢献している事でもないので「誇らしい」とは思わない・日本人、日本製だから誇らしい、という感覚はない(男性/62歳)

18. 有人ロケット・宇宙船の独自開発に対する考え

Q18 日本は現在、物資を輸送するロケットは持っていますが、人を乗せることができるロケットは持っていません。米国・ロシア・中国に続いて有人ロケット・宇宙船の独自開発に着手すべきだと思いますか。(単一回答)

(経年比比較 Q18, p.17)

- ✓ 「有人ロケットの独自開発に着手すべき」の割合は全体の26%。
- ✓ 男女別では、男性は「着手すべき・すべきだとは思わない」が高く、女性は「どちらとも言えない」が高い。
- ✓ 20代は30～50代より「どちらとも言えない」が低く、意見が割れているといえる。



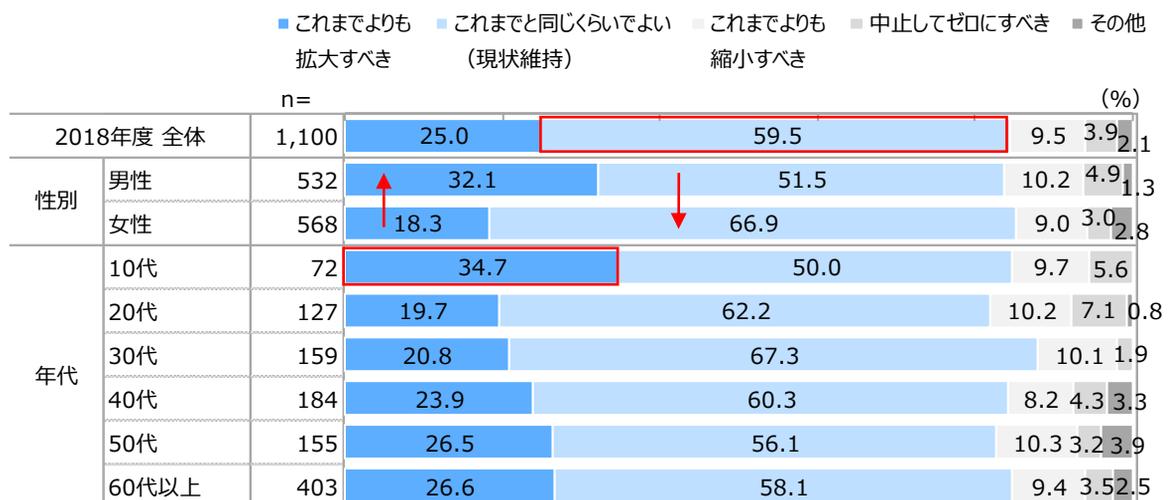
19. 有人宇宙活動の取り組みに対する考え

Q19 日本はこれまで、米国のスペースシャトルやロシアのソユーズ宇宙船を利用して、10人以上の宇宙飛行士を宇宙へ派遣してきました。

今後、有人宇宙活動にどのように取り組んでいったらよいと思いますか。(単一回答)

(経年比比較 Q19, p.18)

- ✓ 全体では、「現状維持」が60%と最も高く、「拡大すべき」が25%と続く。
- ✓ 男女別では、男性は「拡大すべき」高く、女性は「現状維持」が高い。
- ✓ 10代は20代、30代より「拡大すべき」の割合が高いといえる。

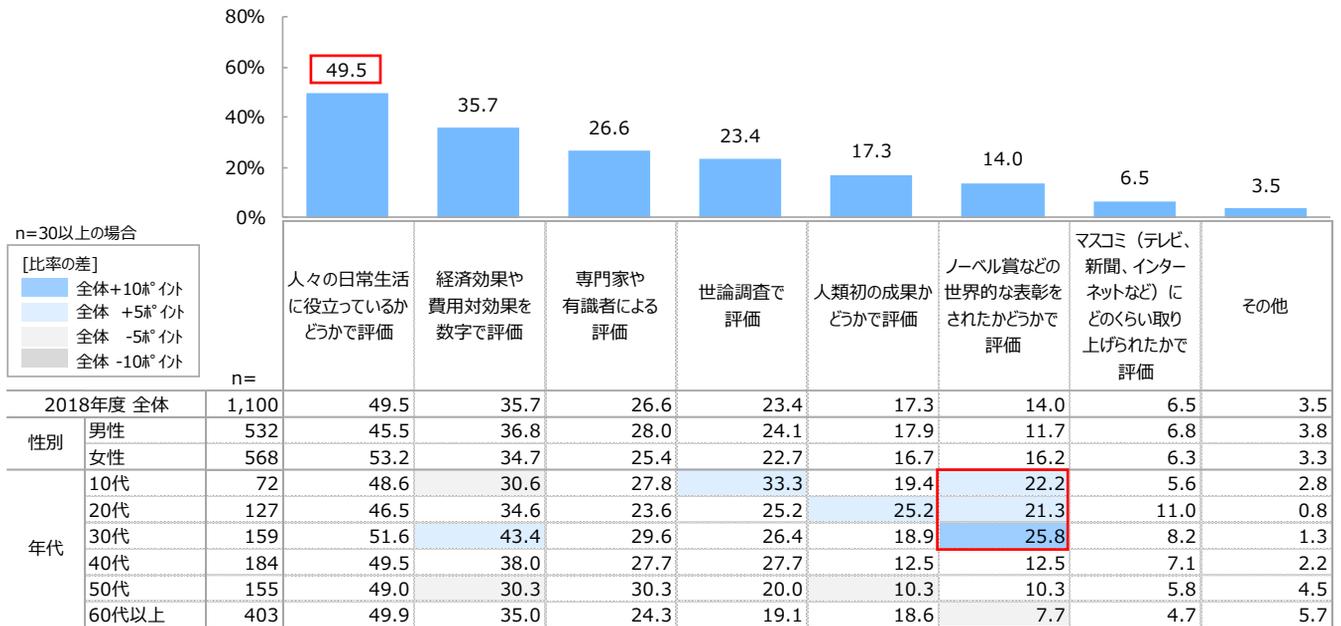


20. 宇宙政策の評価方法に対する考え

Q20 国（政府）によって、国民の税金などを使って行われている宇宙に関する政策（宇宙政策）を、どのように評価したらよいと思いますか。当てはまると思うものをすべて選んでください。（複数回答）

（経年比較 Q20-1、p.18）

- ✓ 全体では、「人々の日常生活に役立っているかどうかで評価」が50%でトップ。
- ✓ 「ノーベル賞などの世界的な表彰をされたかどうかで評価」は50代以上より30代以下の若年層でスコアが高くなっている。



※「2018年度 全体」のスコアが大きい順

第4章 調査結果

2020年度調査（2020年12月実施）

第4章 調査結果：2020年度調査（2020年12月実施）

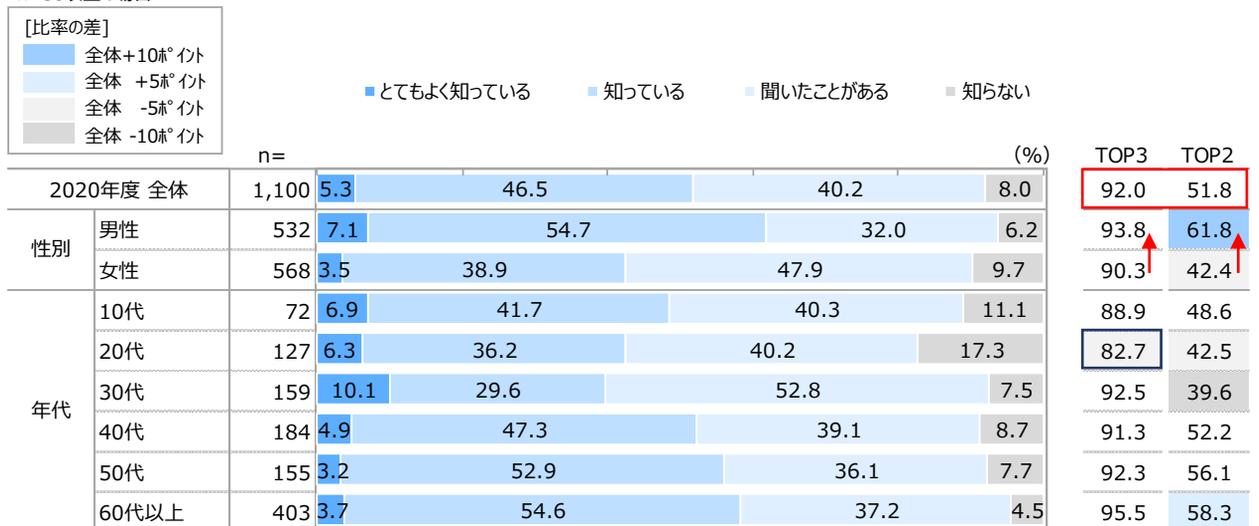
1. JAXAの認知度

Q1 日本の宇宙航空研究開発機構（JAXA、ジャクサ）を知っていますか。（単一回答）

（経年比較 Q1、p.14）

- ✓ JAXAの認知度は全体でTOP3※が92%、TOP2※が52%である。
- ✓ 男女別では、TOP3、TOP2ともに男性の方がスコアが高い。
- ✓ 年代別では20代が30代以上よりTOP3のスコアが低いことが特徴的である。

n=30以上の場合



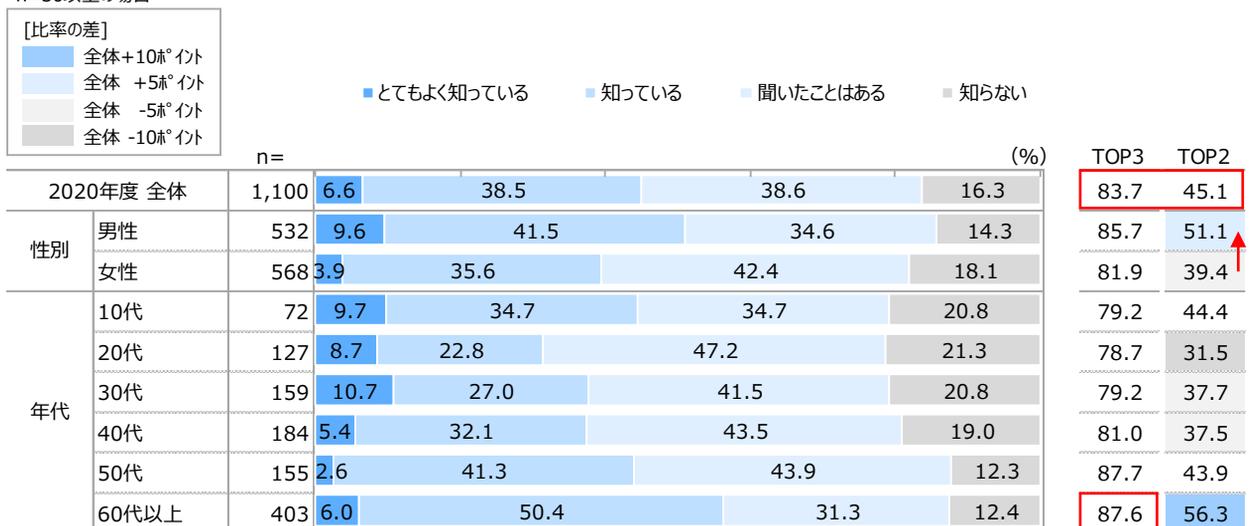
※TOP3：「とてもよく知っている」～「聞いたことがある」 ※TOP2：「とてもよく知っている」+「知っている」

2. JAXAの取り組みに対する認知度

Q2 JAXAが、小惑星探査機「はやぶさ1号・2号」などの宇宙科学探査や、国際宇宙ステーション（ISS）への宇宙飛行士派遣などの有人宇宙活動の他に、災害監視や環境・気候変動、宇宙利用拡大・産業振興、宇宙安全保障などに取り組んでいることを知っていますか。（単一回答）

- ✓ JAXAの取り組みに対する認知度は全体でTOP3※が84%、TOP2※が45%である。
- ✓ 男女別では、TOP2で男性の方がスコアが高い。
- ✓ 60代以上は20～40代よりTOP3のスコアが高いといえる。

n=30以上の場合

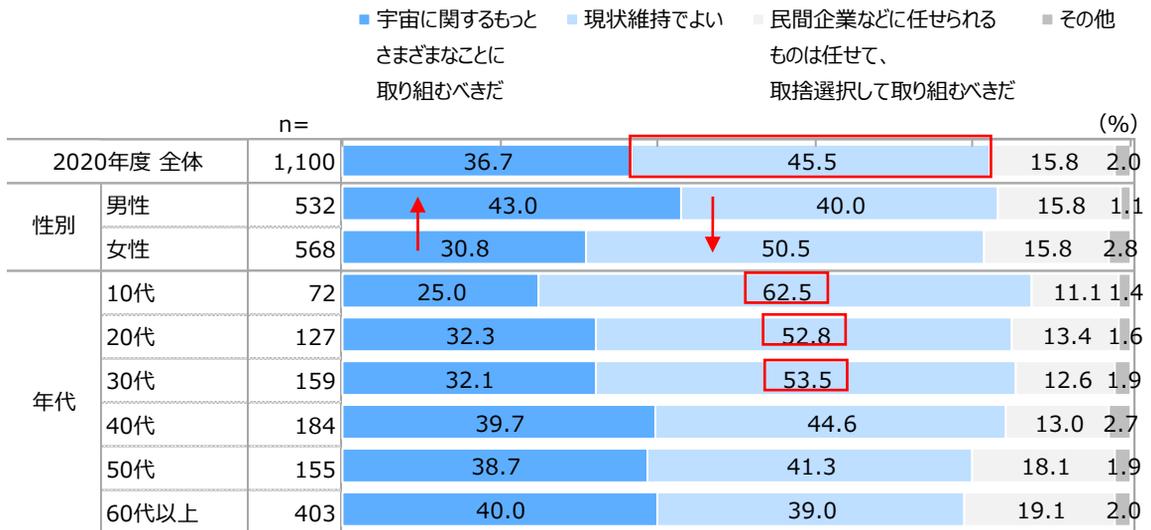


※TOP3：「とてもよく知っている」～「聞いたことはある」 ※TOP2：「とてもよく知っている」+「知っている」

3. JAXAの取り組みについての考え

Q3 Q2のJAXAのさまざまな取り組みについて、どのように思いますか。(単一回答)

- ✓ JAXAの取り組みに対して全体では「現状維持でよい」が最も高く46%で、「もっと取り組むべき」が37%と続く。
- ✓ 男女別では、男性で「もっと取り組むべき」、女性で「現状維持でよい」が最も高い。
- ✓ 30代以下の若年層では、50代以上よりも「現状維持でよい」が高い傾向にある。



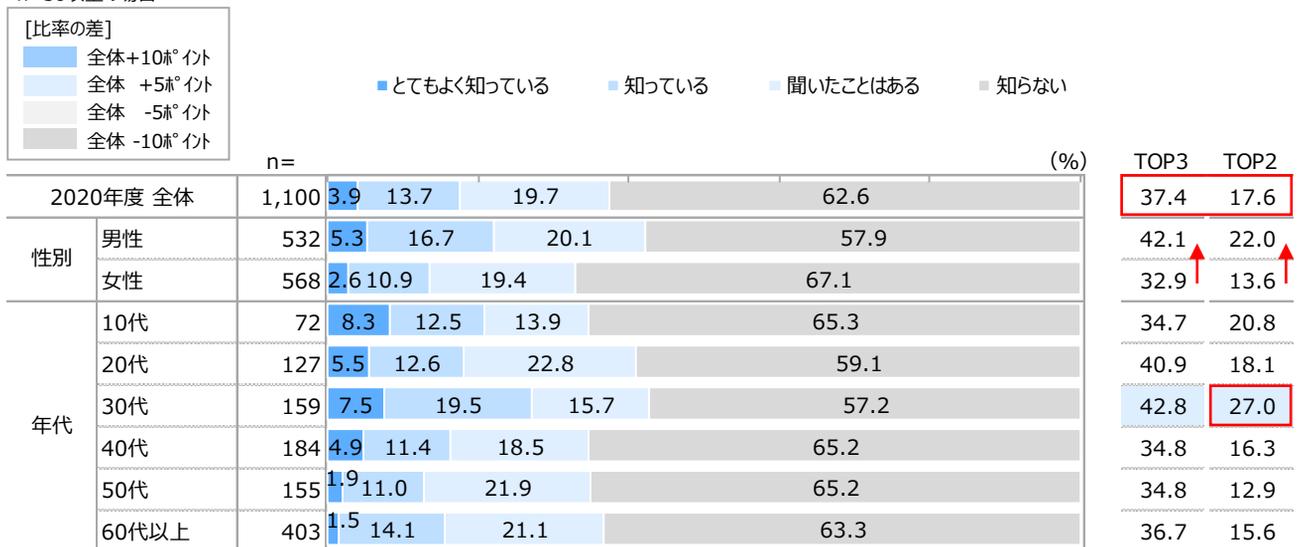
4. JAXAが中央省庁ではないことの認知度

Q4 JAXAは、文部科学省などの中央省庁ではなく、国立研究開発法人（政府の事業の一部を分離して担当させた独立行政法人の一つで、主に研究開発を行うもの）であり、JAXAで働いている役員・職員は国家公務員ではないことを知っていますか。(単一回答)

(経年比較 Q7、p.14)

- ✓ 認知度はTOP3※で37%、TOP2※で18%である。
- ✓ 男女別では、TOP3、TOP2ともに男性の方がスコアが高い。
- ✓ 30代は40代以上よりTOP2のスコアが高いことが特徴的である。

n=30以上の場合



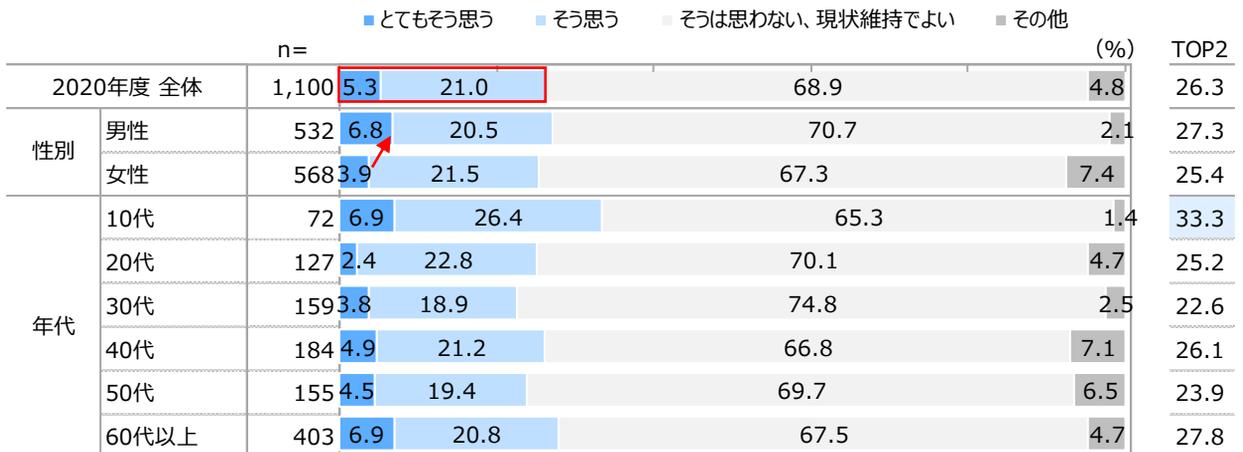
※TOP3：「とてもよく知っている」～「聞いたことはある」 ※TOP2：「とてもよく知っている」+「知っている」

5. JAXAを中央省庁にした方がよいと思うか

Q5 JAXAは現在、国立研究開発法人ですが、たとえば「宇宙庁」などの中央省庁の一つにして、役員・職員は国家公務員にした方がよいと思いますか。(単一回答)

(経年比較 Q8、p.14)

- ✓ JAXAを中央省庁にした方がよいと思う割合は全体で26%である。
- ✓ 男女別で見ると、男性の方が「とてもそう思う」と回答した割合が高くなっている。
- ✓ 年代別では大きな差は見られない。



※TOP2: 「とてもそう思う」～「そう思う」

6. その理由 (自由回答) ※一部抜粋

Q6 それはなぜですか。できるだけ具体的にお知らせください。(自由回答)

「とてもそう思う」の回答理由

- 宇宙開発は国をあげておこなうべき(男性/60歳)
- 未来に係わる重要な研究は国家として管理するべきだと思う(男性/67歳)
- 国民の認知度も上がり、推進力が増すと感じたため(男性/35歳)

「そう思う」の回答理由

- グローバルを相手にする状況下では、身分も安定した立場で活動して欲しい(男性/60歳)
- 世界に必要な技術を開発されているので、相応の報酬や研究費を常に確保できる状況にするべきだと思うから(女性/25歳)

「そうは思わない、現状維持でよい」の回答理由

- 宇宙開発は必要だが、宇宙よりも力を入れるべき大切なことがあると思う(女性/46歳)
- 国家としてやるべきなのか疑問(女性/56歳)
- 民間のほうが小回りがききやすいため(男性/68歳)

「その他」の回答理由

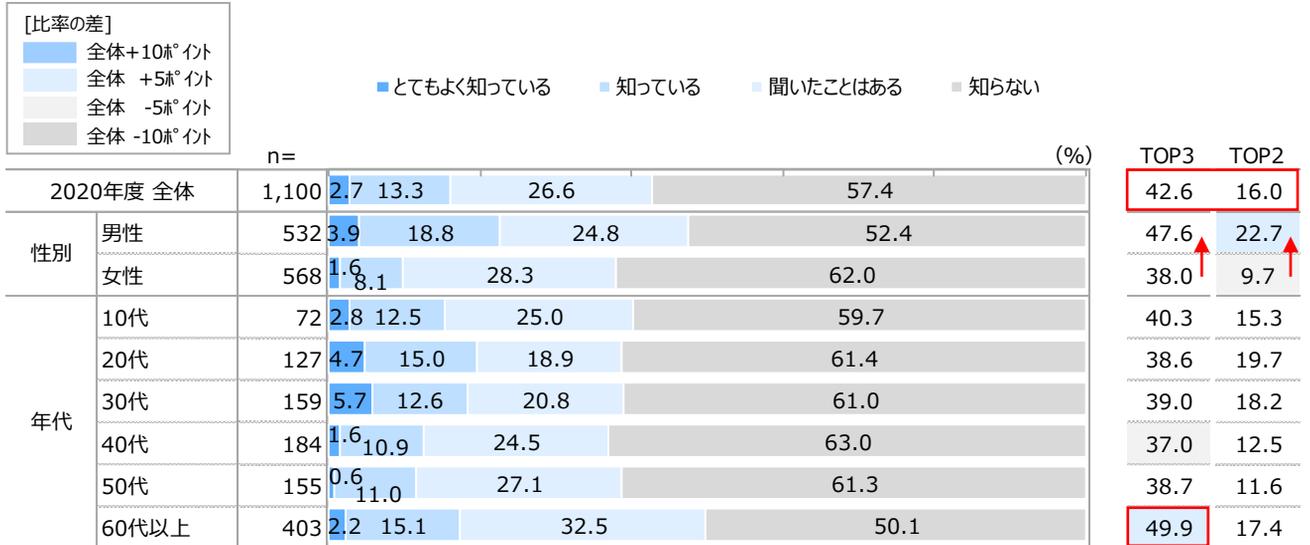
- 民営化して資金を民間調達することで本当に必要なことに対応できると考える。国からの資金はなしにすべきである(男性/50歳)
- どんなメリット、デメリットがあるかよく分からないから(男性/21歳)

7. JAXAの情報収集衛星の研究開発認知度

Q7 JAXAは、2008年宇宙基本法成立などを契機として、日本の防衛・安全保障に積極的に関わるようになり、情報収集衛星（安全保障や大規模災害対応を目的として、画像情報収集を行っている事実上の偵察衛星）の研究開発などを行っていることを知っていますか。
(単一回答)

- ✓ 情報収集衛星の研究開発についての認知度TOP3※は43%、TOP2※は16%である。
- ✓ 男女別では、TOP3、TOP2ともに男性の方がスコアが高い。
- ✓ 60代以上は、20～50代よりTOP3のスコアが高いことが特徴的である。

n=30以上の場合

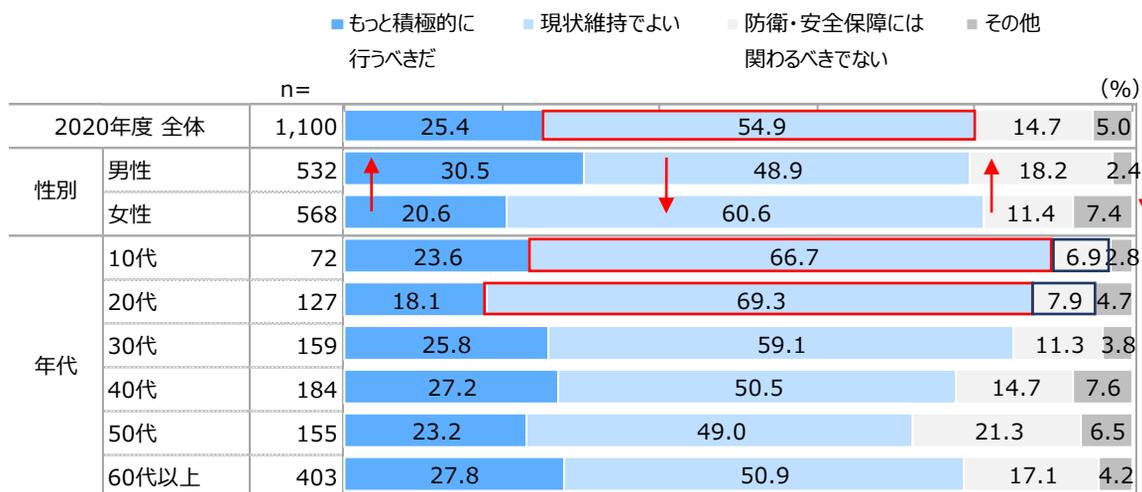


※TOP3：「とてもよく知っている」～「聞いたことはある」 ※TOP2：「とてもよく知っている」+「知っている」

8. JAXAの防衛・安全保障への関わりについて

Q8 前問のJAXAの防衛・安全保障への関わりをどのように思いますか。(単一回答)

- ✓ JAXAの防衛・安全保障への関わりに対して、全体では「現状維持でよい」が最も高く55%で、「積極的に進むべき」が25%と続く。
- ✓ 男女別では、男性の方が「積極的に進むべき」「関わるべきではない」が高く、女性の方が「現状維持でよい」「その他」が高い。
- ✓ 20代以下は50代以上より「現状維持でよい」が高く、「関わるべきではない」が低い。



9. その理由 (自由回答) ※一部抜粋

Q9 それはなぜですか。できるだけ具体的にお知らせください。(自由回答)

「もっと積極的に進むべきだ」の回答理由

- 今の世界情勢では国の防衛と安全保障はとても重要だと思うから(女性/62歳)
- 宇宙分野の知見を他の分野にも生かすべきだと思うから(男性/32歳)
- 国際社会において自国を守るには、情報収集能力の重要性がますます高まっているから(男性/46歳)

「現状維持でよい」の回答理由

- 宇宙科学と防衛、安全保障は切り離せない、線引きが難しい問題だと思うから(男性/60歳)
- 防衛や安全保障への関わりは十分に行われていると考えるから(女性/34歳)
- 防衛にこれ以上予算を使って欲しくないから(女性/68歳)

「防衛・安全保障には関わるべきではない」の回答理由

- 宇宙事業が本当に防衛、安全に関与するのが適切なのか疑わしいから(男性/33歳)
- 科学の進歩に力を入れるべきで防衛・安全保障には関わらないで欲しい(男性/38歳)
- 軍事に使われるのは不安だ(女性/48歳)

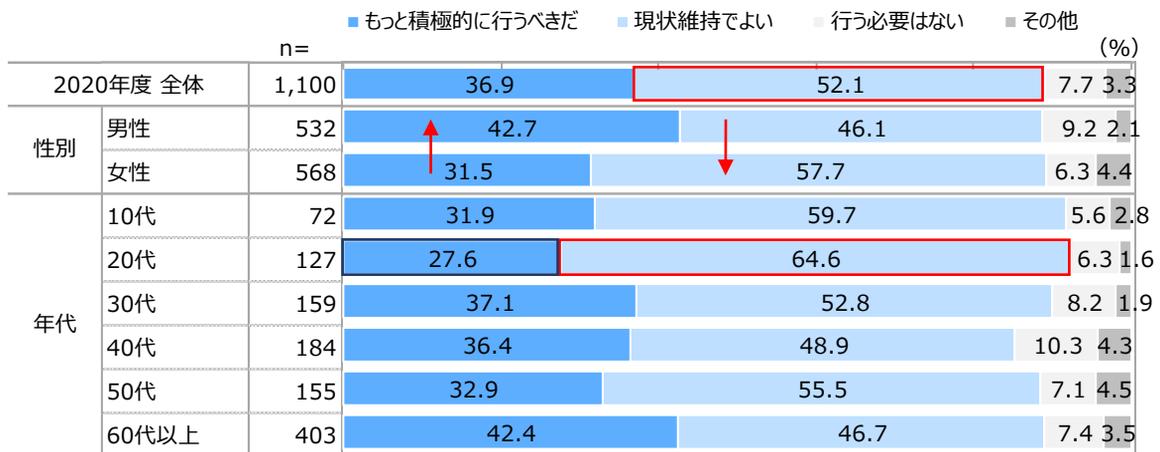
「その他」の回答理由

- もっと積極的に進むのなら国がやった方がよい(男性/67歳)
- 良い面もあるが、悪い面もあるから一概に積極的に進むべきと言いつらい(女性/42歳)
- JAXAがどのように防衛・安全保障に関わっているのか、よく知らないから(女性/64歳)

10. JAXAの宇宙事業の民間移管の取り組みについて

Q10 JAXAは現在、宇宙利用拡大・産業振興、とくに新興企業（ベンチャー企業）への支援や、民間でできることは国や政府ではなく民間でやってもらうという宇宙事業の民間移管などに取り組んでいます。そのことをどのように思いますか。（単一回答）

- ✓ 宇宙事業の民間移管について、全体では「現状維持でよい」が最も高く52%、「積極的に進めるべき」が37%と続く。
- ✓ 男女別では、男性の方が「積極的に進めるべき」が高く、女性の方が「現状維持でよい」が高い。
- ✓ 20代は60代以上より「積極的に進めるべき」が低く、40代、60代以上より「現状維持でよい」が高い。



11. その理由（自由回答）※一部抜粋

Q11 それはなぜですか。できるだけ具体的にお知らせください。（自由回答）

「もっと積極的に進めるべきだ」の回答理由

- ・ 民間で行えることは民間に任せれば技術向上が望めると思う(女性/19歳)
- ・ 民間でやってもらえば民間企業の雇用が増えそうだから(男性/39歳)
- ・ 国や政府ベースでは、開発力や財源に限りがあるから(女性/61歳)

「現状維持でよい」の回答理由

- ・ 宇宙事業拡大の為に民間の技術も取り入れた方が進めやすいと考えられるから(男性/23歳)
- ・ 民間でやったほうが競争力が高まって、良い結果になりそうだから(女性/35歳)
- ・ 国が参入することは税金が絡んでくるので自由な研究や開発の妨げになりかねない(男性/54歳)

「行う必要はない」の回答理由

- ・ 特殊な内容なので民間では負担が大きいのではと思う(女性/35歳)
- ・ 国が中心で推進すべき(男性/70歳)
- ・ 民間になると利益ばかりを求めるから(女性/57歳)

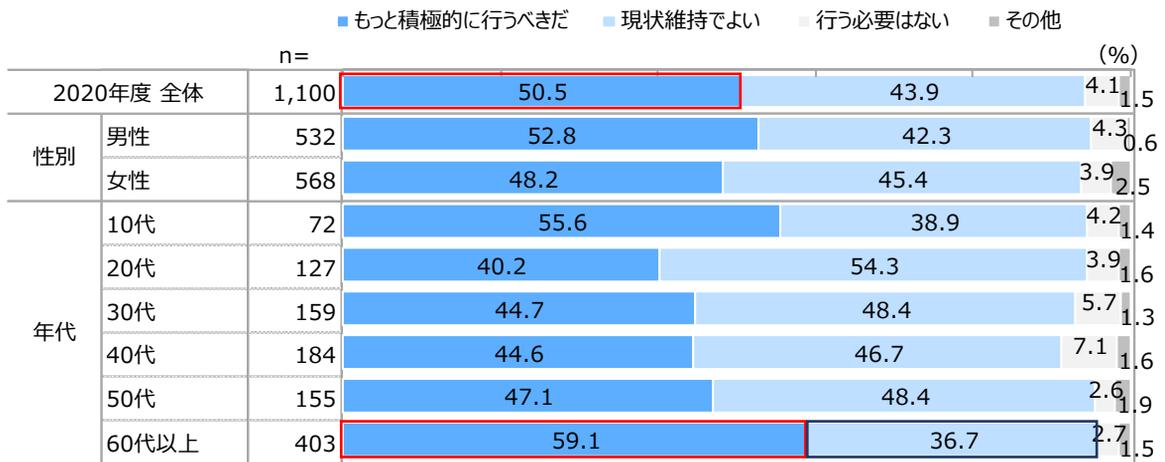
「その他」の回答理由

- ・ 民間資本がどれだけニーズに応えられるかが微妙(男性/53歳)
- ・ 予算の掛け方も含めて見極める必要があると思う(男性/53歳)
- ・ メリット・デメリットが分からないから(女性/40歳)

12. JAXAの宇宙科学研究所（ISAS）の活動について

Q12 JAXAの宇宙科学研究所（ISAS）は、他の大学等と協力して教授の下で大学院生が研究を行い、自然科学（理系のロケットや人工衛星、天文学など）の研究者や専門家の育成を行っています。そのことをどのように思いますか。（単一回答）

- ✓ 宇宙科学研究所の活動について、全体では「積極的に行うべき」が51%と過半数である。
- ✓ 男女別では大きな差は見られない。
- ✓ 60代以上は20～50代より「積極的に行うべき」が高く、「現状維持でよい」が低い。



13. その理由（自由回答）※一部抜粋

Q13 それはなぜですか。できるだけ具体的にお知らせください。（自由回答）

「もっと積極的に行うべきだ」の回答理由

- 宇宙研究の発展の為に研究者の育成が必要不可欠であるから(男性/23歳)
- 研究者や専門家の育成は日本は遅れているとおもうから(女性/73歳)
- 優秀な人材の発掘や育成につながると思うから(女性/40歳)
- 研究者のすそ野を広げるために(男性/64歳)

「現状維持でよい」の回答理由

- 教授の下で研究を行い研究者や専門家の育成を行うのが自然であり、理に合っているから(男性/56歳)
- 特定の専門家の育成より、他の分野の育成もまんべんなくやるべきなので、維持で良い(女性/35歳)
- しかるべく育成が行われていればよい(男性/41歳)

「行う必要はない」の回答理由

- 費用がかかるから今は必要ない(女性/75歳)
- 変える必要はない(男性/29歳)
- 興味がない(男性/32歳)

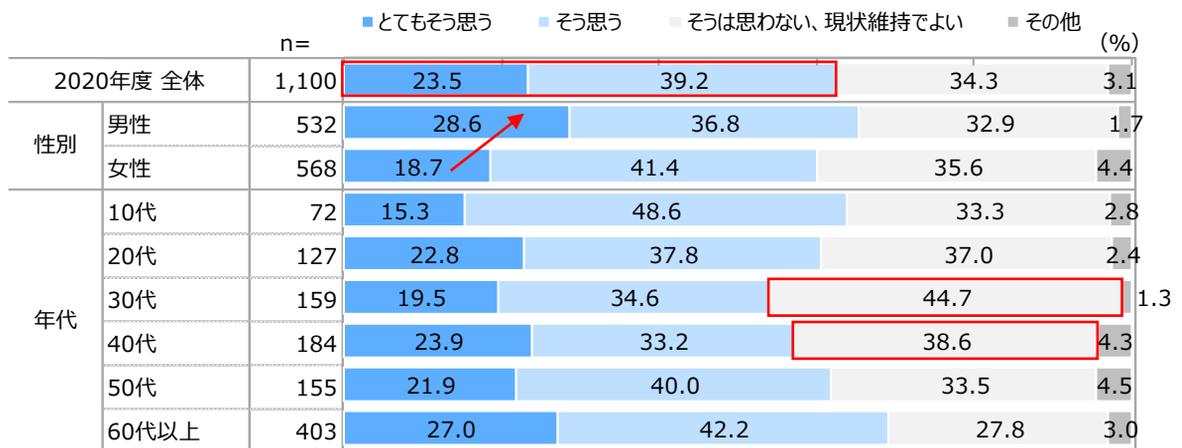
「その他」の回答理由

- 興味がないから(女性/28歳)
- 専門的なことはよくわかりません(女性/55歳)

14. 人文・社会科学の研究者や専門家も育成した方がよいと思うか

Q14 JAXAは、前問のように、自然科学（理系のロケットや人工衛星、天文学など）を中心に研究者や専門家の育成を行っていますが、人文・社会科学（文系の宇宙政策、宇宙法、宇宙ビジネス、歴史、文化・芸術など）の研究者や専門家も育成した方がよいと思いますか。
(単一回答)

- ✓ 人文・社会科学の研究者や専門家も育成した方がよいと思う割合は全体で63%。
- ✓ 男女別では、男性の方が「とてもそう思う」のスコアが高い。
- ✓ 30代、40代は60代以上より「現状維持でよい」のスコアが高い。



15. その理由（自由回答） ※一部抜粋

Q15 それはなぜですか。できるだけ具体的にお知らせください。(自由回答)

「とてもそう思う」の回答理由

- ・ 理系分野に偏るのではなく文系分野にも視野を広げた方がより宇宙研究の幅が広がると思うから(女性/18歳)
- ・ さまざまな視点からの研究、考察が必要なので育成すべき(男性/64歳)
- ・ 将来の日本の発展のために必要だから(男性/31歳)

「そう思う」の回答理由

- ・ 他分野との連携による相乗効果が期待できるから(男性/31歳)
- ・ 色々な分野の人材育成は大切だと思う(女性/67歳)
- ・ 新しい可能性が広がるから。(女性/36歳)

「そう思わない、現状維持でよい」の回答理由

- ・ 手を広げるのではなく、特化した分野を極めて欲しい(女性/46歳)
- ・ 経費がかかるからその分他にまわす方がいいと思う(女性/61歳)
- ・ 別の機関でよいと思う(男性/37歳)

「その他」の回答理由

- ・ 今のままで問題がないならそれでいいと思う(女性/18歳)
- ・ 具体的なメリットがイメージできないから(女性/21歳)

16. 宇宙に関する関心

<16-1. 宇宙への関心>

Q16-1 それぞれの項目について、「当てはまる」から「当てはまらない」の5段階でお答えください。
【宇宙に関心はありますか】(単一回答)

(経年比較 Q9-1、p.15)

- ✓ 宇宙への関心を持っている人の割合は全体の58%である。
- ✓ 男女別では、女性より男性の方が関心が15ポイント高い。
- ✓ 60代以上は20～50代よりも関心が高いといえる。

n=30以上の場合

[比率の差]

■ 全体+10ポイント
■ 全体 +5ポイント
■ 全体 -5ポイント
■ 全体 -10ポイント

■ 当てはまる ■ やや当てはまる ■ どちらともいえない ■ あまり当てはまらない ■ 当てはまらない

		n=	n (%)					TOP2	BTM2
2020年度 全体		1,100	19.5	38.2	18.7	15.1	8.5	57.6	23.6
性別	男性	532	26.1	39.1	16.0	11.5	7.3	65.2	18.8
	女性	568	13.2	37.3	21.3	18.5	9.7	50.5	28.2
年代	10代	72	16.7	48.6	18.1	9.7	6.9	65.3	16.7
	20代	127	18.1	26.8	19.7	20.5	15.0	44.9	35.4
	30代	159	19.5	31.4	18.9	18.9	11.3	50.9	30.2
	40代	184	14.7	38.6	16.8	17.4	12.5	53.3	29.9
	50代	155	17.4	37.4	25.8	14.2	5.2	54.8	19.4
	60代以上	403	23.3	42.7	16.6	12.2	5.2	66.0	17.4

※TOP2:「当てはまる」+「やや当てはまる」 ※BTM2:「あまり当てはまらない」+「当てはまらない」

<16-2. 宇宙に行ってみたいか>

Q16-2 それぞれの項目について、「当てはまる」から「当てはまらない」の5段階でお答えください。
【宇宙に行ってみたいですか】(単一回答)

(経年比較 Q9-2、p.15)

- ✓ 宇宙へ行ってみたい人の割合は全体の30%である。
- ✓ 男女別では、女性より男性の方が「行ってみたい」割合が9ポイント高い。
- ✓ 60代以上は20～50代よりも「行ってみたい」割合が低い。

n=30以上の場合

[比率の差]

■ 全体+10ポイント
■ 全体 +5ポイント
■ 全体 -5ポイント
■ 全体 -10ポイント

■ 当てはまる ■ やや当てはまる ■ どちらともいえない ■ あまり当てはまらない ■ 当てはまらない

		n=	n (%)					TOP2	BTM2
2020年度 全体		1,100	11.0	19.0	21.9	20.6	27.5	30.0	48.1
性別	男性	532	15.0	19.7	22.6	17.9	24.8	34.8	42.7
	女性	568	7.2	18.3	21.3	23.2	29.9	25.5	53.2
年代	10代	72	9.7	20.8	25.0	31.9	12.5	30.6	44.4
	20代	127	8.7	26.0	22.0	15.7	27.6	34.6	43.3
	30代	159	15.7	22.0	19.5	17.6	25.2	37.7	42.8
	40代	184	14.1	19.0	17.4	21.7	27.7	33.2	49.5
	50代	155	11.6	20.6	20.0	22.6	25.2	32.3	47.7
	60代以上	403	8.4	14.6	25.1	20.1	31.8	23.1	51.9

※TOP2:「当てはまる」+「やや当てはまる」 ※BTM2:「あまり当てはまらない」+「当てはまらない」

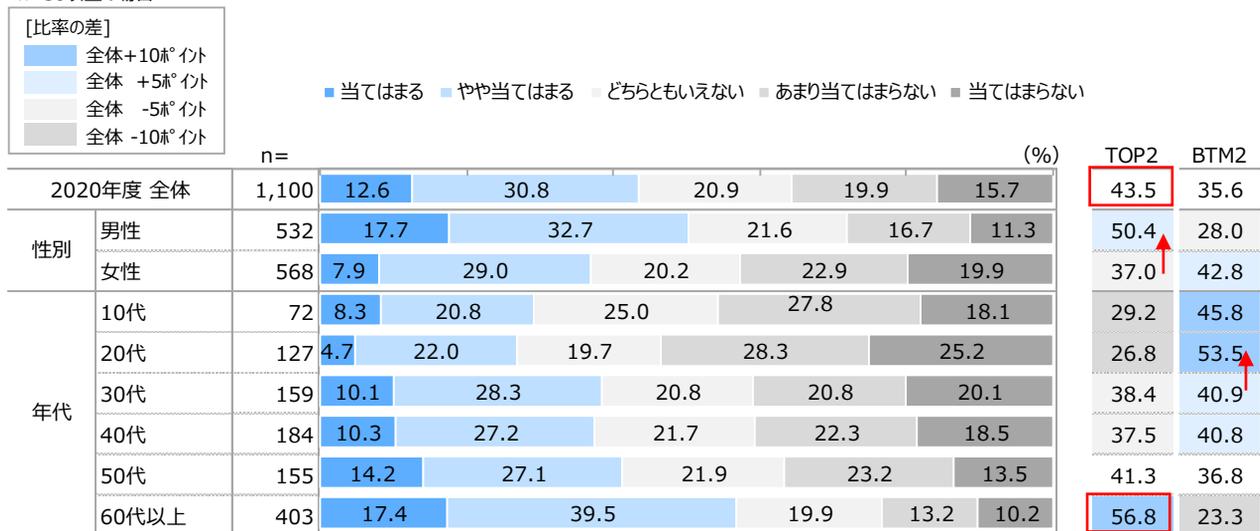
<16-3. 宇宙に関するテレビ番組を見るか>

Q16-3 それぞれの項目について、「当てはまる」から「当てはまらない」の5段階でお答えください。
【宇宙に関するテレビ番組を見ますか】(単一回答)

(経年比較 Q9-3, p.15)

- ✓ 宇宙に関するテレビを見る人の割合は全体で44%である。
- ✓ 男女別では、女性より男性の方が見る割合が13ポイント高い。
- ✓ 60代以上は見る割合が57%と突出しており、20代は30代以上より見ない割合が高い。

n=30以上の場合



※TOP2:「当てはまる」+「やや当てはまる」 ※BTM2:「あまり当てはまらない」+「当てはまらない」

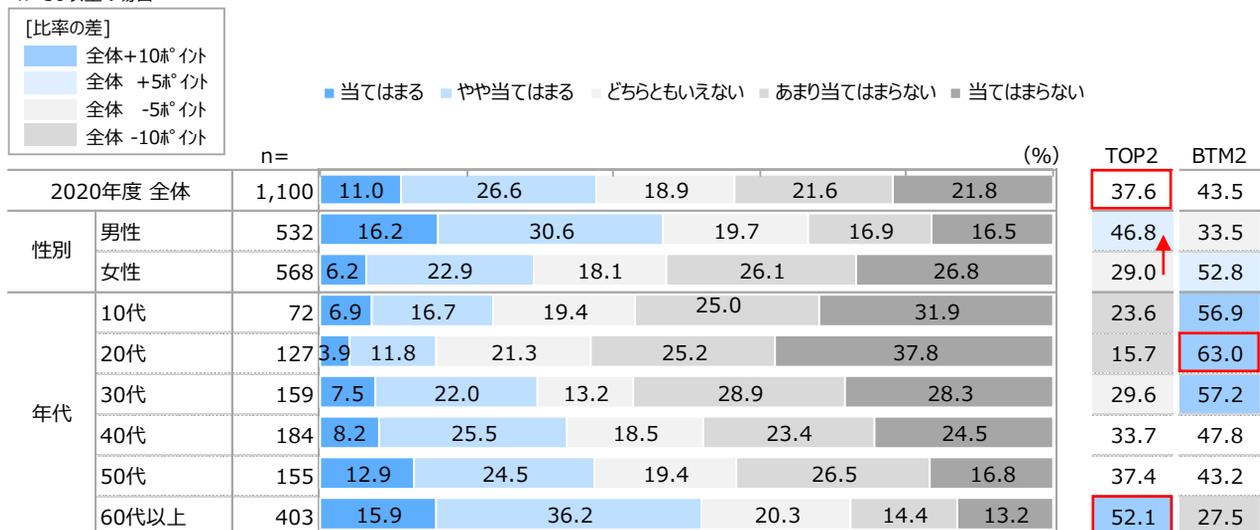
<16-4. 宇宙に関する新聞記事を読むか>

Q16-4 それぞれの項目について、「当てはまる」から「当てはまらない」の5段階でお答えください。
【宇宙に関する新聞記事を読みますか】(単一回答)

(経年比較 Q9-4, p.15)

- ✓ 宇宙に関する新聞記事を読む人の割合は全体で38%である。
- ✓ 男女別では、女性より男性の方が読む割合が18ポイント高い。
- ✓ 60代以上では読む割合52%と突出しており、20代は40代以上より読まない割合が高い。

n=30以上の場合



※TOP2:「当てはまる」+「やや当てはまる」 ※BTM2:「あまり当てはまらない」+「当てはまらない」

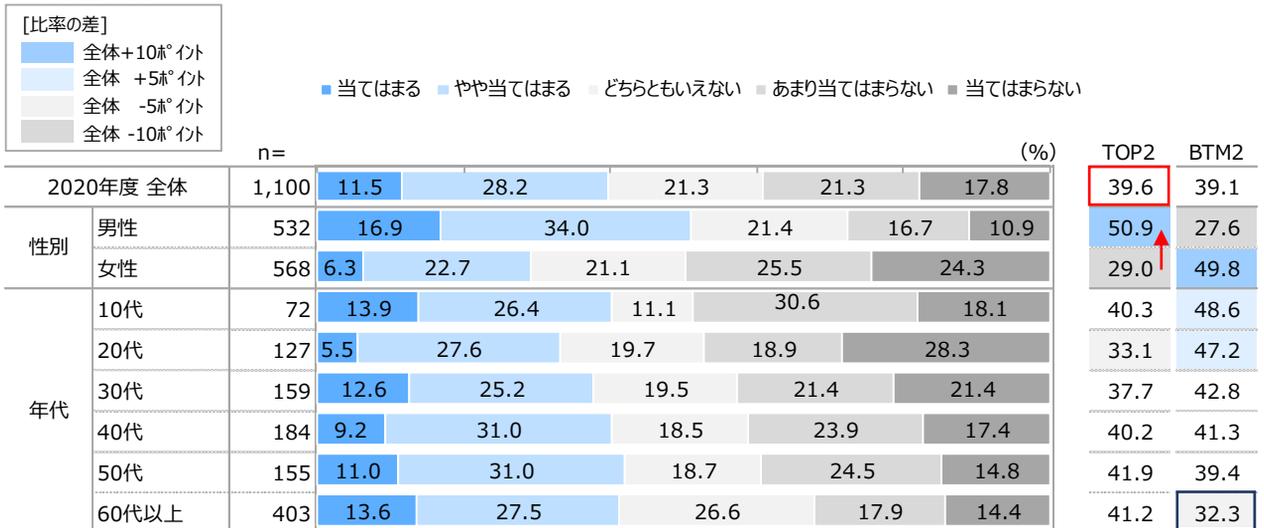
<16-5. 宇宙に関するインターネット記事を読むか>

Q16-5 それぞれの項目について、「当てはまる」から「当てはまらない」の5段階でお答えください。
【宇宙に関するインターネットの記事を読みますか】(単一回答)

(経年比較 Q9-5、p.15)

- ✓ 宇宙に関するインターネット記事を読む人の割合は全体で40%である。
- ✓ 男女別では、女性より男性の方が読む割合が22ポイント高い。
- ✓ 60代以上は、20~40代より読まない割合が低い。

n=30以上の場合



※TOP2：「当てはまる」+「やや当てはまる」 ※BTM2：「あまり当てはまらない」+「当てはまらない」

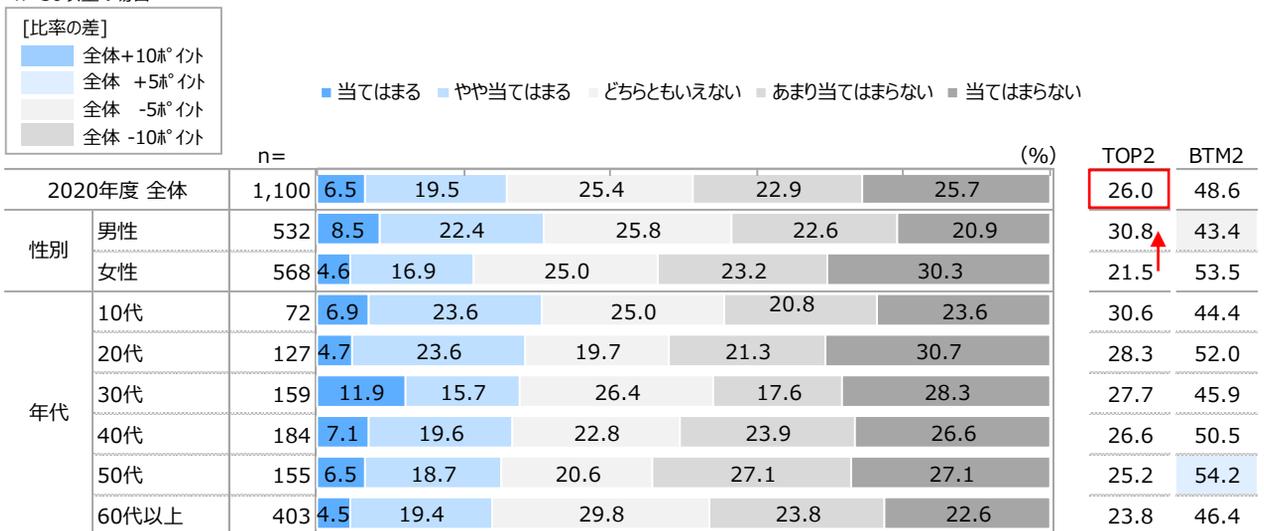
<16-6. 宇宙に関する展覧会などに行くか>

Q16-6 それぞれの項目について、「当てはまる」から「当てはまらない」の5段階でお答えください。
【博物館や科学館などで開催されている宇宙に関する展覧会などに行きますか】(単一回答)

(経年比較 Q9-6、p.15)

- ✓ 宇宙に関する展覧会などに行く人の割合は全体で26%である。
- ✓ 男女別では、女性より男性の方が展覧会に行く割合が9ポイント高い。
- ✓ 年代別では、大きな差は見られない。

n=30以上の場合



※TOP2：「当てはまる」+「やや当てはまる」 ※BTM2：「あまり当てはまらない」+「当てはまらない」

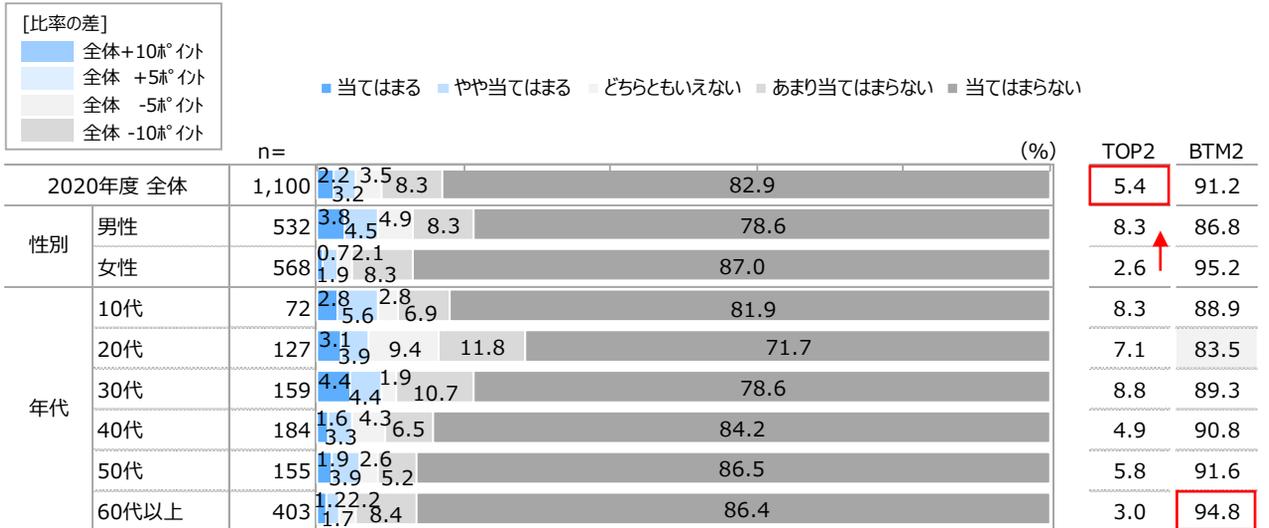
<16-7. ロケットの打ち上げを実際に目の前で見たことがあるか>

Q16-7 それぞれの項目について、「当てはまる」から「当てはまらない」の5段階でお答えください。
【ロケットの打ち上げを、実際に目の前で見たことがありますか】(単一回答)

(経年比較 Q9-7, p.15)

- ✓ ロケットの打ち上げを実際に目の前で見たことがある人の割合は全体で5%である。
- ✓ 男女別では、女性より男性の方が見たことがある割合が6ポイント高い。
- ✓ 60代以上は、20代、30代より見たことがない割合が高い。

n=30以上の場合



※TOP2 : 「当てはまる」+「やや当てはまる」 ※BTM2 : 「あまり当てはまらない」+「当てはまらない」

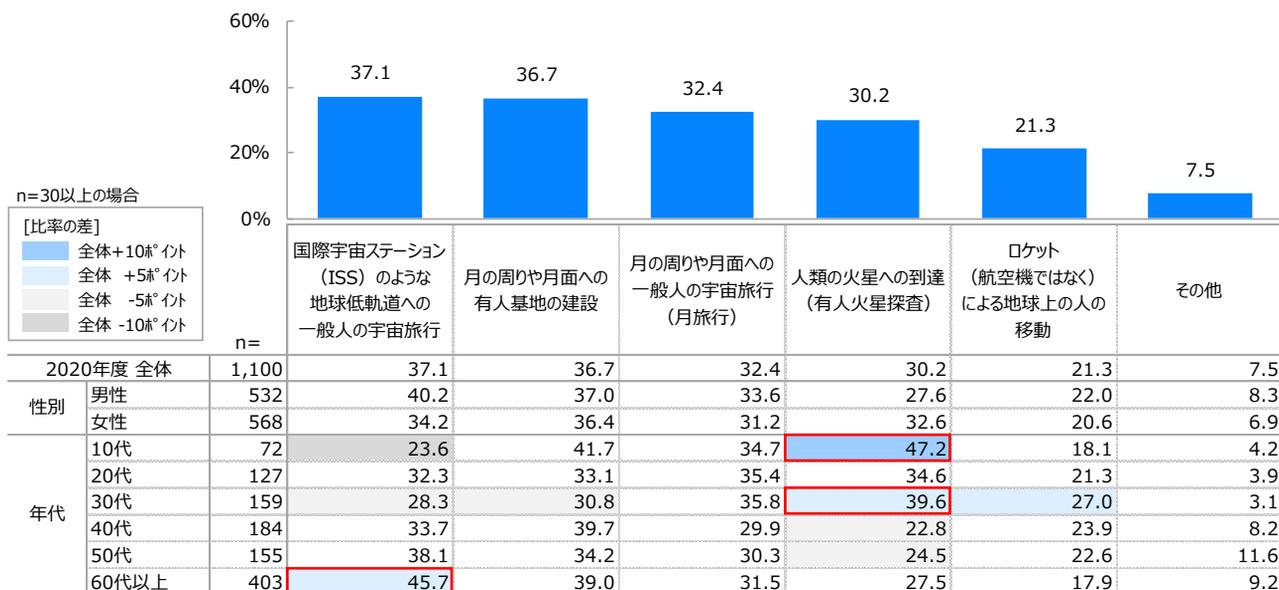
17. 2030年頃の宇宙探査や宇宙活動

<17-1. 実現していると思うものすべて選択>

Q17-1 今から約10年後の2030年頃、宇宙探査や宇宙活動はどのようになっていると思いますか。
【実現していると思うものをすべて選んでください】（複数回答）

（経年比較 Q10-1、p.15）

- ✓ 2030年頃に実現していると思う活動について上位の項目は35%前後でスコアに大きな差は見られない。
- ✓ 60代以上は40代以下より「地球低軌道への一般人の宇宙旅行」のスコアが高く、10代、30代は40代以上より「人類の火星への到達」のスコアが高くなっている。



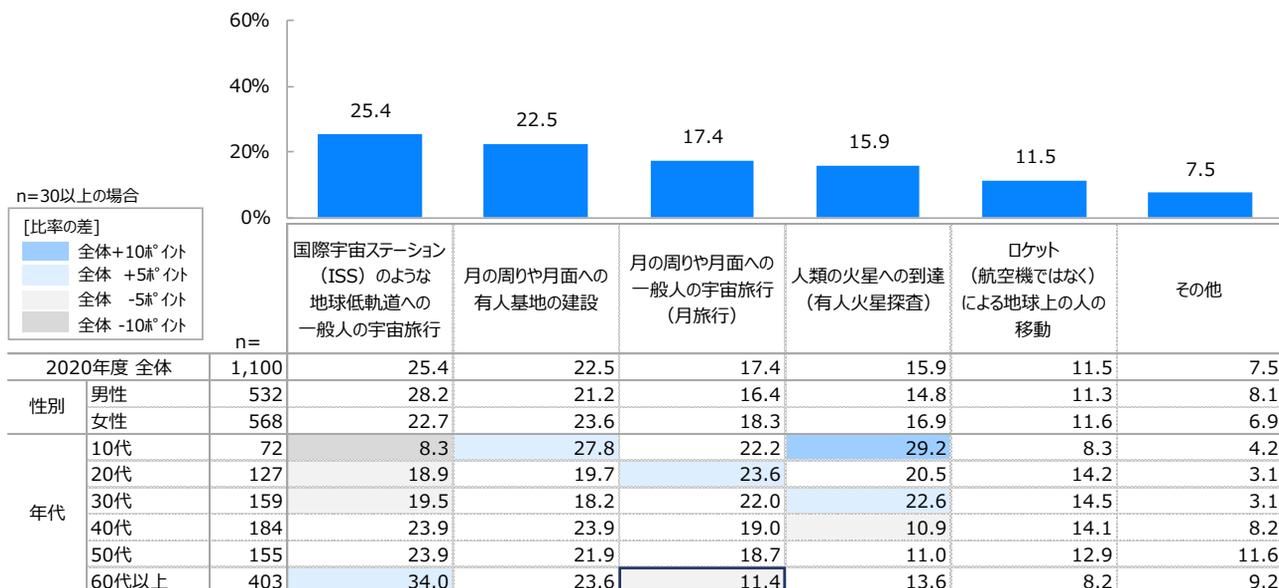
※「2020年度 全体」のスコアが大きい順

<17-2. 最も実現していると思うものを一つ選択>

Q17-2 今から約10年後の2030年頃、宇宙探査や宇宙活動はどのようになっていると思いますか。
【最も実現していると思うものを一つ選んでください】（単一回答）

（経年比較 Q10-2、p.15）

- ✓ 最も実現していると思うものについては、「地球低軌道への一般人の宇宙旅行」が25%でトップ。全体の傾向は実現しているものをすべて選択した場合と同様である。
- ✓ 上のグラフと異なる点としては、「月の周りや月面への一般人の宇宙旅行」で60代以上が他の年代よりスコアが低くなっていることがあげられる。



※「2020年度 全体」のスコアが大きい順

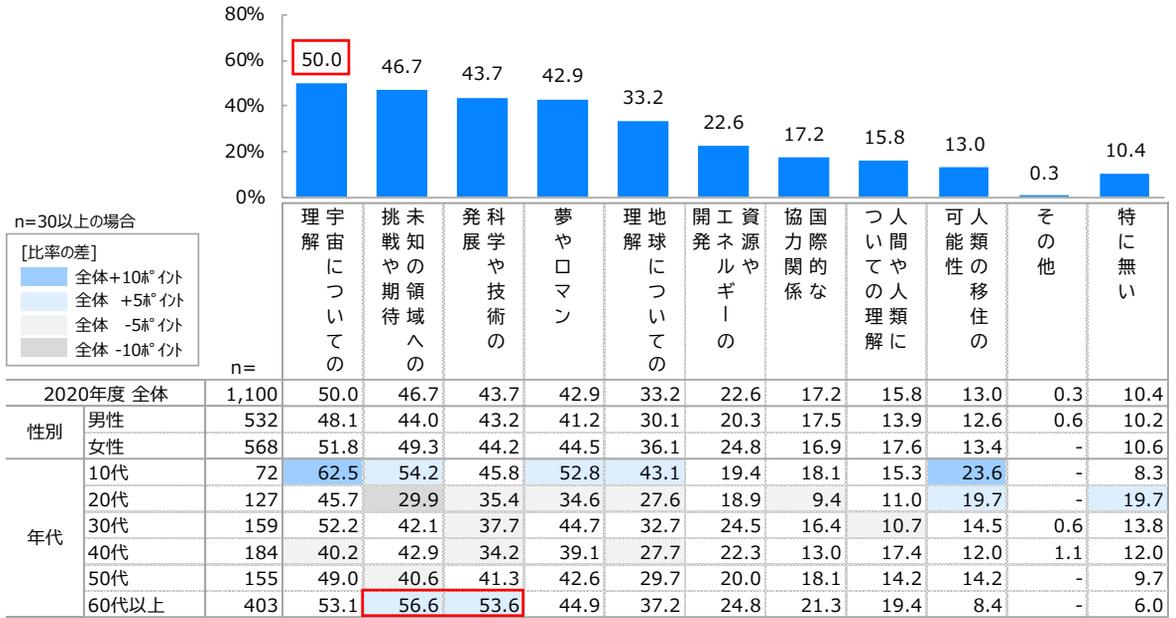
18. 宇宙科学探査の成果

<18-1. 当てはまると思うものすべて選択>

Q18-1 これまでの宇宙科学探査（日本では小惑星探査機「はやぶさ1号・2号」や月周回衛星「かぐや」など）は、どのような成果をもたらしたと思いますか。

【当てはまると思うものをすべて選んでください】（複数回答）

- ✓ 宇宙科学探査がもたらした成果としては、全体で「宇宙についての理解」が50%でトップ。（経年比較 Q11-1、p.16）
- ✓ 「未知の領域への挑戦や期待」「科学や技術の発展」では、60代以上が他の年代よりもスコアが高い傾向にある。



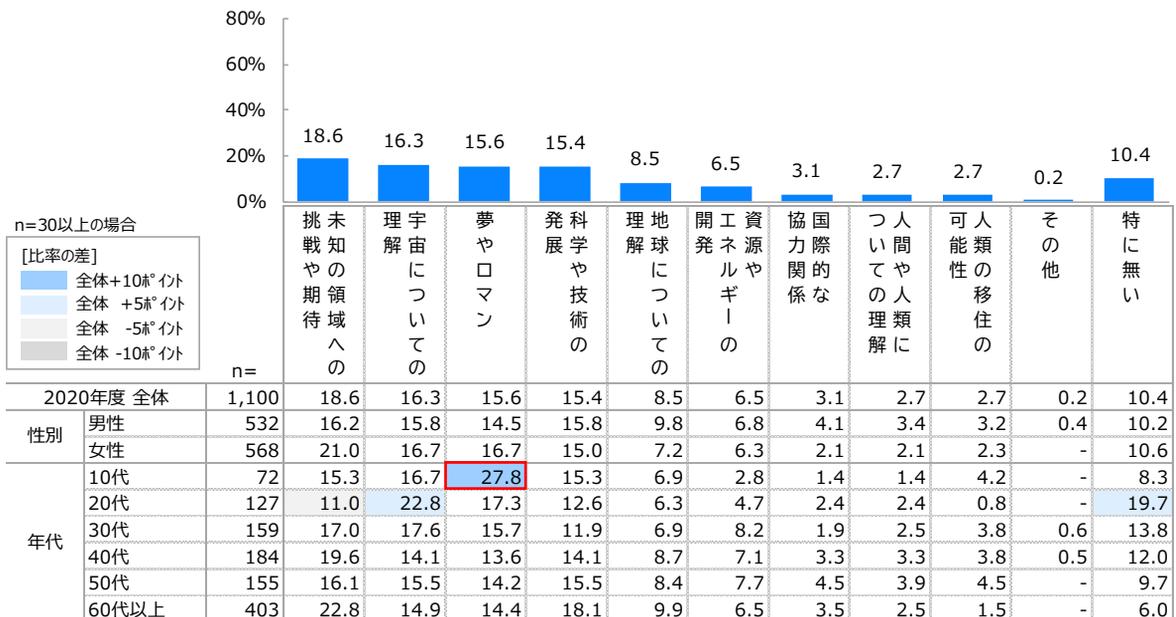
※「2020年度 全体」のスコアが大きい順

<18-2. 最も当てはまると思うものを一つ選択>

Q18-2 これまでの宇宙科学探査（日本では小惑星探査機「はやぶさ1号・2号」や月周回衛星「かぐや」など）は、どのような成果をもたらしたと思いますか。

【最も当てはまると思うものを一つ選んでください】（単一回答）

- ✓ 最も当てはまるものについては、上位4項目が近いスコアとなっており15～19%である。（経年比較 Q11-2、p.16）
- ✓ 「夢やロマン」では、10代が40代以上よりもスコアが高い。



※「2020年度 全体」のスコアが大きい順

19. 今後の宇宙科学探査に期待すること（自由回答）※一部抜粋

Q19 今後の宇宙科学探査に何を期待しますか。（自由回答）

【宇宙・地球・生命の起源】

- 地球の成り立ち、宇宙の成り立ち、生命の起源などの解明(女性/62歳)
- 地球や人類発生の解明と理解並びにその技術の開発(女性/82歳)

【新しいエネルギー】

- 地球の資源との兼ね合いで、宇宙から地球へ還元できる資源を見つけて欲しい(男性/45歳)
- 地球上には存在しないエネルギー源の発見(男性/36歳)

【地球以外での生命活動・移住】

- 地球以外で生命が活動できるような環境があるかどうか(男性/21歳)
- 人間が移住できる場所が地球以外にあるかどうかの調査(女性/51歳)

【その他】

- 隕石などの宇宙からの災害から地球を守ること(男性/36歳)
- 火星への有人宇宙飛行(男性/21歳)

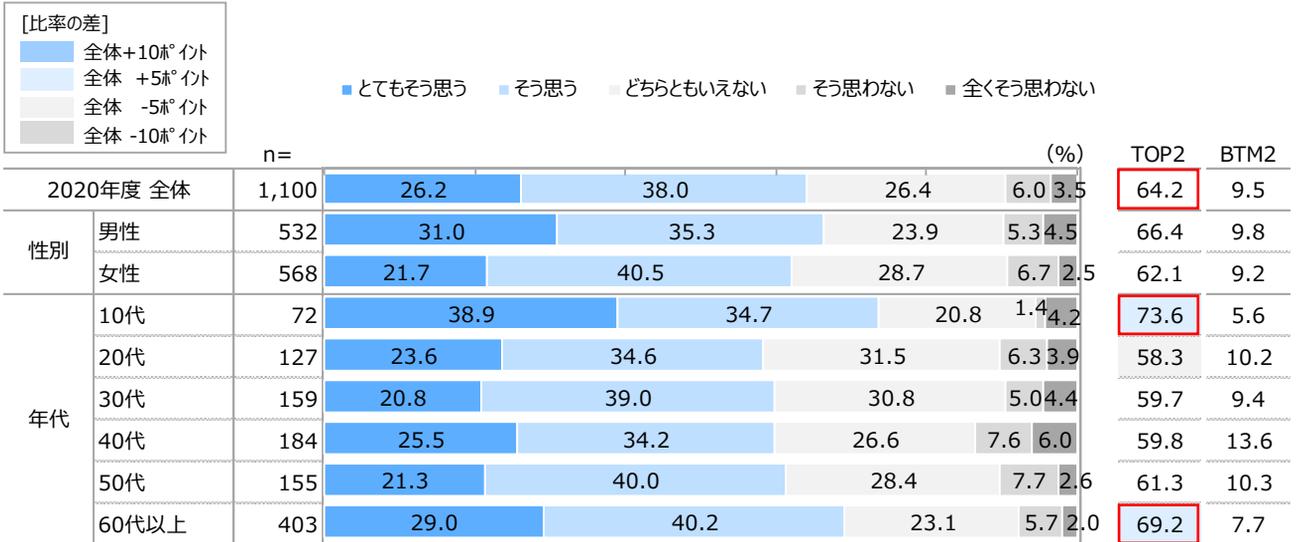
20. 日本は今後も「宇宙先進国」であって欲しいか

Q20 日本は現在、予算規模やその実績・貢献において世界でも5本の指に入るほどの「宇宙先進国」と言えますが、今後も「宇宙先進国」であって欲しいと思いますか。(単一回答)

(経年比較 Q13、p.16)

- ✓ 今後も「宇宙先進国」であって欲しいと思う割合は64%である。
- ✓ 10代は20代より、60代以上は20～40代より「宇宙先進国」であって欲しいと思う割合が高いといえる。

n=30以上の場合



※TOP2 : 「とてもそう思う」+「そう思う」 ※BTM2 : 「そう思わない」+「全くそう思わない」

21. その理由（自由回答）※一部抜粋

Q21 それはなぜですか。できるだけ具体的にお知らせください。(自由回答)

「TOP2」の回答理由

- 資源のない日本は技術で生き残る必要があるから(男性/57歳)
- 宇宙先進国であるということが、日本という国の価値を高めると思うから(女性/19歳)
- 今後日本の国益に宇宙がますます重要になると思うから(女性/62歳)
- 日本が世界をリードしてほしい(男性/61歳)
- 宇宙は人間の夢やロマンであるため、日本も宇宙先進国であって、中心となってほしい(女性/17歳)

「どちらともいえない」の回答理由

- 宇宙に予算を使うのもいいがそれよりもっとやる事があると思うから(女性/62歳)
- 今の地球が不安なので、もっと予算を地球環境問題等に使って欲しい(女性/72歳)
- 他の国と共同作業すれば良い(男性/58歳)

「BTM2」の回答理由

- 宇宙に関する事以外にも優先すべき事がたくさんあるから(男性/42歳)
- 日本単独ではなく各国と協力して事業を進めるべきだから(男性/36歳)
- 今はコロナ禍であり、優先順位として国民の生活を支えることに税金を使ってほしい(女性/48歳)

22. 宇宙関連の予算規模に対する考え

Q22 日本は現在、年間政府予算の約100兆円のうち、約0.35%の約3,500億円を宇宙関連予算として使っています。この宇宙関連の予算規模に関してどのように思いますか。

* 参考：日本は、社会保障関連に約33兆円、公共事業関連に約6兆円、防衛関連に約5兆円、原子力関連に約5,200億円を使っています。(単一回答)

(経年比較 Q14、p.17)

- ✓ 全体では、「現状維持」が55%と最も高く、「増やした方がよい」が32%と続く。
- ✓ 男女別では、男性は「増やした方がよい」が高く、女性は「現状維持でよい」が高い。
- ✓ 60代以上は、他の年代より「増やした方がよい」の割合が高くなっており、20代以下は、50代以上よりも「現状維持でよい」の割合が高い。

		n=	■ 増やした方がよい	■ 現状維持でよい	■ 減らした方がよい	(%)
2020年度 全体		1,100	32.1	54.9	13.0	
性別	男性	532	40.0	48.3	11.7	
	女性	568	24.6	61.1	14.3	
年代	10代	72	19.4	68.1	12.5	
	20代	127	17.3	67.7	15.0	
	30代	159	25.8	57.2	17.0	
	40代	184	27.7	57.1	15.2	
	50代	155	32.9	50.3	16.8	
	60代以上	403	43.2	48.4	8.4	

23. その理由（自由回答） ※一部抜粋

Q23 それはなぜですか。できるだけ具体的にお知らせください。(自由回答)

「増やした方がよい」の回答理由

- 原子力を減らして、宇宙関連予算を増やすべき(女性/50歳)
- 予算を増額したほうがより技術発展が進むと思うので(男性/63歳)
- 規模が大きいくだけに研究や開発、人材育成にお金をかけた方が良いと思う(女性/58歳)
- 公共事業費に比べて、宇宙関連予算は少ないと思う(女性/74歳)

「現状維持でよい」の回答理由

- 現状の予算規模で宇宙先進国として今後も維持出来るなら、現状のままでいい(男性/50歳)
- 宇宙事業よりその他の予算を見直したほうがいい(男性/29歳)
- 現在コロナで国の予算がひっ迫しているから(女性/62歳)
- 社会保障に影響するから(男性/76歳)

「減らした方がよい」の回答理由

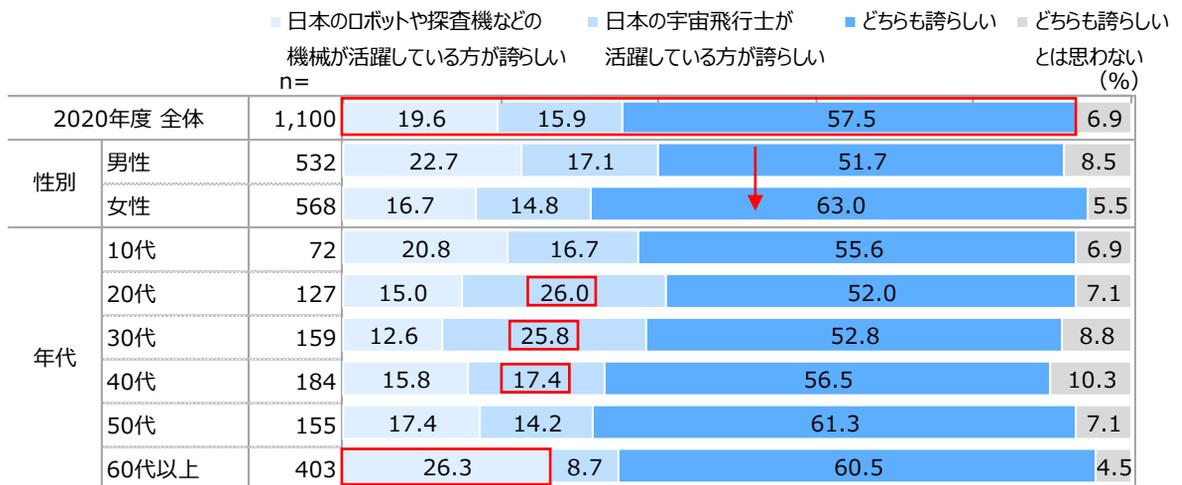
- 今はコロナで宇宙にお金を使っている場合ではないと思う。まず地球の問題から解決するべきだと思う(女性/22歳)
- 今は医療崩壊の危機にあるのでそちらに回せたら良いと思う(女性/60歳)
- 他にも注力した方がいい研究分野がある(男性/43歳)

24. 日本の「ロボットや探査機などの機械」と「宇宙飛行士」の活躍に対する考え

Q24 宇宙（国際宇宙ステーション（ISS）、月面、小惑星など）において、日本のロボットや探査機などの機械が活躍しているのと、日本の宇宙飛行士が活躍しているのでは、どちらが誇らしいですか。（単一回答）

（経年比較 Q17、p.17）

- ✓ 誇らしいと感じている人は全体の93%。
- ✓ 男女別では、男性より女性の方が「どちらも誇らしい」の割合が11pt高い。
- ✓ 「ロボットの探査機などの機械」の方が誇らしいと感じる割合は20～50代より60代以上で高く、「宇宙飛行士」の方が誇らしいと感じる割合は60代以上より20～40代の方が高い傾向にある。



25. その理由（自由回答）※一部抜粋

Q25 それはなぜですか。できるだけ具体的にお知らせください。（自由回答）

「日本のロボットや探査機などの機械が活躍している方が誇らしい」の回答理由

- 日本の技術が素晴らしいということがよく分かるから(女性/33歳)
- 個人ではなく、多くの人の努力の成果を見ることになる(男性/67歳)
- 探査機などの発展の方が日本の技術力の向上になる(男性/75歳)

「日本の宇宙飛行士が活躍しているほうが誇らしい」の回答理由

- 日本人の活躍があらゆる人の夢になる。機械よりも人の心を動かすのは人(女性/31歳)
- 同じ日本人として尊敬する(女性/49歳)
- 他国に負けない優れた日本人が居ることを誇りに思う(女性/67歳)

「どちらも誇らしい」の回答理由

- 日本の技術と飛行士の技術の両方があるから(男性/60歳)
- 日本人のものづくりの技術力、日本人の賢さが両方見える(女性/56歳)
- 日本の技術と日本の優秀な人材が活躍しているのは誇らしい(女性/46歳)
- 日本人の技術、繊細さをアピール出来ている(女性/62歳)

「どちらも誇らしいとは思わない」の回答理由

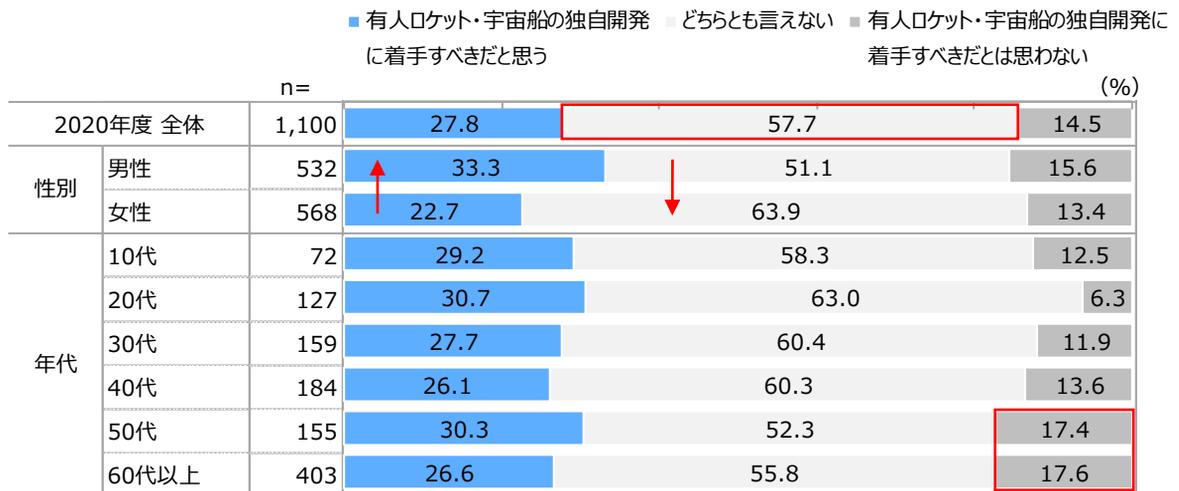
- 自分とは関係のないことだから(男性/26歳)
- 日本が関わっているからといって誇らしいとは思えません(男性/29歳)

26. 有人ロケット・宇宙船の独自開発に対する考え

Q26 日本は現在、物資を輸送するロケットは持っていますが、人を乗せることができるロケットは持っていません。米国・ロシア・中国に続いて有人ロケット・宇宙船の独自開発に着手すべきだと思いますか。(単一回答)

(経年比較 Q18、p.17)

- ✓ 全体では、「どちらとも言えない」の割合が58%と最も高く、「着手すべき」が28%と続く。
- ✓ 男女別では、男性は「着手すべき」が高く、女性は「どちらとも言えない」が高い。
- ✓ 50代以上は20代より「着手すべきだとは思わない」が高い。

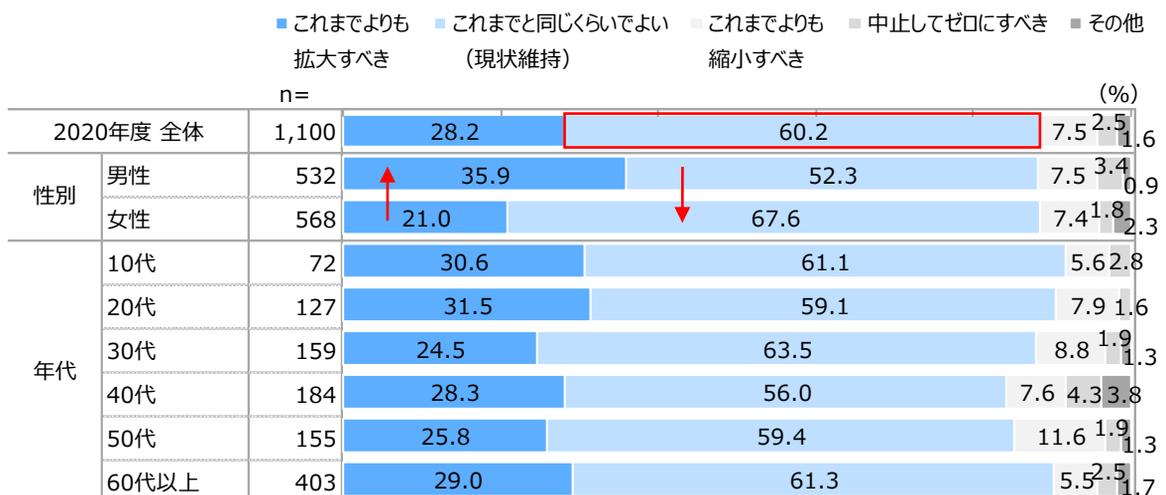


27. 有人宇宙活動の取り組みに対する考え

Q27 日本はこれまで、米国のスペースシャトルやロシアのソユーズ宇宙船などを利用して、10人以上の宇宙飛行士を宇宙へ派遣してきました。今後、有人宇宙活動にどのように取り組んでいったらよいと思いますか。(単一回答)

(経年比較 Q19、p.18)

- ✓ 全体では、「現状維持」が60%と最も高く、「拡大すべき」が28%と続く。
- ✓ 男女別では、男性は「拡大すべき」の割合が高く、女性は「現状維持」の割合が高い。
- ✓ 年代別では大きな差は見られない。



28. 宇宙政策の評価方法に対する考え

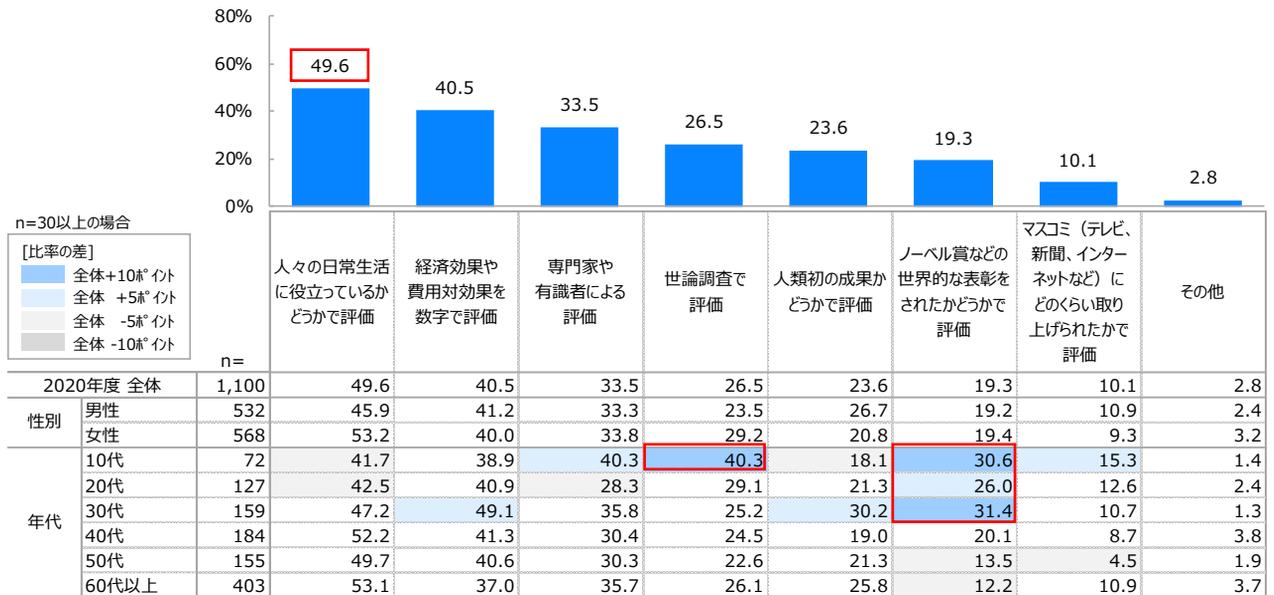
<28-1. 当てはまると思うものすべて選択>

Q28-1 国（政府）によって、国民の税金などを使って行われている宇宙に関する政策（宇宙政策）を、どのように評価したらよいと思いますか。

【当てはまると思うものをすべて選んでください】（複数回答）

（経年比較 Q20-1、p.18）

- ✓ 全体では、「人々の日常生活に役立っているかどうかで評価」が50%でトップ。
- ✓ 「ノーベル賞などの世界的な表彰をされたかどうかで評価」は50代以上より30代以下の若年層でスコアが高くなっており、「世論調査で評価」は30代以上より10代のスコアが高い。



※「2020年度 全体」のスコアが大きい順

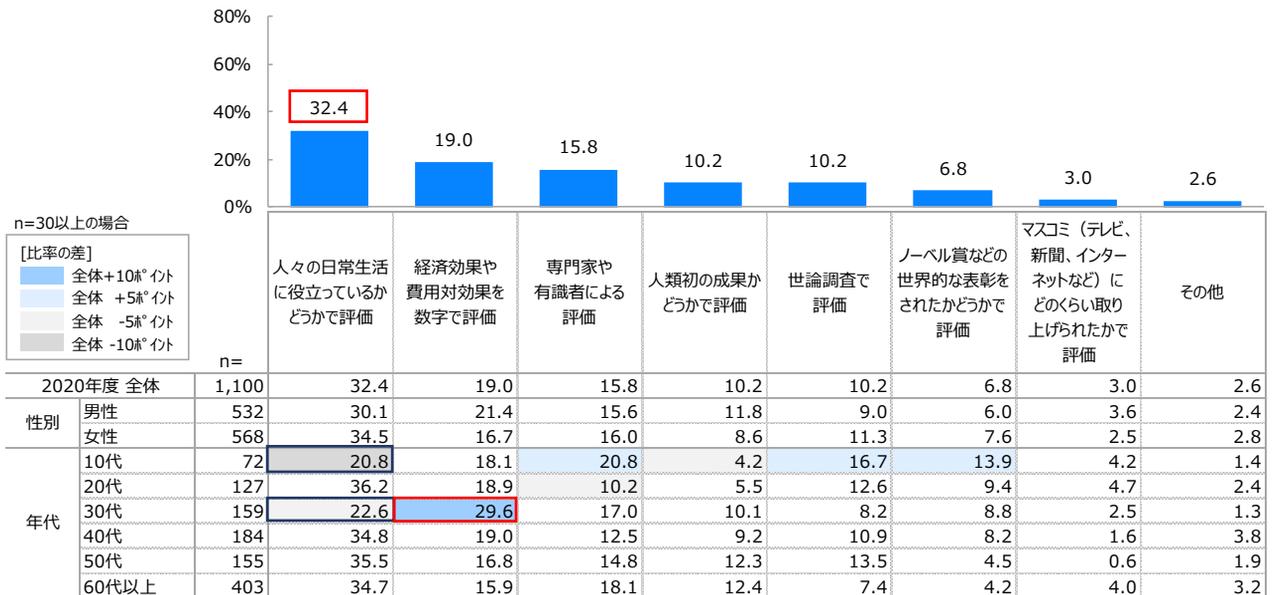
<28-2. 最も当てはまると思うものを一つ選択>

Q28-2 国（政府）によって、国民の税金などを使って行われている宇宙に関する政策（宇宙政策）を、どのように評価したらよいと思いますか。

【最も当てはまると思うものを一つ選んでください】（単一回答）

（経年比較 Q20-2、p.18）

- ✓ 最も当てはまるものでも、「人々の日常生活に役立っているかどうかで評価」が32%でトップだが、10,30代は他の年代よりもスコアが低くなっている。
- ✓ 「経済効果や費用対効果を数字で評価」では、40代以上より30代の方がスコアが高い。



※「2020年度 全体」のスコアが大きい順

第5章 調査結果

2021年度調査（2022年1月実施）

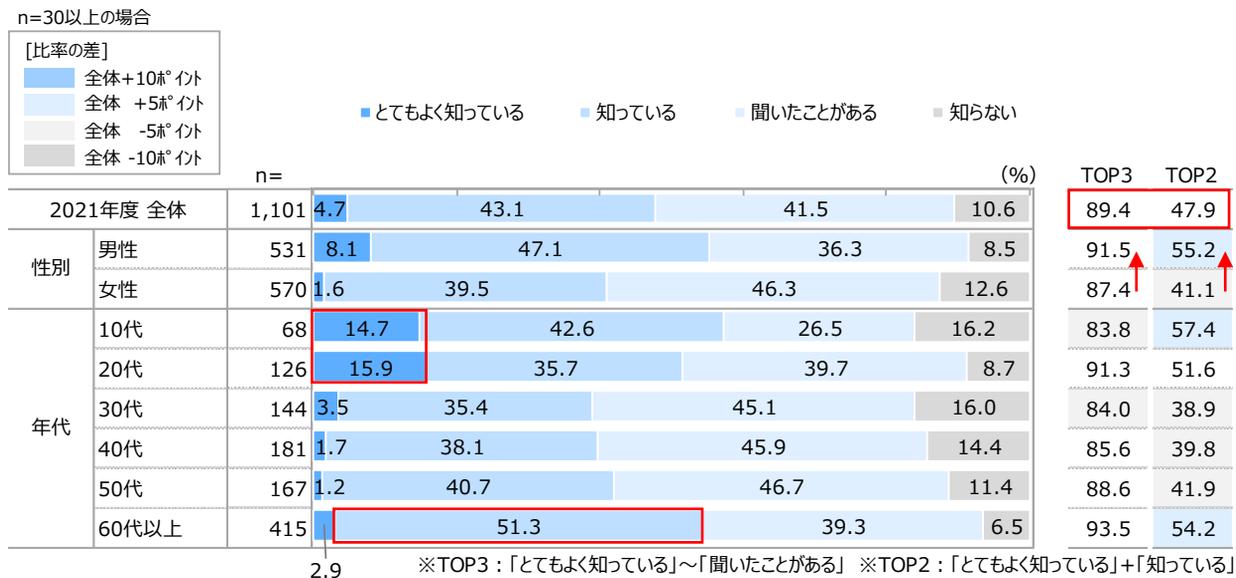
第5章 調査結果：2021年度調査（2022年1月実施）

1. JAXAの認知度

Q1 日本の宇宙航空研究開発機構（JAXA、ジャクサ）を知っていますか。（単一回答）

（経年比較 Q1、p.14）

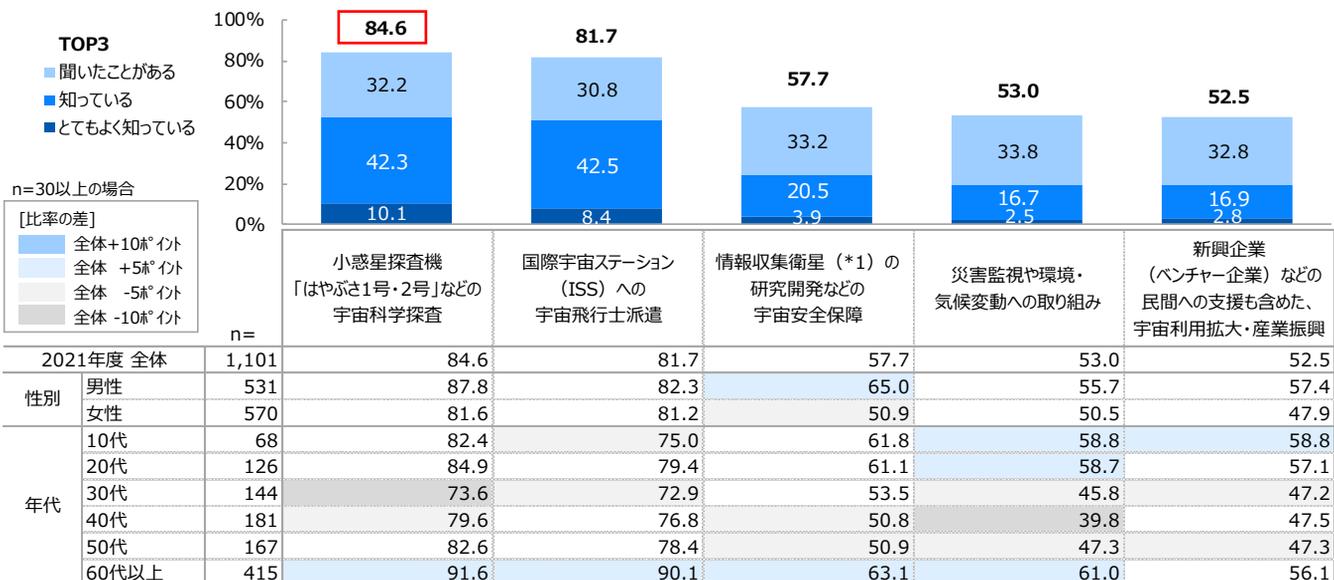
- ✓ JAXAの認知度は全体でTOP3※が89%、TOP2※が48%である。
- ✓ 男女別では、TOP3、TOP2ともに男性の方がスコアが高い。
- ✓ 年代別では10代、20代が30代以上より「とてもよく知っている」のスコアが高く、60代以上は20～50代より「知っている」のスコアが高い。



2. JAXAの活動認知度

Q2 以下のJAXAの活動についてどの程度知っていますか。（単一回答）

- ✓ JAXAの活動に対する認知度は「宇宙科学探査」が85%でトップ。「国際宇宙ステーションへの宇宙飛行士派遣」が82%と続く。



*1: 安全保障や大規模災害対応を目的として、画像情報収集を行っている事実上の偵察衛星

※TOP3「2021年度 全体」のスコアが大きい順

※数表は TOP3：「とてもよく知っている」～「聞いたことがある」のスコア

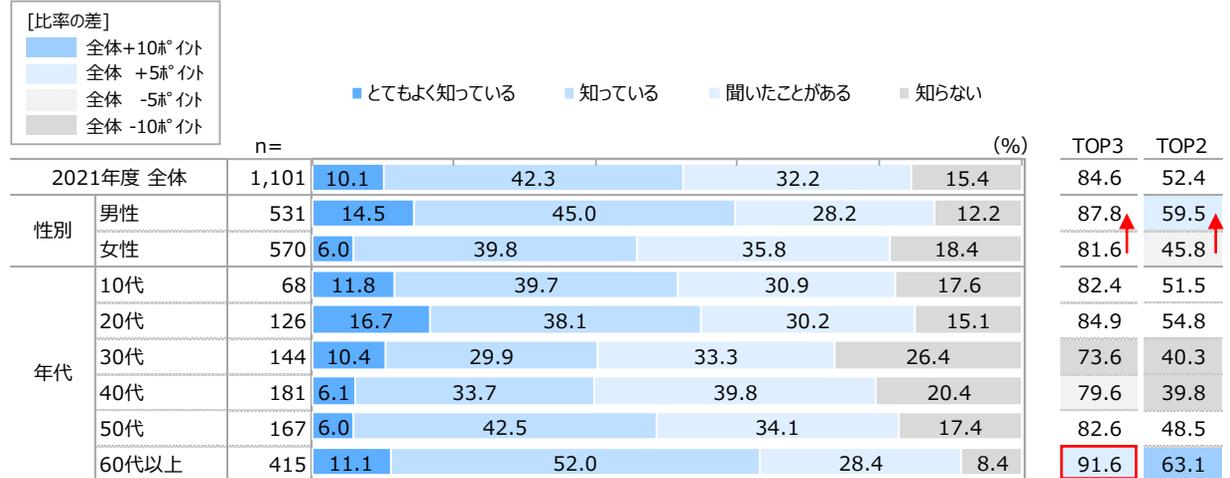
2. JAXAの活動認知度（詳細）

Q2 以下のJAXAの活動についてどの程度知っていますか。（単一回答）

<2-1. 小惑星探査機「はやぶさ1号・2号」などの宇宙科学探査>

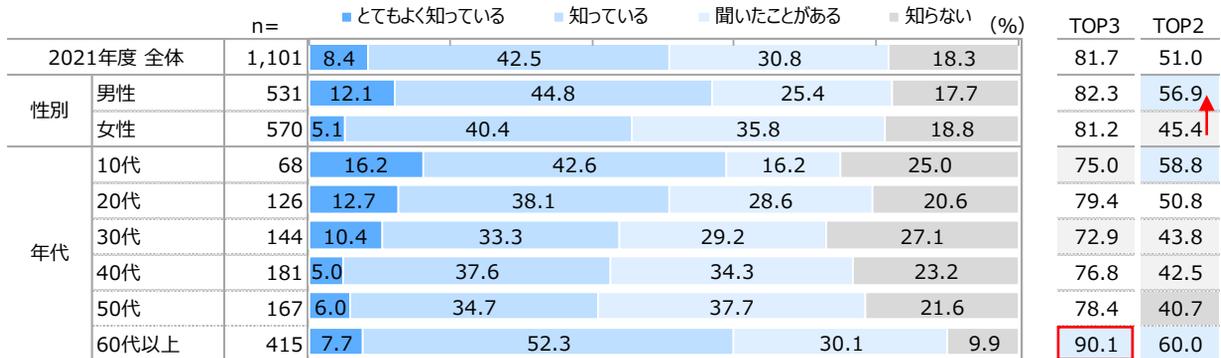
- ✓ 男女別では、男性の方がTOP3※、TOP2※ともにスコアが高い。
- ✓ 60代以上は他の年代よりTOP3のスコアが高い。

n=30以上の場合



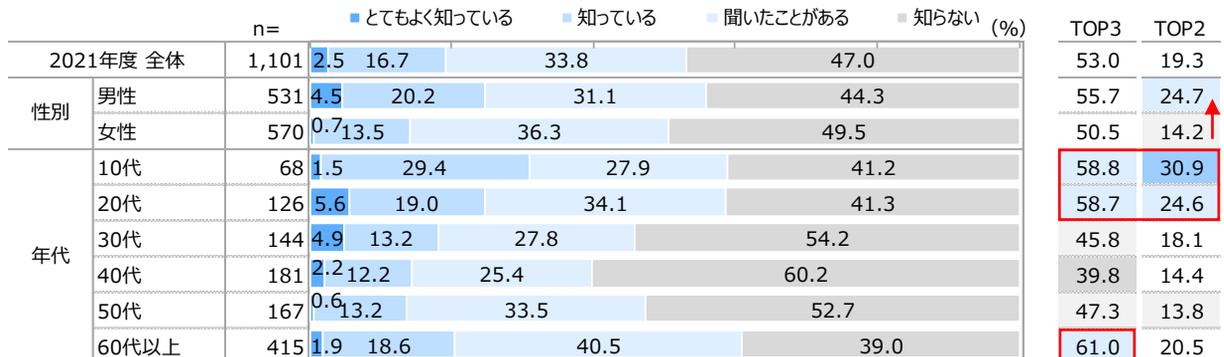
<2-2. 国際宇宙ステーション（ISS）への宇宙飛行士派遣>

- ✓ 男女別では、男性の方がTOP2※のスコアが高い。
- ✓ 60代以上は他の年代よりTOP3※のスコアが高い。



<2-3. 災害監視や環境・気候変動への取り組み>

- ✓ 男女別では、男性の方がTOP2※のスコアが高い。
- ✓ 60代以上は30～50代よりTOP3※のスコアが高く、10代、20代は40代よりTOP3、TOP2のスコアが高いといえる。

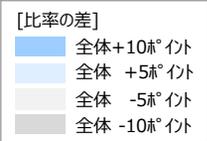


※TOP3：「とてもよく知っている」～「聞いたことがある」 ※TOP2：「とてもよく知っている」+「知っている」

<2-4. 新興企業（ベンチャー企業）などの民間への支援も含めた、宇宙利用拡大・産業振興>

- ✓ 男女別では、男性の方がTOP3※、TOP2※ともにスコアが高い。
- ✓ 10代は30代以上よりTOP2のスコアが高い。

n=30以上の場合



		n=	[比率の差]				(%)	TOP3	TOP2
			とてもよく知っている	知っている	聞いたことがある	知らない			
2021年度 全体		1,101	2.8	16.9	32.8	47.5	52.5	19.7	
性別	男性	531	5.1	21.7	30.7	42.6	57.4	26.7	
	女性	570	0.7	12.5	34.7	52.1	47.9	13.2	
年代	10代	68	8.8	25.0	25.0	41.2	58.8	33.8	
	20代	126	9.5	18.3	29.4	42.9	57.1	27.8	
	30代	144	2.8	15.3	29.2	52.8	47.2	18.1	
	40代	181	1.7	16.0	29.8	52.5	47.5	17.7	
	50代	167	1.2	9.6	36.5	52.7	47.3	10.8	
	60代以上	415	1.0	19.0	36.1	43.9	56.1	20.0	

<2-5. 情報収集衛星（*1）の研究開発などの宇宙安全保障>

(*1：安全保障や大規模災害対応を目的として、画像情報収集を行っている事実上の偵察衛星)

- ✓ 男女別では、男性の方がTOP3※、TOP2※ともにスコアが高い。
- ✓ 60代以上は40代、50代よりTOP3のスコアが高い。

		n=	[比率の差]				(%)	TOP3	TOP2
			とてもよく知っている	知っている	聞いたことがある	知らない			
2021年度 全体		1,101	3.9	20.5	33.2	42.3	57.7	24.4	
性別	男性	531	7.3	26.0	31.6	35.0	65.0	33.3	
	女性	570	0.7	15.4	34.7	49.1	50.9	16.1	
年代	10代	68	7.4	32.4	22.1	38.2	61.8	39.7	
	20代	126	9.5	20.6	31.0	38.9	61.1	30.2	
	30代	144	4.9	19.4	29.2	46.5	53.5	24.3	
	40代	181	1.1	19.9	29.8	49.2	50.8	21.0	
	50代	167	1.8	12.6	36.5	49.1	50.9	14.4	
	60代以上	415	3.4	22.4	37.3	36.9	63.1	25.8	

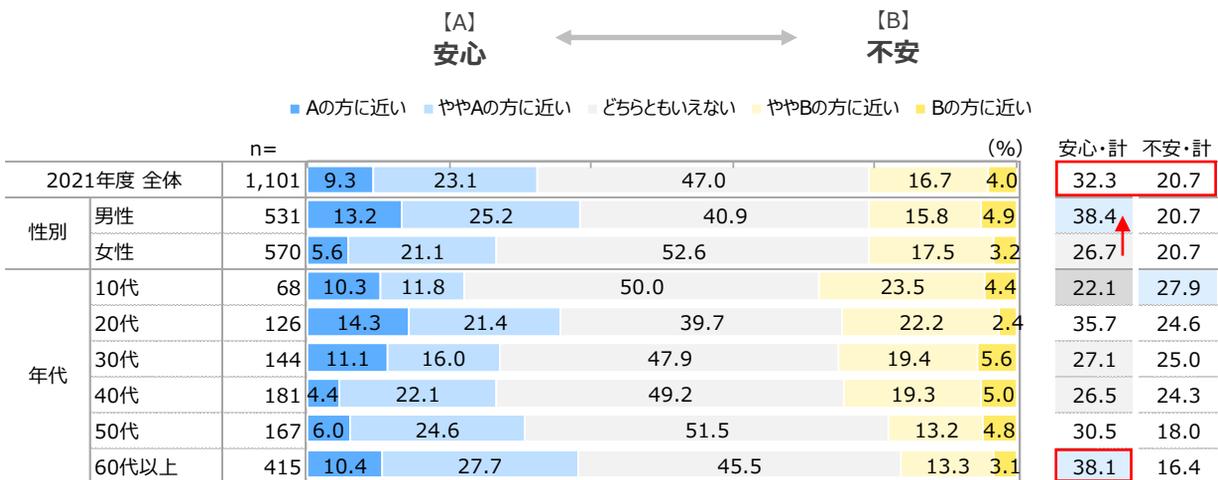
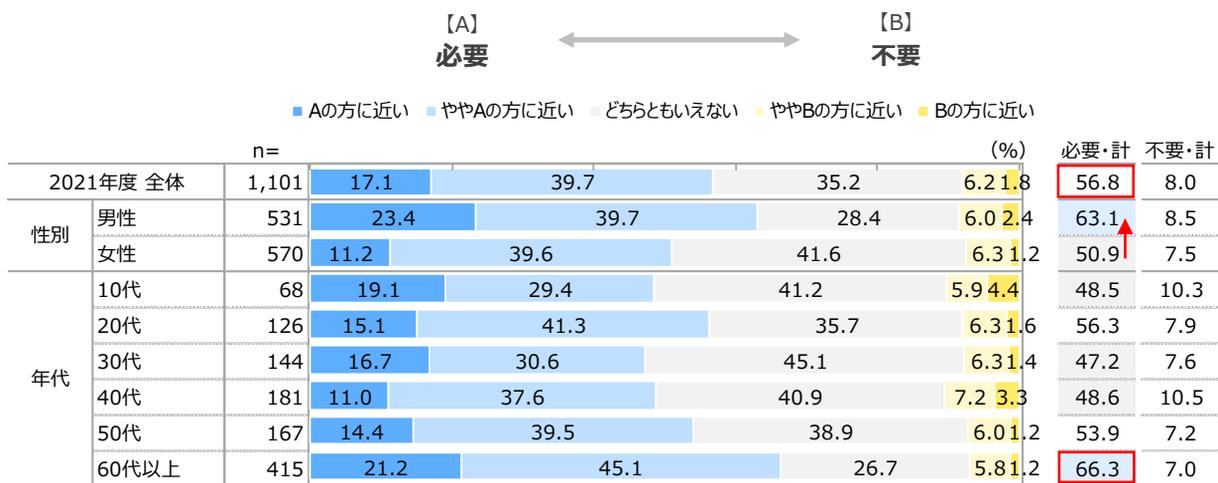
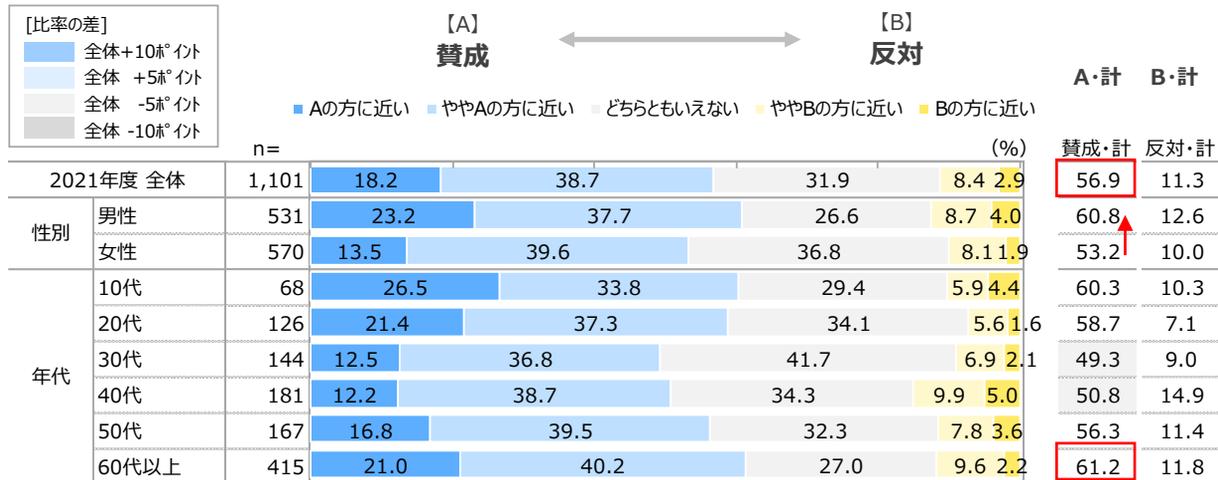
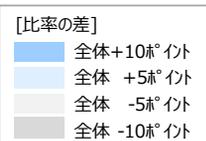
※TOP3：「とてもよく知っている」～「聞いたことがある」 ※TOP2：「とてもよく知っている」+「知っている」

3. JAXAの宇宙事業の民間移管について

Q3 「民間でできることは民間に」の方針のもと、現在JAXAは宇宙事業の民間移管をすすめていますが、これをどのように思いますか。(単一回答)

- ✓ 宇宙事業の民間移管について、賛成⇔反対/必要⇔不要でみると、賛成/必要ともに57%と大半を占めておりポジティブな意見が多いが、安心⇔不安でみると、安心が32%・不安が21%となっており、進めてほしいものの安心はできない人がいることが窺える。
- ✓ 男女別では、いずれも男性の方がポジティブなスコアが高い。
- ✓ 年代別では、60代以上は他の年代よりポジティブなスコアが高い傾向にある。

n=30以上の場合



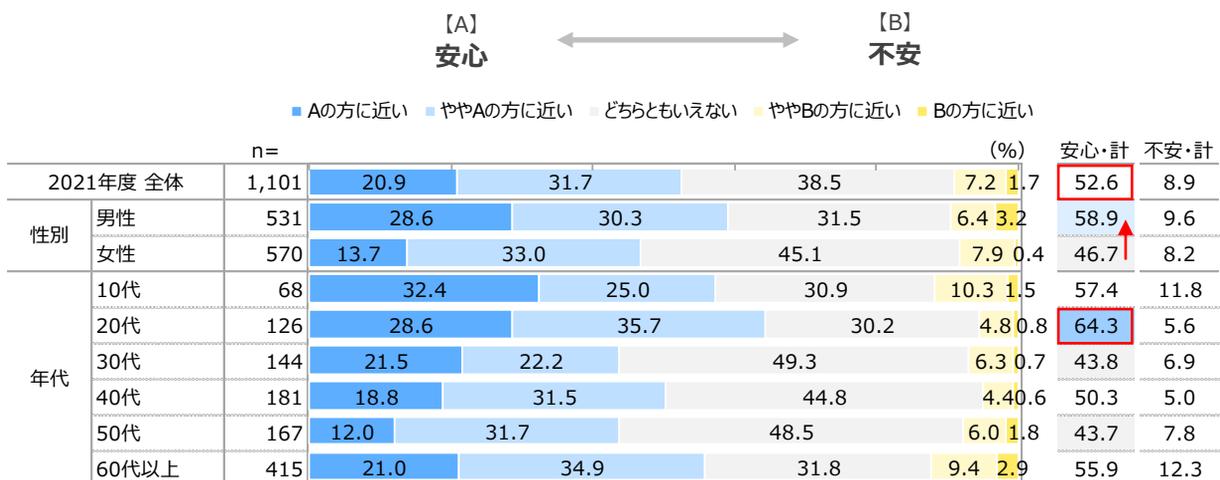
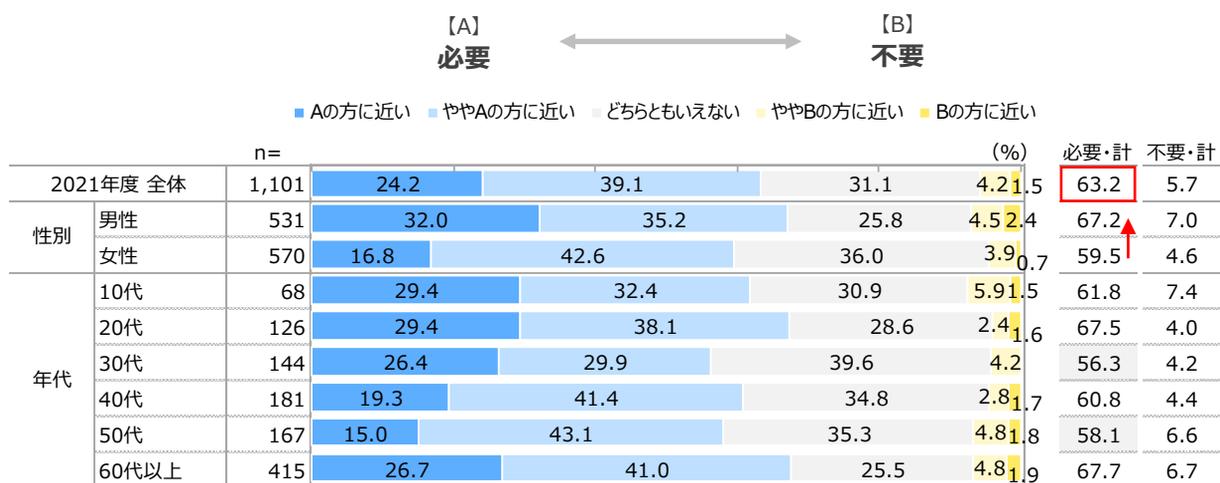
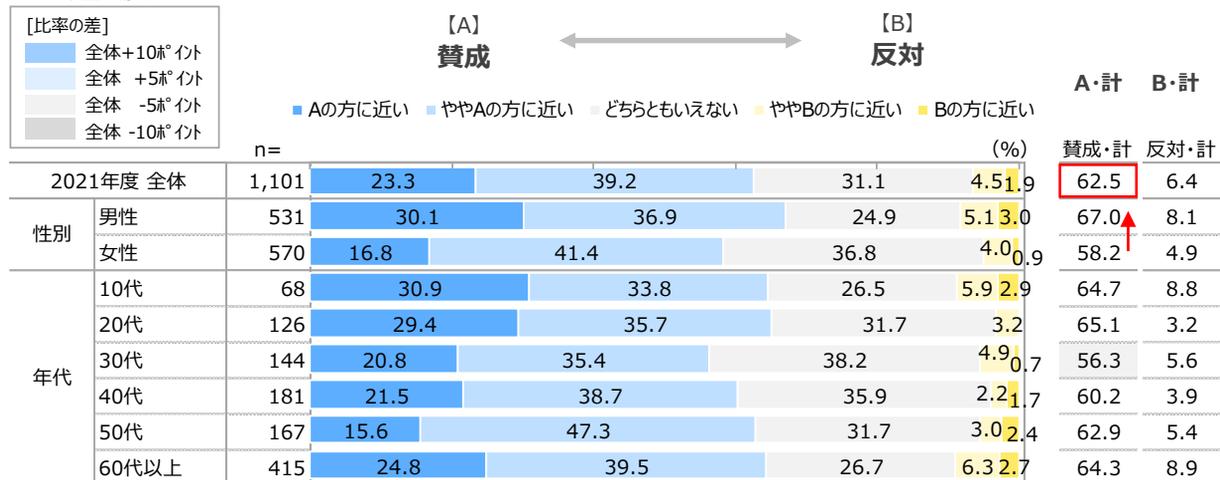
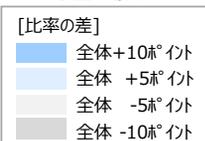
※A・計：「Aの方に近い」+「ややAの方に近い」 ※B・計：「ややBの方に近い」+「Bの方に近い」

4. 防衛・安全保障にJAXAが関わることについて

Q4 情報収集衛星の研究開発など、防衛・安全保障にJAXAが関わることをどのように思いますか。
(単一回答)

- ✓ 防衛・安全保障にJAXAが関わることについて、賛成⇔反対/必要⇔不要でみると、賛成/必要ともに63%、安心⇔不安でみると、安心が53%となっている。反対/不要/不安のネガティブな意見はいずれも10%未満である。
- ✓ 男女別では、いずれも男性の方がポジティブなスコアが高い。
- ✓ 安心⇔不安では年代ごとにばらつきがあり、20代は30~50代より安心のスコアが高い。

n=30以上の場合

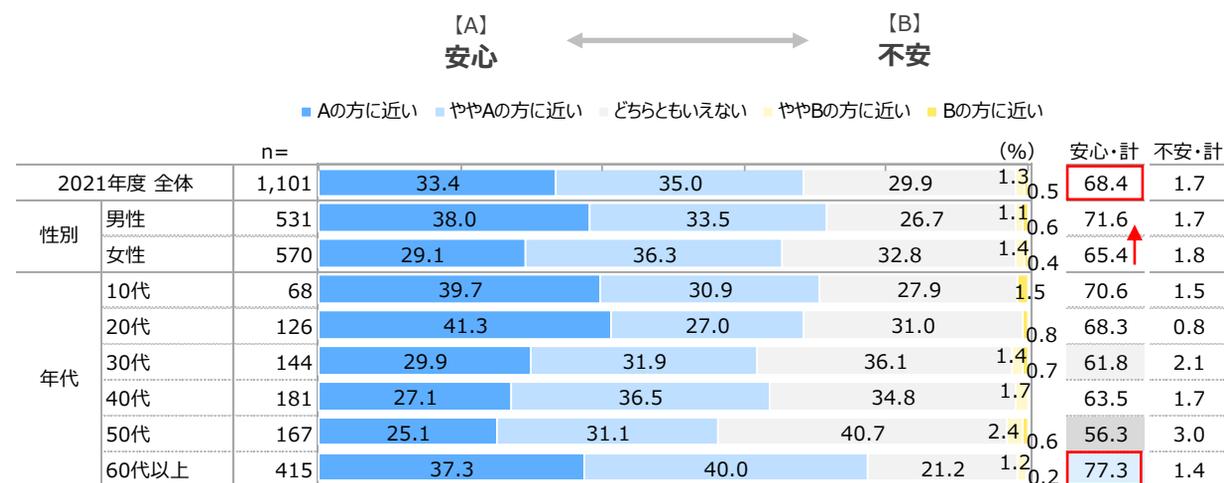
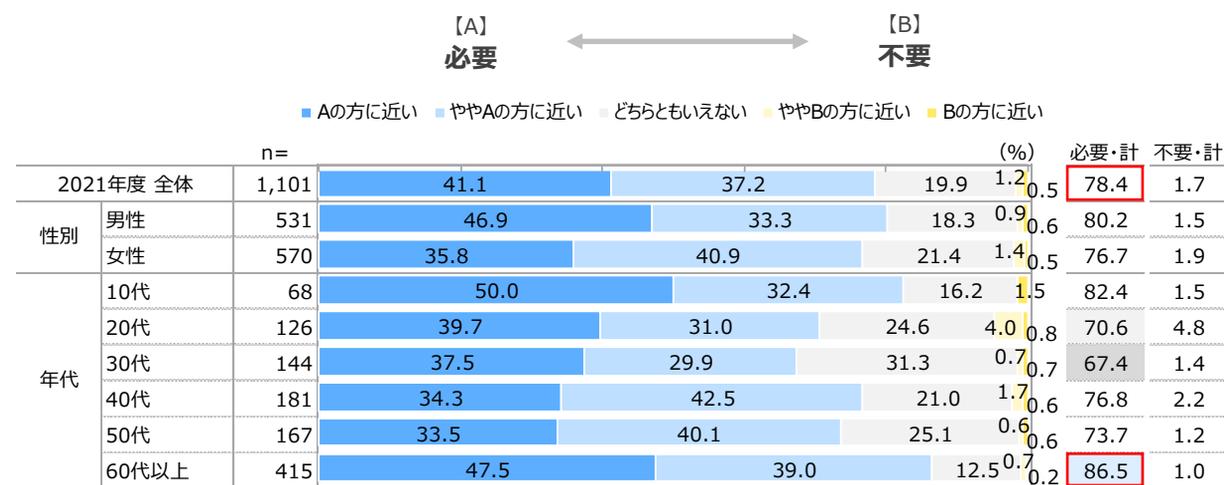
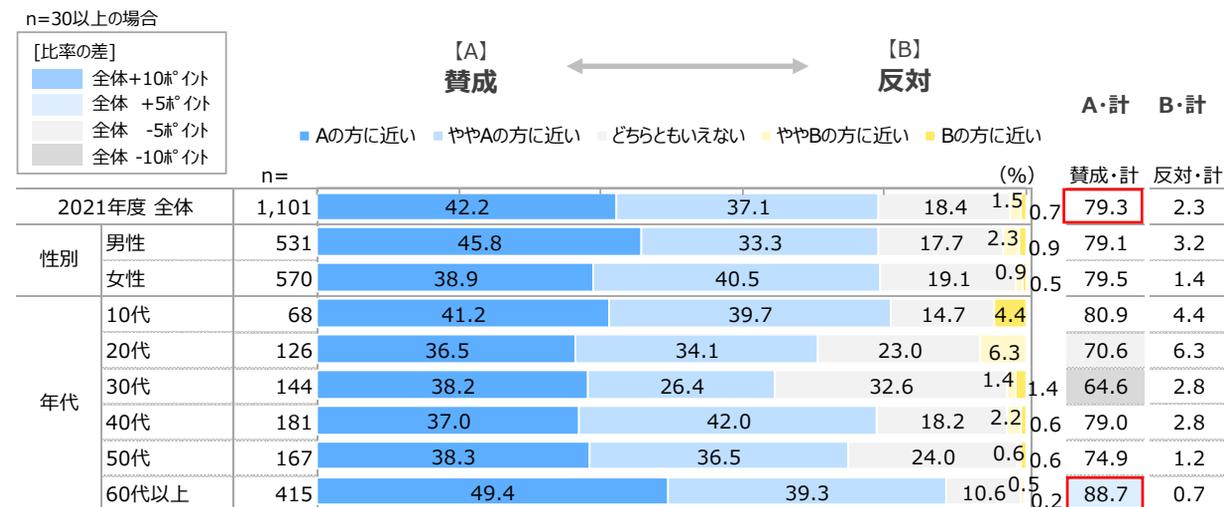


※A・計：「Aの方に近い」+「ややAの方に近い」 ※B・計：「ややBの方に近い」+「Bの方に近い」

5. JAXAが行う自然科学の研究者や専門家の育成について

Q5 JAXAは、大学等と協力して自然科学（理系のロケットや人工衛星、天文学など）の研究者や専門家の育成を行っています。そのことをどのように思いますか。（単一回答）

- ✓ 自然科学の研究者や専門家の育成について、賛成/必要/安心のポジティブな意見はそれぞれ79%、78%、68%と高く、反対/不要/不安のネガティブな意見はいずれも3%未満である。
- ✓ 男女別では、安心のスコアについては男性の方が高いが、他は差が見られない。
- ✓ 年代別では、60代以上でポジティブなスコアが高い傾向にある。

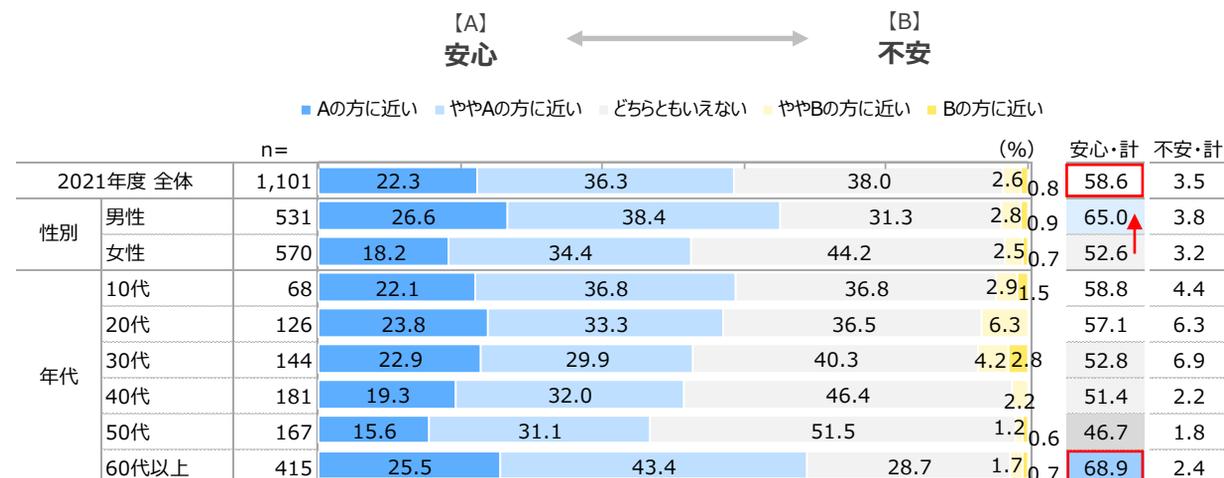
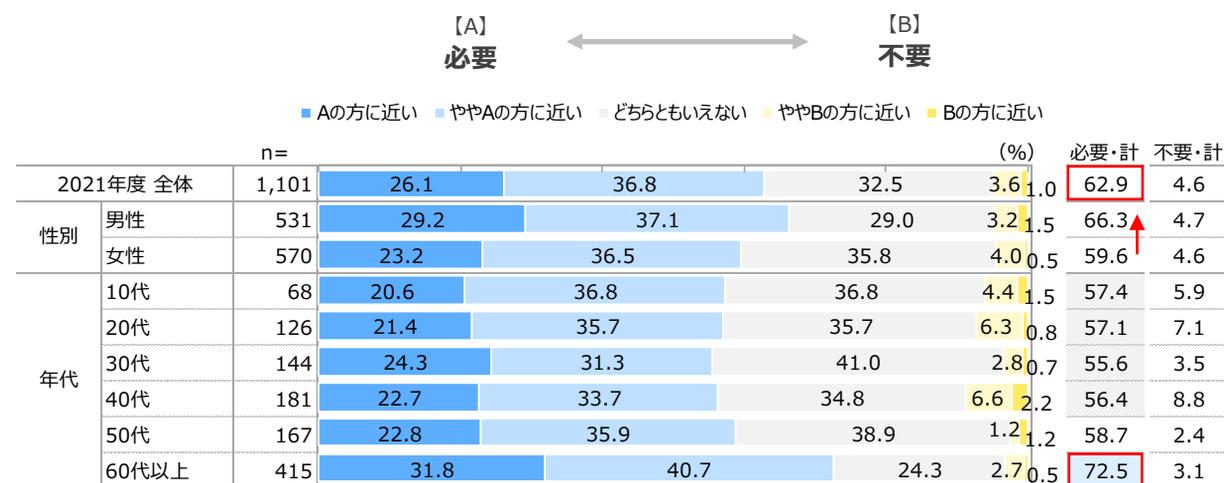
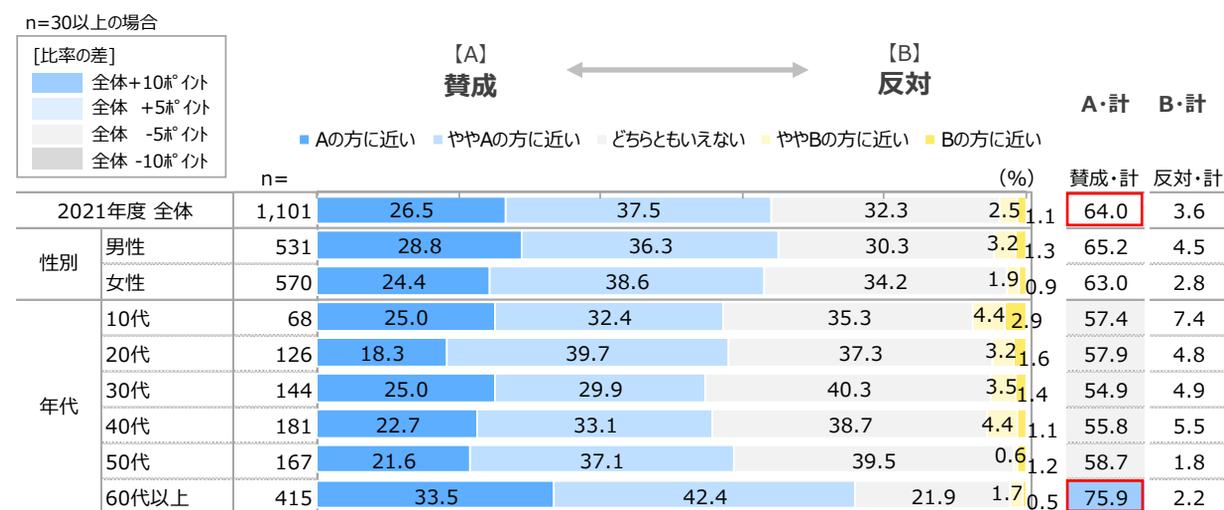


※A・計：「Aの方に近い」+「ややAの方に近い」 ※B・計：「ややBの方に近い」+「Bの方に近い」

6. 人文・社会科学の研究者や専門家の育成について

Q6 JAXAは、前問のように、自然科学を中心に研究者や専門家の育成を行っていますが、人文・社会科学（文系の宇宙政策、宇宙法、宇宙ビジネス、歴史、文化・芸術など）の研究者や専門家も育成した方がよい、という意見にはどのように思いますか。（単一回答）

- ✓ 人文・社会科学の研究者や専門家の育成について、賛成/必要/安心のポジティブな意見はそれぞれ64%、63%、59%と高く、反対/不要/不安のネガティブな意見はいずれも5%未満である。
- ✓ 男女別では、必要/安心のスコアについては男性の方が高い。
- ✓ 年代別では、60代以上でポジティブなスコアが高い傾向にある。



※A・計：「Aの方に近い」+「ややAの方に近い」 ※B・計：「ややBの方に近い」+「Bの方に近い」

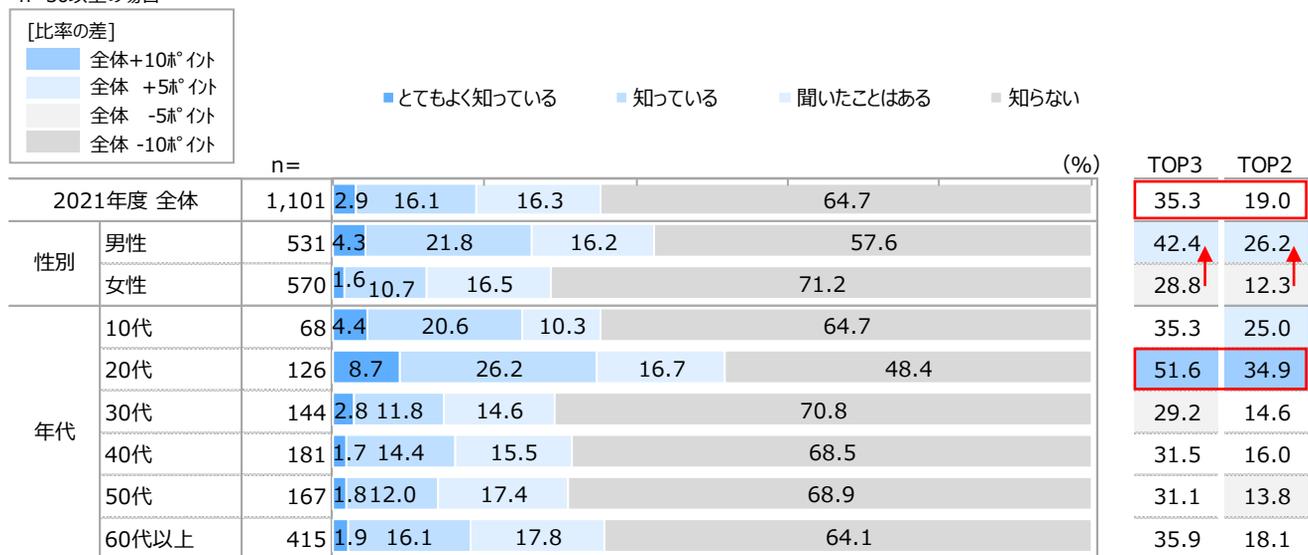
7. JAXAが中央省庁ではないことの認知度

Q7 JAXAが、文部科学省などの中央省庁ではなく、国立研究開発法人（政府の事業の一部を実施する独立行政法人の一つで、主に研究開発を行うもの）であり、JAXAで働いている役員・職員は国家公務員ではないことを知っていますか。（単一回答）

（経年比較 Q7、p.14）

- ✓ 認知度はTOP3※で35%、TOP2※で19%である。
- ✓ 男女別では、TOP3、TOP2ともに男性の方がスコアが高い。
- ✓ 20代は30代以上よりTOP3、TOP2ともにスコアが高いことが特徴的である。

n=30以上の場合



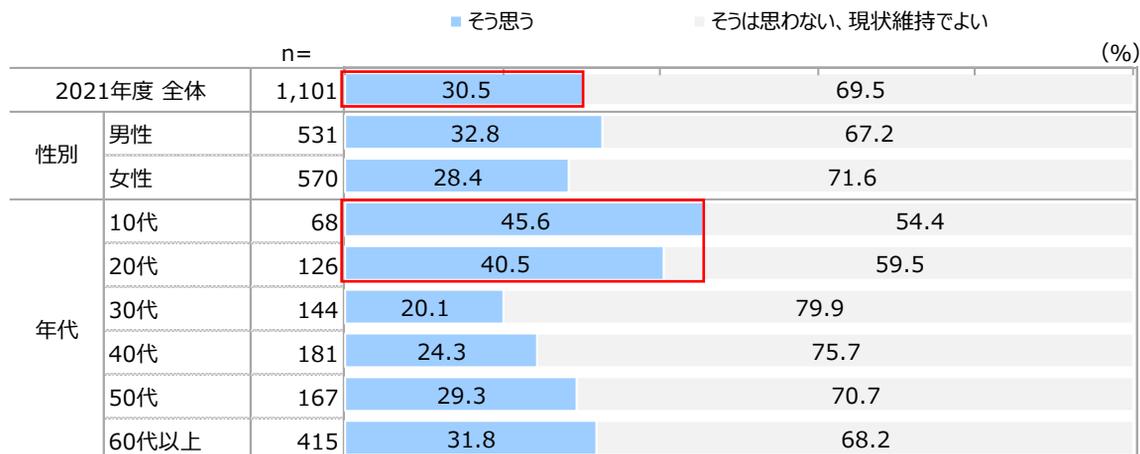
※TOP3：「とてもよく知っている」～「聞いたことはある」 ※TOP2：「とてもよく知っている」+「知っている」

8. JAXAを中央省庁にした方がよいと思うか

Q8 JAXAは現在、国立研究開発法人ですが、たとえば「宇宙庁」などの中央省庁の一つにして、役員・職員は国家公務員にした方がよいと思いますか。（単一回答）

（経年比較 Q8、p.14）

- ✓ JAXAを中央省庁にした方がよいと思う割合は全体で31%である。
- ✓ 男女別では、大きな差は見られない。
- ✓ 年代別では、10代、20代は特に30代、40代より「そう思う」のスコアが高い。



9. 宇宙に関する関心

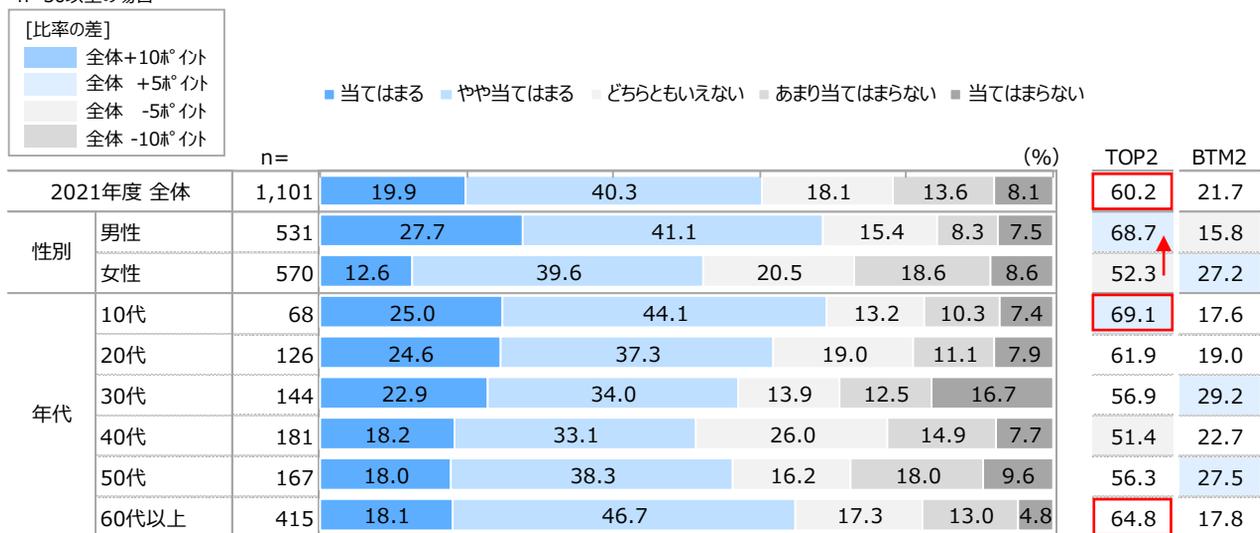
<9-1. 宇宙への関心>

Q9-1 それぞれの項目について、「当てはまる」から「当てはまらない」の5段階でお答えください。
【宇宙に関心はありますか】(単一回答)

(経年比較 Q9-1、p.15)

- ✓ 宇宙への関心を持っている人の割合は全体の60%である。
- ✓ 男女別では、女性より男性の方が関心が17ポイント高い。
- ✓ 10代、60代以上は40代より関心が高い。

n=30以上の場合



※TOP2 : 「当てはまる」+「やや当てはまる」 ※BTM2 : 「あまり当てはまらない」+「当てはまらない」

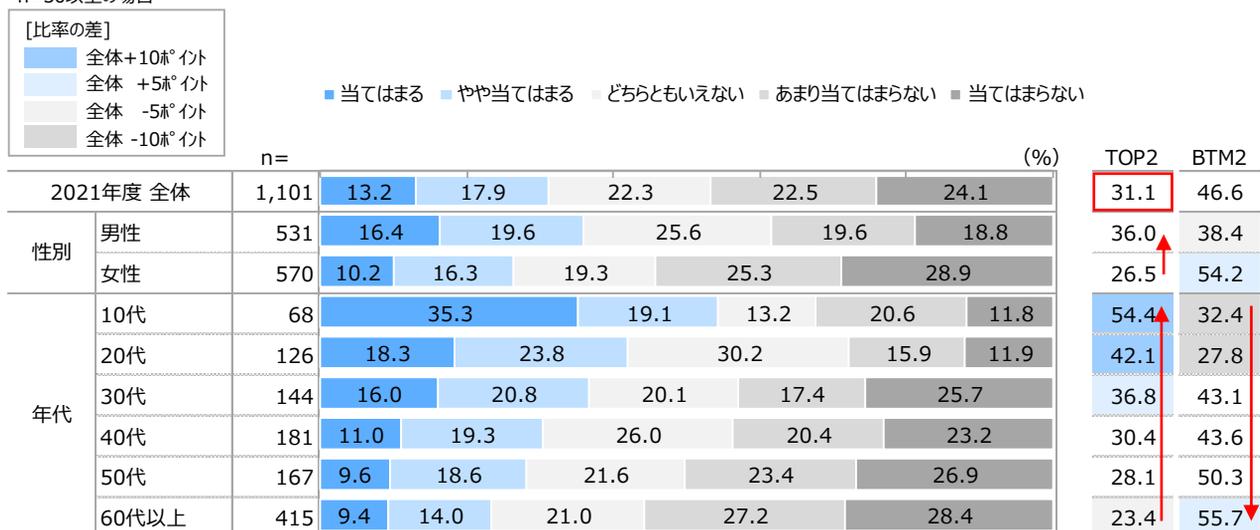
<9-2. 宇宙に行ってみたいか>

Q9-2 それぞれの項目について、「当てはまる」から「当てはまらない」の5段階でお答えください。
【宇宙に行ってみたいですか】(単一回答)

(経年比較 Q9-2、p.15)

- ✓ 宇宙へ行ってみたい人の割合は全体の31%である。
- ✓ 男女別では、女性より男性の方がTOP2のスコアが10ポイント高い。
- ✓ 年代が低いほどTOP2のスコアが高く、年代が高いほどBTM2のスコアが高い傾向にある。

n=30以上の場合



※TOP2 : 「当てはまる」+「やや当てはまる」 ※BTM2 : 「あまり当てはまらない」+「当てはまらない」

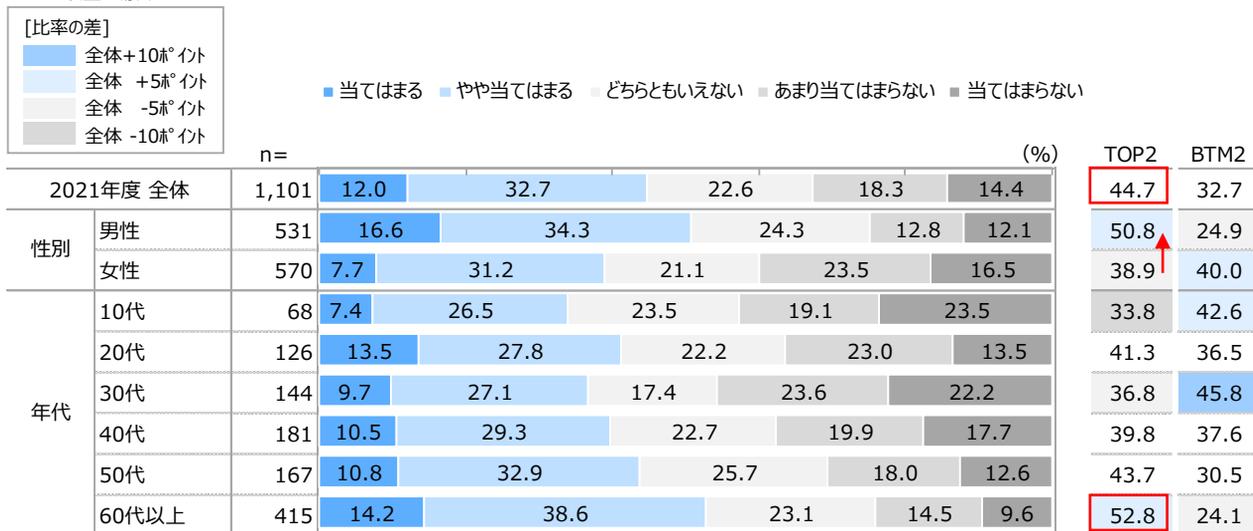
<9-3. 宇宙に関するテレビ番組を見るか>

Q9-3 それぞれの項目について、「当てはまる」から「当てはまらない」の5段階でお答えください。
【宇宙に関するテレビ番組を見ますか】(単一回答)

(経年比較 Q9-3, p.15)

- ✓ 宇宙に関するテレビを見る人の割合は全体で45%である。
- ✓ 男女別では、女性より男性の方が見る割合が12ポイント高い。
- ✓ 60代以上は他の年代より見る割合が高い傾向にある。

n=30以上の場合



※TOP2:「当てはまる」+「やや当てはまる」 ※BTM2:「あまり当てはまらない」+「当てはまらない」

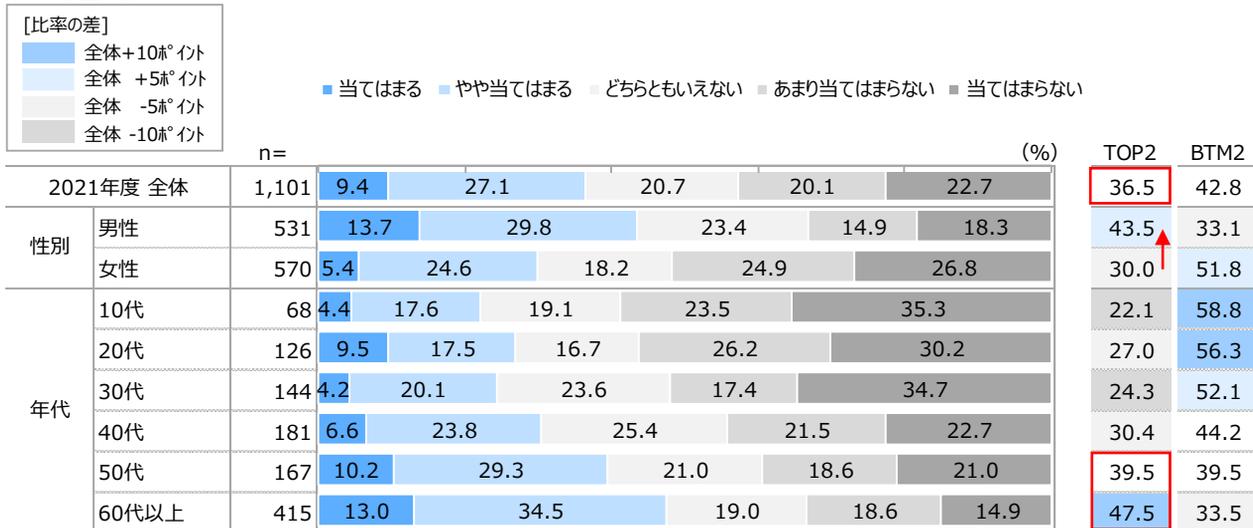
<9-4. 宇宙に関する新聞記事を読むか>

Q9-4 それぞれの項目について、「当てはまる」から「当てはまらない」の5段階でお答えください。
【宇宙に関する新聞記事を読みますか】(単一回答)

(経年比較 Q9-4, p.15)

- ✓ 宇宙に関する新聞記事を読む人の割合は全体で37%である。
- ✓ 男女別では、女性より男性の方が読む割合が14ポイント高い。
- ✓ 50代以上は30代以下よりも読む割合が高い。

n=30以上の場合



※TOP2:「当てはまる」+「やや当てはまる」 ※BTM2:「あまり当てはまらない」+「当てはまらない」

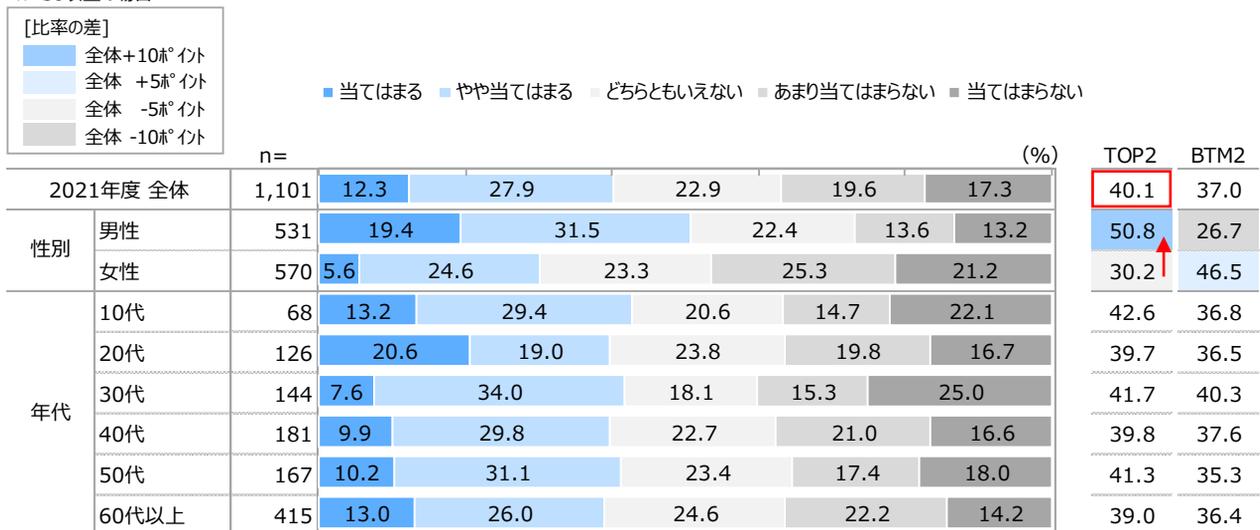
<9-5. 宇宙に関するインターネット記事を読むか>

Q9-5 それぞれの項目について、「当てはまる」から「当てはまらない」の5段階でお答えください。
【宇宙に関するインターネットの記事を読みますか】(単一回答)

(経年比較 Q9-5, p.15)

- ✓ 宇宙に関するインターネット記事を読む人の割合は全体で40%である。
- ✓ 男女別では、女性より男性の方が読む割合が21ポイント高い。
- ✓ 年代別では、大きな差は見られない。

n=30以上の場合



※TOP2:「当てはまる」+「やや当てはまる」 ※BTM2:「あまり当てはまらない」+「当てはまらない」

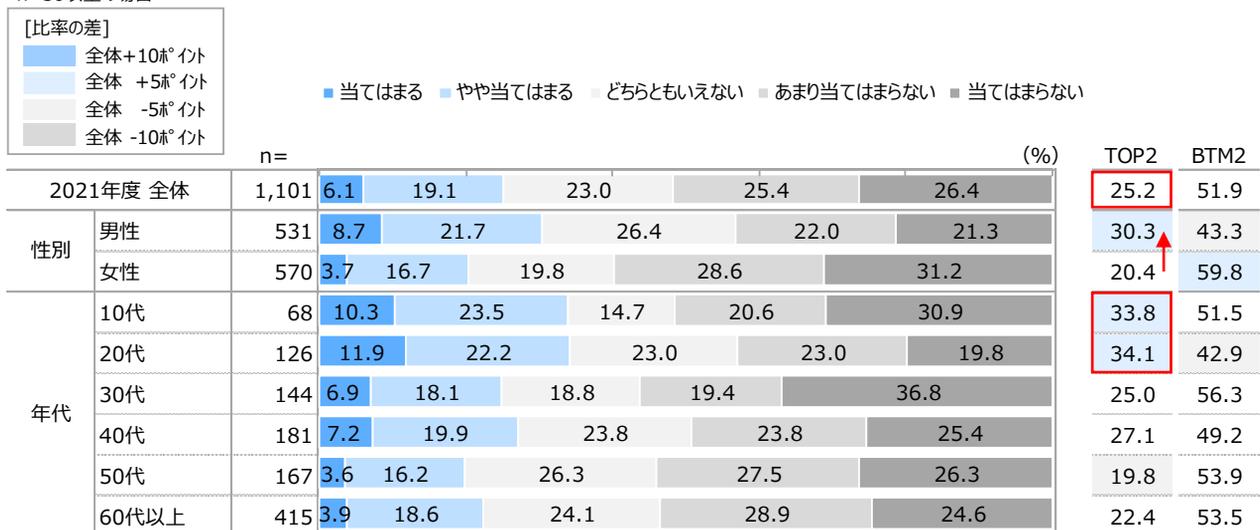
<9-6. 宇宙に関する展覧会などに行くか>

Q9-6 それぞれの項目について、「当てはまる」から「当てはまらない」の5段階でお答えください。
【博物館や科学館などで開催されている宇宙に関する展覧会などに行きますか】(単一回答)

(経年比較 Q9-6, p.15)

- ✓ 宇宙に関する展覧会などに行く人の割合は全体で25%である。
- ✓ 男女別では、女性より男性の方が展覧会に行く割合が10ポイント高い。
- ✓ 10代、20代は50代よりTOP2のスコアが高い。

n=30以上の場合



※TOP2:「当てはまる」+「やや当てはまる」 ※BTM2:「あまり当てはまらない」+「当てはまらない」

<9-7. ロケットの打ち上げを実際に目の前で見たことがあるか>

Q9-7 それぞれの項目について、「当てはまる」から「当てはまらない」の5段階でお答えください。
【ロケットの打ち上げを、実際に目の前で見たことがありますか】(単一回答)

(経年比較 Q9-7、p.15)

- ✓ ロケットの打ち上げを実際に目の前で見たことがある人の割合は全体で7%である。
- ✓ 男女別では、女性より男性の方が見たことがある割合が8ポイント高い。
- ✓ 20代以下の若年層は、30代以上より見たことがある割合が高い傾向にある。

n=30以上の場合



※TOP2 : 「当てはまる」+「やや当てはまる」 ※BTM2 : 「あまり当てはまらない」+「当てはまらない」

10. 2030年頃の宇宙探査や宇宙活動

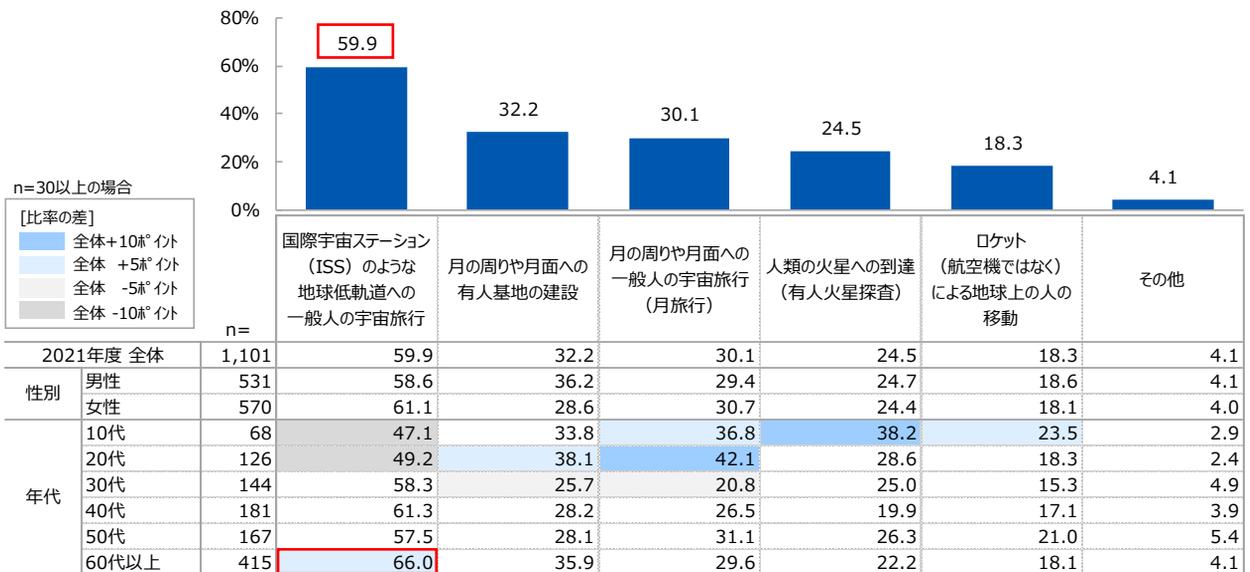
<10-1. 実現していると思うものすべて選択>

Q10-1 今から約10年後の2030年頃、それぞれの宇宙探査や宇宙活動は実現していると思いますか。

【実現していると思うものをすべて選んでください】(複数回答)

(経年比較 Q10-1、p.15)

- ✓ 全体では、「地球低軌道への一般人の宇宙旅行」が60%でトップ。
- ✓ 60代以上は20代以下より「地球低軌道への一般人の宇宙旅行」のスコアが高い。



※「2021年度 全体」のスコアが大きい順

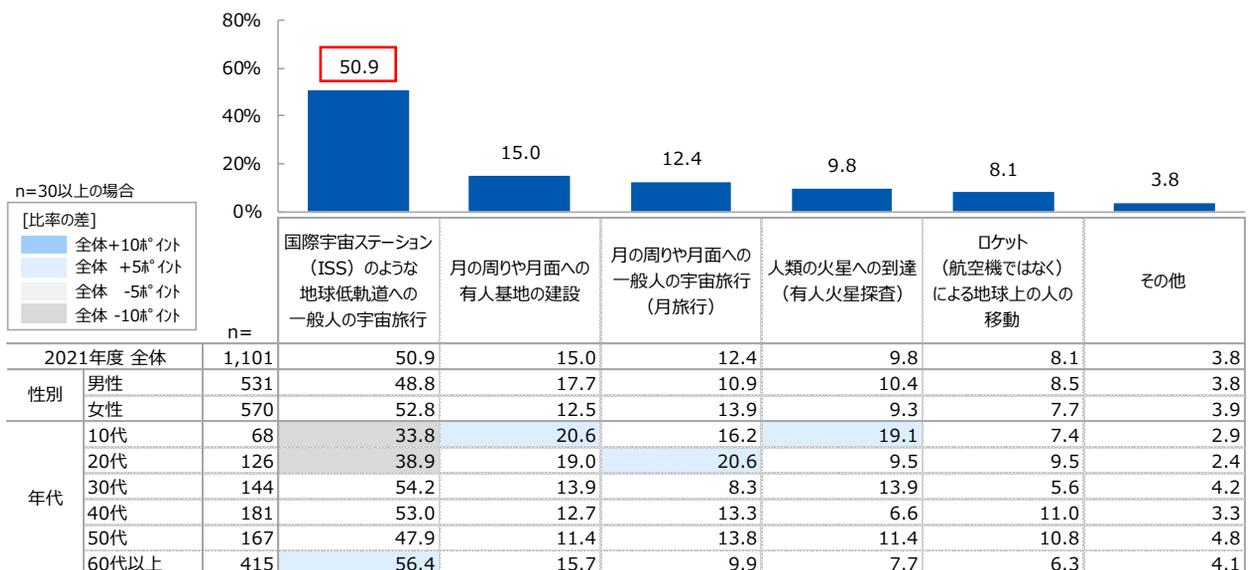
<10-2. 最も実現していると思うものを一つ選択>

Q10-2 今から約10年後の2030年頃、それぞれの宇宙探査や宇宙活動は実現していると思いますか。

【最も実現していると思うものを一つ選んでください】(単一回答)

(経年比較 Q10-2、p.15)

- ✓ 最も実現していると思うものについても、「地球低軌道への一般人の宇宙旅行」が51%でトップ。全体の傾向は実現しているものをすべて選択した場合と同様である。



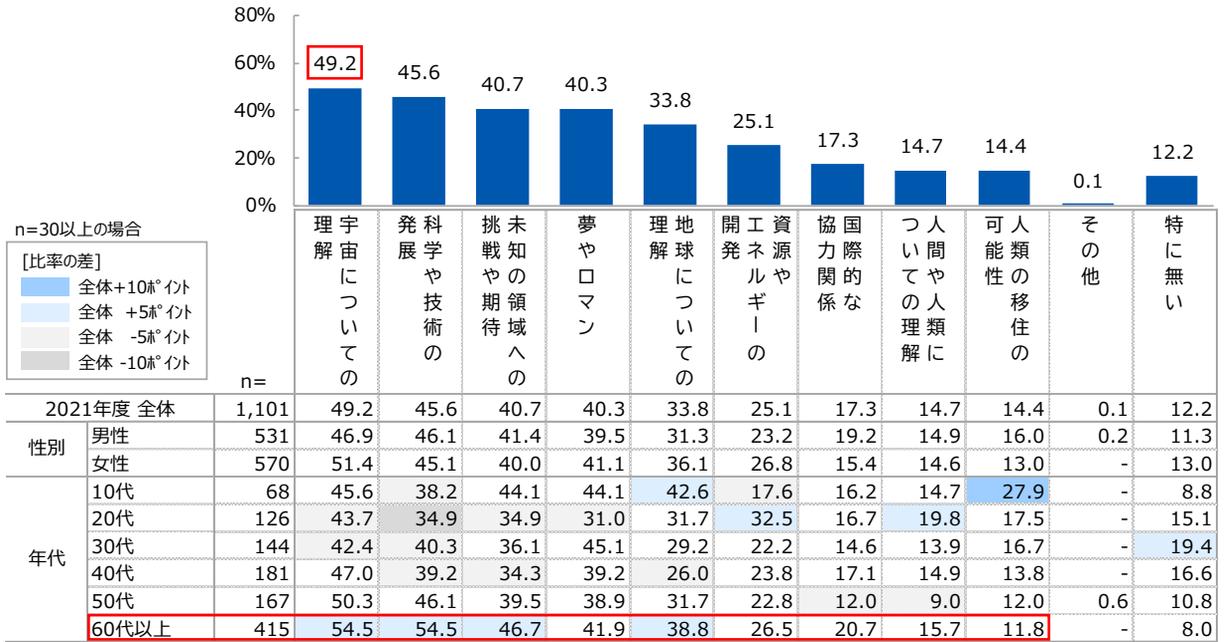
※「2021年度 全体」のスコアが大きい順

11. 宇宙科学探査の成果

<11-1. 当てはまると思うものすべて選択>

Q11-1 これまでの宇宙科学探査（日本では小惑星探査機「はやぶさ1号・2号」や月周回衛星「かぐや」など）は、どのような成果をもたらしたと思いますか。
【当てはまると思うものをすべて選んでください】（複数回答）

- ✓ 宇宙科学探査がもたらした成果としては、全体で「宇宙についての理解」が49%でトップ。（経年比較 Q11-1、p.16）
- ✓ 60代以上では、他の年代よりスコアが高い項目が多い傾向にある。



※「2021年度 全体」のスコアが大きい順

<11-2. 最も当てはまると思うものを一つ選択>

Q11-2 これまでの宇宙科学探査（日本では小惑星探査機「はやぶさ1号・2号」や月周回衛星「かぐや」など）は、どのような成果をもたらしたと思いますか。
【最も当てはまると思うものを一つ選んでください】（単一回答）

- ✓ 最も当てはまるものについては、上位4項目が近いスコアとなっており15～19%である。（経年比較 Q11-2、p.16）
- ✓ 「未知の領域への挑戦や期待」では、60代以上が20代、30代よりもスコアが高い。



※「2021年度 全体」のスコアが大きい順 71

12. 今後の宇宙科学探査に期待すること（自由回答）※一部抜粋

Q12 今後の宇宙科学探査に何を期待しますか。（自由回答）

【宇宙・地球・生命の起源】

- 地球、宇宙の起源と未来の地球のあり方を見出してほしい(男性/62歳)
- 今まで解明できなかった生命の起源(女性/59歳)

【新しいエネルギー】

- 宇宙に有る資源の発見と確保、宇宙ゴミの回収とリサイクル(女性/85歳)
- 宇宙資源の採掘と、地球のエネルギー問題の解決(男性/39歳)

【地球以外での生命活動・移住】

- 地球温暖化で地球での生活に困難が生じた場合、移住先としての選択肢が増えて欲しい(女性/56歳)
- 宇宙旅行に一般市民も行けるようになること。宇宙への移住が出来るようになること(女性/27歳)

【その他】

- 地球の温暖化などを防ぐ方法など(女性/39歳)
- 宇宙人がいるかどうか(男性/21歳)

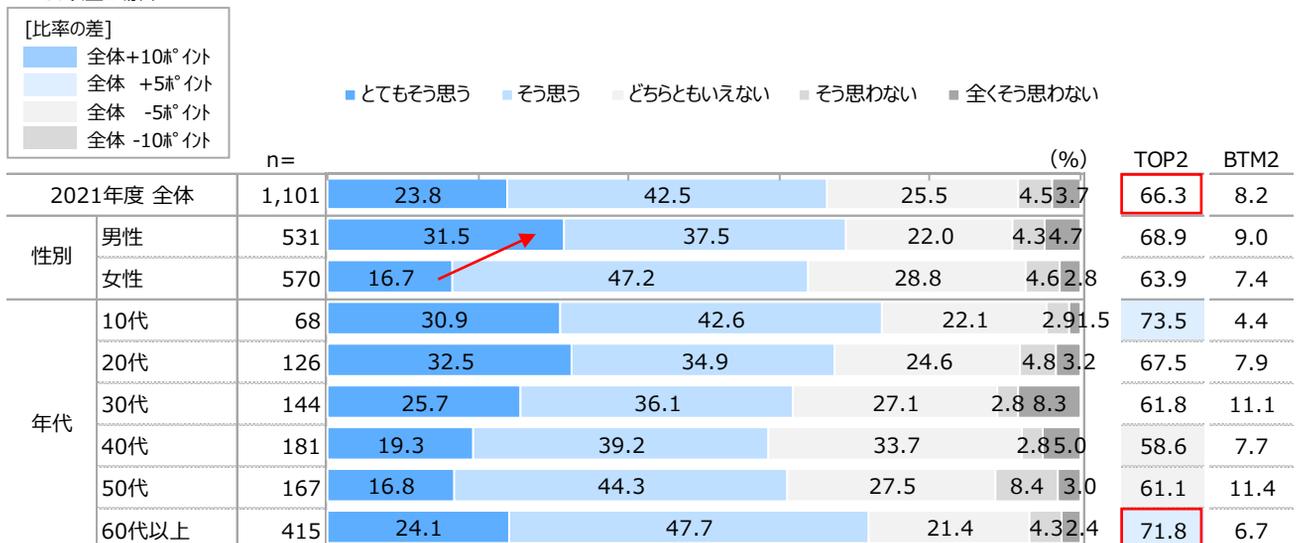
13. 日本は今後も「宇宙先進国」であって欲しいか

Q13 日本は現在、予算規模やその実績・貢献において世界でも5本の指に入るほどの「宇宙先進国」であると言えますが、今後も「宇宙先進国」であって欲しいと思いますか。（単一回答）

（経年比較 Q13、p.16）

- ✓ 今後も「宇宙先進国」であって欲しいと思う割合は66%である。
- ✓ 男女別では、男性の方が「とてもそう思う」の割合が15pt高い。
- ✓ 60代以上では、30～50代よりTOP2※のスコアが高い。

n=30以上の場合



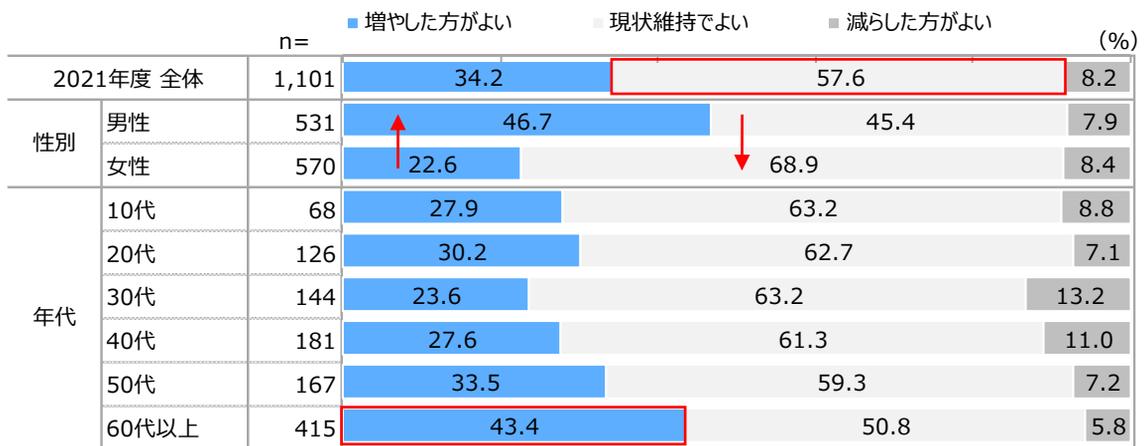
※TOP2：「とてもそう思う」+「そう思う」 ※BTM2：「そう思わない」+「全くそう思わない」

14. 宇宙関連の予算規模に対する考え

Q14 日本は2019年時点で、年間政府予算の約100兆円のうち、約0.35%の約3,500億円を宇宙関連予算として使っています。この宇宙関連の予算規模に関してどのように思いますか。
 *参考：日本は、社会保障関連に約33兆円、公共事業関連に約6兆円、防衛関連に約5兆円、原子力関連に約5,200億円を使っています。(単一回答)

(経年比較 Q14、p.17)

- ✓ 全体では、「現状維持」が58%と最も高く、「増やした方がよい」が34%と続く。
- ✓ 男女別では、男性は「増やした方がよい」が高く、女性は「現状維持でよい」が高い。
- ✓ 60代以上は他の年代より「増やした方がよい」の割合が高くなっている。

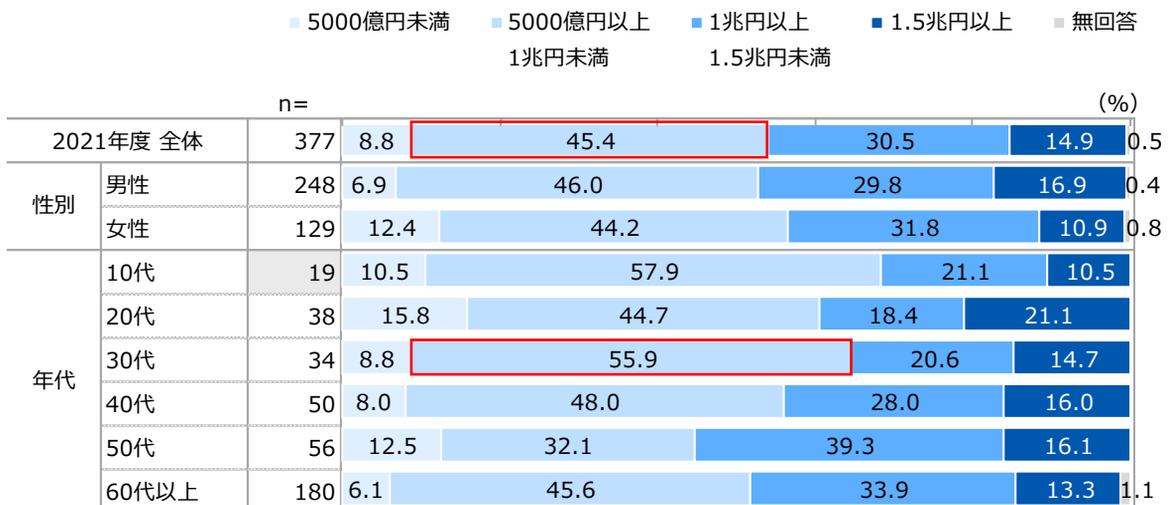


15. 宇宙関連の予算について「増やした方がよい」と思う額

Q15 宇宙関連の予算規模について、いくらくらいまで増やした方がよいと思いますか。(数値回答)

- ✓ 宇宙関連の予算について「増やした方がよい」と思う額は全体で「5000億円以上1兆円未満」が最も高く45%。
- ✓ 男女別では、大きな差は見られない。
- ✓ 30代は50代より「5000億円以上1兆円未満」の割合が高いと言える。

※「宇宙関連予算を増やした方がよい」と回答した人ベース



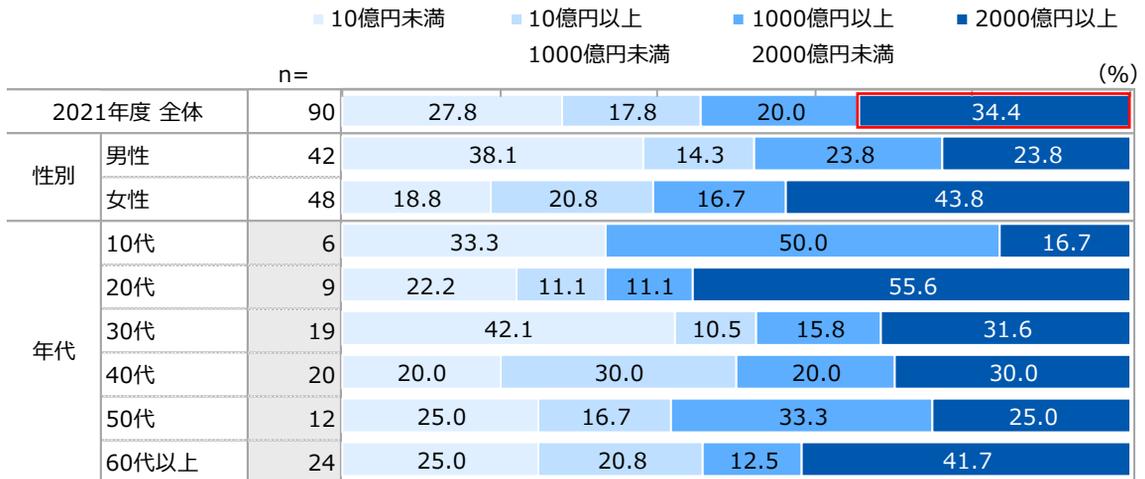
※宇宙関連の予算：約3,500億円（2019年時点）

16. 宇宙関連の予算について「減らした方がよい」と思う額

Q16 宇宙関連の予算規模について、いくらいまで減らした方がよいと思いますか。（数値回答）

- ✓ 宇宙関連の予算について「減らした方がよい」と思う額は全体で「2000億円以上」が最も高く34%。
- ✓ 男女別、スコアにばらつきはあるもののサンプル数が少ないため有意差はない。
※年代別はサンプル数が30以下のため参考値

※「宇宙関連予算を減らした方がよい」と回答した人ベース



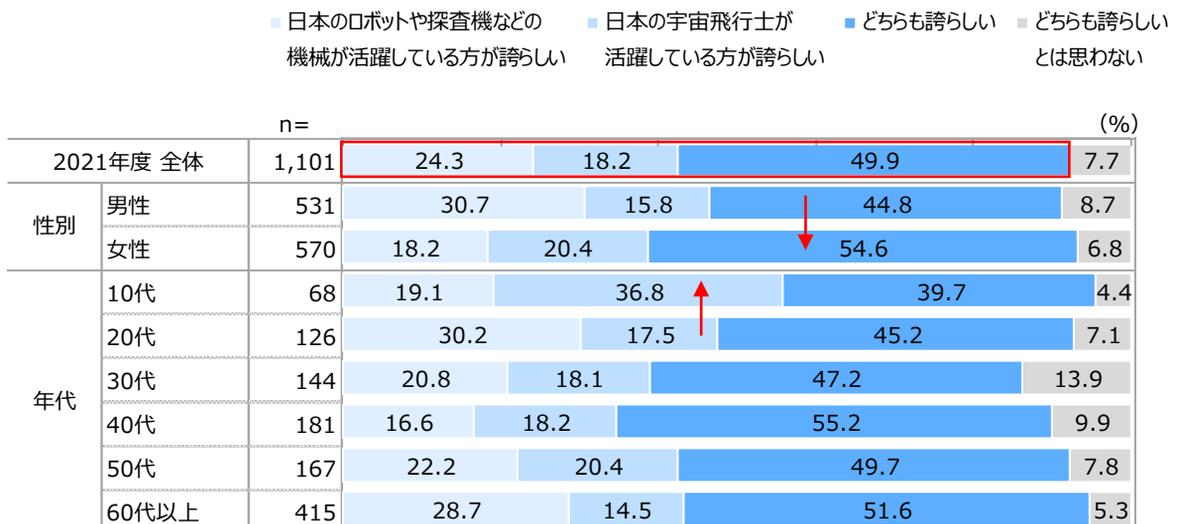
※宇宙関連の予算：約3,500億円（2019年時点）

17. 日本の「ロボットや探査機などの機械」と「宇宙飛行士」の活躍に対する考え

Q17 宇宙（国際宇宙ステーション（ISS）、月面、小惑星など）において、日本のロボットや探査機などの機械が活躍しているのと、日本の宇宙飛行士が活躍しているのでは、どちらが誇らしいですか。（単一回答）

（経年比較 Q17、p.17）

- ✓ 誇らしいと感じている人は全体の92%。
- ✓ 男女別では、男性より女性の方が「どちらも誇らしい」の割合が10pt高い。
- ✓ 「宇宙飛行士」の方が誇らしいと感じる割合は20代以上より10代で高い。



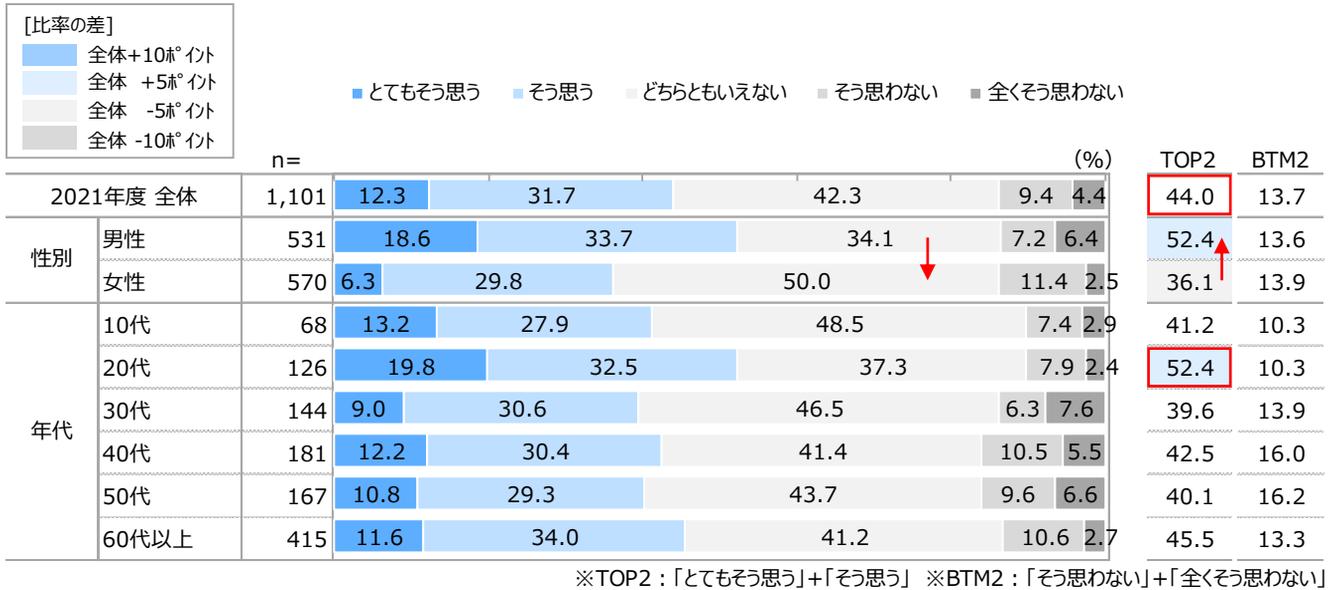
18. 有人ロケット・宇宙船の独自開発に対する考え

Q18 日本は現在、物資を輸送するロケットは持っていますが、人を乗せることができるロケットは持っていません。米国・ロシア・中国に続いて有人ロケット・宇宙船の独自開発に着手すべきだと思いますか。(単一回答)

(経年比較 Q18、p.17)

- ✓ 有人ロケットの独自開発に着手すべきだと思う人の割合は全体の44%。
- ✓ 男女別では、男性はTOP2※の割合が高く、女性は「どちらとも言えない」が高い。
- ✓ 20代は30代、50代よりTOP2の割合が高い。

n=30以上の場合

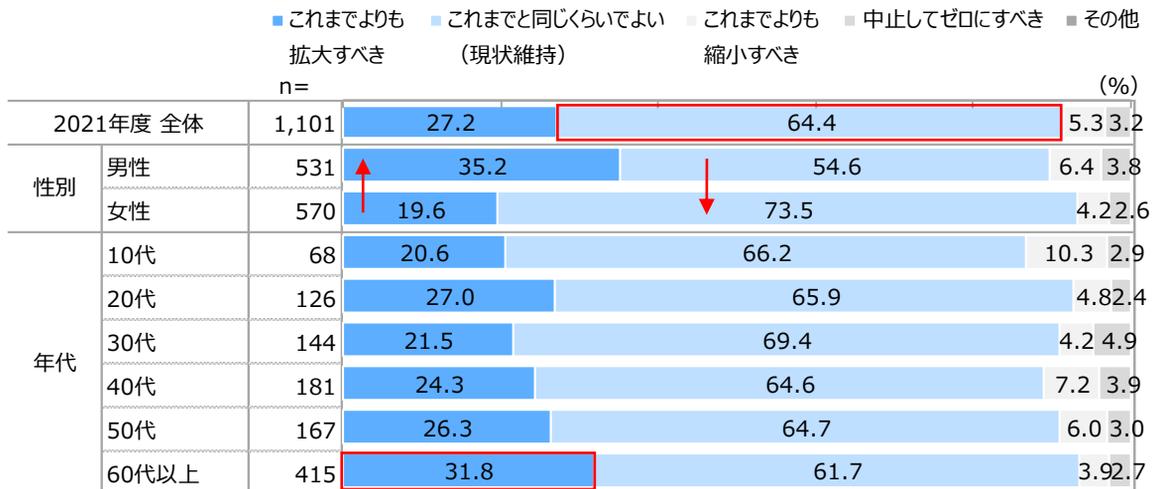


19. 有人宇宙活動の取り組みに対する考え

Q19 日本はこれまで、米国のスペースシャトルやロシアのソユーズ宇宙船を利用して、10人以上の宇宙飛行士を宇宙へ派遣してきました。今後、有人宇宙活動にどのように取り組んでいったらよいと思いますか。(単一回答)

(経年比較 Q19、p.18)

- ✓ 全体では、「現状維持」が64%と最も高く、「拡大すべき」が27%と続く。
- ✓ 男女別では、男性は「拡大すべき」の割合が高く、女性は「現状維持」の割合が高い。
- ✓ 60代以上は30代より「拡大すべき」の割合が高いといえる。



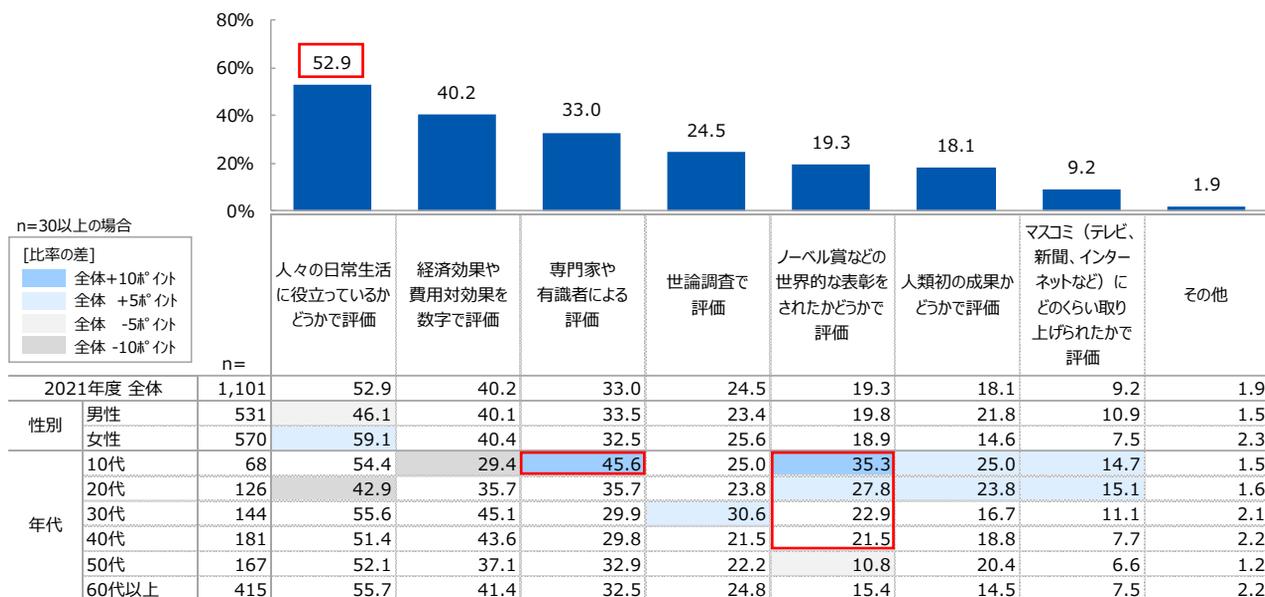
20. 宇宙政策の評価方法に対する考え

<20-1. 当てはまると思うものすべて選択>

Q20-1 国（政府）が、国民の税金などを使って行う宇宙に関する政策（宇宙政策）を、どのように評価したらよいと思いますか。

【当てはまると思うものをすべて選んでください】（複数回答）

- ✓ 「人々の日常生活に役立っているかどうかで評価」が53%でトップ。（経年比較 Q20-1、p.18）
- ✓ 「ノーベル賞などの世界的な表彰をされたかどうかで評価」では、40代以下は50代よりスコアが高く、「専門家や有識者による評価」では、10代は30代、40代よりスコアが高いといえる。



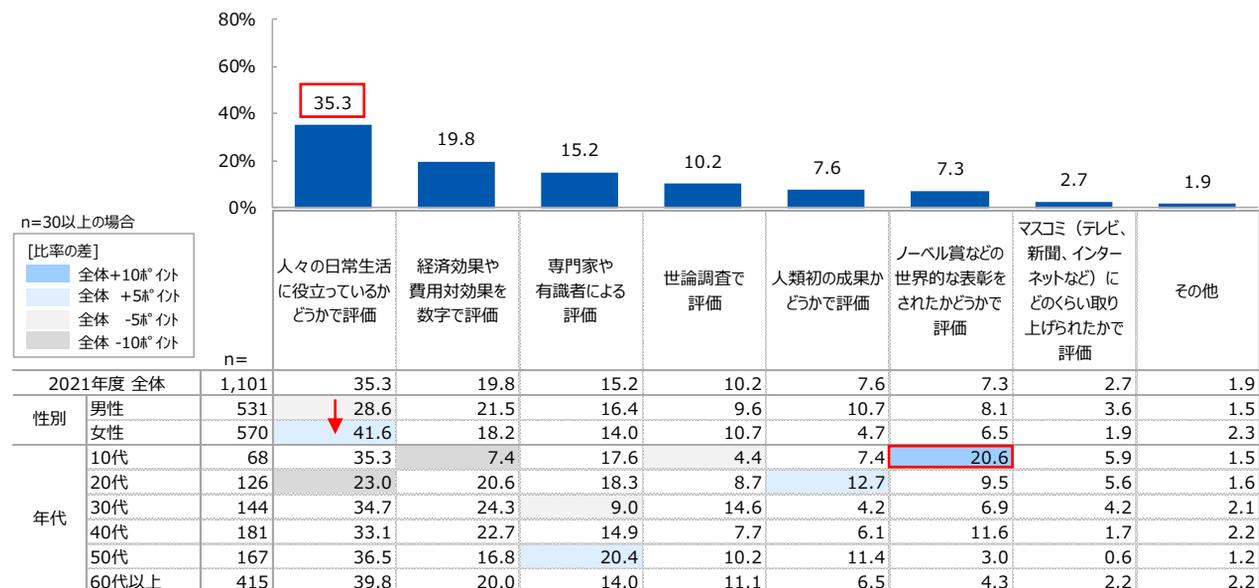
※「2021年度 全体」のスコアが大きい順

<20-2. 最も当てはまると思うものを一つ選択>

Q20-2 国（政府）が、国民の税金などを使って行う宇宙に関する政策（宇宙政策）を、どのように評価したらよいと思いますか。

【最も当てはまると思うものを一つ選んでください】（単一回答）

- ✓ 最も当てはまるものでも、「人々の日常生活に役立っているかどうかで評価」が35%でトップで、男女別でみると、女性の方が13ポイント高い。
- ✓ 「ノーベル賞などの世界的な表彰をされたかどうかで評価」では、10代は30～50代よりスコアが高いことが特徴的。



※「2021年度 全体」のスコアが大きい順

この宇宙に関するインターネット世論調査には、一般の人々が、日本の宇宙計画や宇宙活動、それに取り組んでいるJAXA、そしてそれらに関する政策（宇宙政策）に関して、どのような考えを持っているのか、さらにそうした考えに時間の経過によって変化があるのかを、できるだけ明らかにするという目的があった。

その背景には、日本の宇宙活動や宇宙政策に関する世論調査の実施は、実は数えるほどしかなく内容も限定的で、ある一定の内容に関して定期的に実施されているとは言えない状況がある。これまで政府によって、JAXAとその前身の宇宙開発事業団（NASDA）などを含めても、実施され結果を公表されているものはきわめて少なく、新聞やテレビなどによってもほとんど実施されてこなかった。

こうした状況を踏まえて、この宇宙に関するインターネット世論調査は、これまでの日本の宇宙活動や宇宙政策に関する世論調査の不足を少しでも補い、現在そして今後の日本の宇宙政策やJAXAに関する示唆を得ようとしたものである。

宇宙活動や宇宙政策は、その科学技術の専門性や経費の大きさから、それらの政策実務者（行政担当者）や研究者、民間企業、それに一部の興味や関心のある一般の人々が考えるもので、それ以外の人々にとっては新聞やテレビ、インターネットで目にすることはあっても、あまり関係のない話だったかもしれない。しかしながら、宇宙に関する科学技術が急速に発展し、日常生活の中でも宇宙利用が身近になる中で、日本の宇宙活動や宇宙政策に一般の人々の意見や考えをどのように反映させていくかが大きな課題となりつつある。この宇宙に関するインターネット世論調査が、その課題を解決していく一助になれば幸いである。

最後に、この宇宙に関するインターネット世論調査を実施し、報告書の作成にご協力いただいた株式会社マクロミルの皆様に、深くお礼を申し上げます。ありがとうございました。こうして始まった宇宙に関するインターネット世論調査の取り組みを、これからも継続発展させていきたいと考えている。

渡邊 浩崇（大阪大学COデザインセンター 特任教授）
鍛冶 一郎（大阪大学COデザインセンター 招へい研究員）
真栄城 拓也（大阪大学COデザインセンター 特任研究員）
飯田 星良（追手門学院大学地域創造学部 特任助教）

2018～2021年度 宇宙に関するインターネット世論調査報告書

2022年3月 発行

発行・監修：公共圏における科学技術・教育研究拠点（STiPS）

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-16

TEL: 06-6850-6111（大阪大学代表）

URL: <http://stips.jp>

E-mail: stips-info@cscd.osaka-u.ac.jp

調査委託先：株式会社マクロミル（調査実施・報告書作成補助）
〒108-0075 東京都港区港南2-16-1 品川イーストワンタワー11F